２０２６年度

授 業 概 要

Syllabus

埼玉東萌短期大学
幼児保育学科

目　次

基礎教養科目

基礎ゼミ…… 2
基本ゼミ…… 4
発展ゼミ…… 6
統合ゼミ…… 8
日本語表現…… 10
文学入門…… 12
心理学…… 14
日本国憲法…… 16
美術鑑賞…… 18
絵本とアート…… 20
英語コミュニケーションⅠ…… 22
英語コミュニケーションⅡ…… 24
英語コミュニケーションⅢ…… 26
情報機器演習Ⅰ…… 28
情報機器演習Ⅱ…… 30
情報メディアとコミュニケーション… 32
体育理論…… 34
体育実技…… 36

専門科目

幼児と健康Ⅰ…… 38
幼児と健康Ⅱ…… 40
幼児と環境…… 42
幼児と言葉…… 44
幼児と音楽表現Ⅰ…… 46
幼児と音楽表現Ⅱ…… 48
幼児と音楽表現Ⅲ…… 50
幼児と音楽表現Ⅳ…… 52
幼児と造形表現Ⅰ…… 54
幼児と造形表現Ⅱ…… 56
幼児と造形表現Ⅲ…… 58
幼児と造形表現Ⅳ…… 60
教職概論（保育者・教師論）…… 62
教育原理…… 64
保育原理…… 67
子ども家庭福祉…… 69
社会福祉…… 71
子ども家庭支援論…… 73
社会的養護Ⅰ…… 75
こども文化Ⅰ…… 77
こども文化Ⅱ…… 79
教育心理学…… 81
子ども家庭支援の心理学…… 83
特別支援教育…… 85
子ども理解の理論と方法…… 87
子どもの保健…… 89
子どもの食と栄養…… 91
教育課程論…… 94
保育内容総論…… 96
保育内容（健康）指導法…… 98
保育内容（人間関係）指導法…… 100
保育内容（環境）指導法…… 102
保育内容（言葉）指導法…… 104
保育内容（音楽表現）指導法…… 106
保育内容（造形表現）指導法…… 108
保育内容（身体表現）指導法…… 110
保育内容（総合表現）指導法…… 112
幼児教育方法論…… 114
乳児保育Ⅰ…… 116
乳児保育Ⅱ…… 118
子どもの健康と安全…… 120
障害児保育Ⅰ…… 122
障害児保育Ⅱ…… 124
社会的養護Ⅱ…… 126
子育て支援…… 128
教育相談…… 130
ピアノ基礎技能Ａ…… 132
ピアノ基礎技能Ｂ…… 134
ピアノ基礎技能Ｃ…… 136
レクリエーション演習…… 138
野外活動演習…… 140
保育技能Ⅰ…… 142
保育技能Ⅱ…… 144
保育・教職実践演習（幼稚園）…… 146
保育実習指導Ⅰ…… 148
保育実習Ⅰ…… 150
保育実習指導Ⅱ…… 152
保育実習Ⅱ…… 154
保育実習指導Ⅲ…… 156
保育実習Ⅲ…… 158
保育実習指導Ⅳ…… 160
保育実習Ⅳ…… 162
教育実習（幼稚園）事前事後指導Ⅰ…… 164
教育実習（幼稚園）事前事後指導Ⅱ…… 166
教育実習（幼稚園）Ⅰ…… 168
教育実習（幼稚園）Ⅱ…… 170
保育キャリア形成演習Ⅰ…… 172
保育キャリア形成演習Ⅱ…… 174
実務家教員一覧…… 176
埼玉東萌短期大学　「卒業認定・学位授与の方針」と「学習成果」及びその対応関係…… 178

基礎教養科目

科 目 名	基礎ゼミ	担当者名	前徳明子 真砂雄一 浅香勉 栗本浩二 奥恵 八田清果 浅野路子 蓮見絵里 熊上藤子 益田かな子	
ナンバリングコード	11001			
必選・単位	必修1単位	担当形態	オムニバス・複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年前期
			長期履修生	1年前期

【授業の概要】

基礎ゼミは短期大学の導入教育として実施しており、第一に短期大学で学ぶということの意味や、学生の将来への見通しと目的意識、学生として求められる生活態度など、短期大学生活に求められる人間力について自覚を促す役割を持つ。第二に、学問とは何かということ、学問的思考方法、課題の発見の導き方、立論の仕方、発表の仕方、文章による表現法など、学問的な方法の基礎を学び、自立した思考力の基礎を育成する。

【授業の到達目標】

1 学問的な“学び”の意味を理解し、学生として求められる学修方法や生活態度を理解する。

2 参加実習を通して保育の現場に触れ、子どもとの関わりを通して子どもについての理解を深める。

3 本学の建学の精神である「以愛為人」と3つの学校訓「自尊」「創造」「共生」について理解を深める。

【授業方法】

ゼミのグループ単位での活動を原則とするが、学年全体での授業、グループ合同での授業など、授業内容に応じて実施形態が異なることがある。

授業の前半では短期大学で学ぶことの意味を考え、話す技術、聴く技術、文章作法、手紙、レポートを書く技術を学ぶ。また保育現場での体験実習を通して子どもとの関わりについて学ぶ。

授業の後半では、交流会、東萌祭への企画立案に取り組み、実践を通して学修と振り返りの方法を学ぶ。短期大学での基礎を形成する科目であるので、丁寧に取り組むことを期待する。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	○	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

コメントを付記したものを返却する。あるいは、アドバイスや意見をまとめたものを全体に向けて提示する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	◎
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	◎
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	○
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	○
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	初年次教育①(授業の受け方、授業の進め方等)/ゼミ交流会	授業担当者全員
第 2 回	初年次教育②(短期大学で学ぶことの意味、年間スケジュールの説明、保育現場体験等各イベントの概要、ゼミ活動について)	授業担当者全員
第 3 回	初年次教育③(レポートの書き方等)/ボランティアについて/ゼミ担との個別相談	授業担当者全員
第 4 回	新入生交流会について/ゼミ内役割決め/個別面談	授業担当者全員
第 5 回	交流会の実施	授業担当者全員
第 6 回	交流会の実施	授業担当者全員
第 7 回	保育現場体験【半日見学実習】に向けての準備/個別面談	授業担当者全員
第 8 回	保育現場体験【半日見学実習】に向けての準備/個別面談	授業担当者全員
第 9 回	保育現場体験【半日見学実習】に向けての準備/個別面談	授業担当者全員
第 10 回	保育現場体験【半日見学実習】に向けての準備/個別面談	授業担当者全員
第 11 回	学園交流会	授業担当者全員
第 12 回	就活スタートアップ講座/前期試験について	授業担当者全員
第 13 回	東萌祭に向けたゼミ活動	授業担当者全員
第 14 回	ゼミ活動	授業担当者全員
第 15 回	東萌祭に向けたゼミ活動	授業担当者全員
定期試験	レポート試験	授業担当者全員

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋授業への取り組み(30%)＋授業内提出物(40%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド 改訂版	小櫃智子	わかば社	978-4-907270-43-8

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

保育現場体験では、保育所やこども園での半日見学実習を実施し、そのための事前事後学習を行う。お礼状、レポート作成では課題に取り組む。新入生交流会、東萌祭に向けた準備活動等においてはゼミ単位でのグループ活動を実施する。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・宿題を含めて 60 分～90 分程度が望ましい

【備考】

・授業の実施場所や集合場所が異なることがあるため、事前によく確認すること。
・研究資料等をパソコンで作成する場合には、保存用の USB メモリを各自で用意することが望ましい。

基礎教養科目

科 目 名	基本ゼミ	担当者名	前徳明子 真砂雄一 浅香勉 栗本浩二 奥恵 八田清果 浅野路子 蓮見絵里 熊上藤子 益田かな子	
ナンバリングコード	11002			
必選・単位	必修1単位	担当形態	オムニバス・複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年後期
			長期履修生	1年後期

【授業の概要】

本学の基本段階で身に付けるべき学修課題の修得を目指し、学修を中心とした自立的な生活習慣を確立するための課題に取り組む。行事への取り組みを通してゼミのメンバーと協力しながら主体的に学修を行う姿勢を培う。また教育実習、保育実習で得られる実践知を学問知、技法知と結びつけることで、より豊かな実践力をはぐくんでいくことを目指す。今後に向けて就職活動の概要を知り、卒業後の進路選択に向けて意識を高める。

【授業の到達目標】

1 学修を中心とした自立的な生活習慣を確立し、行事への取り組みを通して企画・立案・実施・活動評価を実施する。

2 幼稚園と保育園の実習で学んだことを再確認することで幼稚園教諭や保育士としての使命を自覚し、職業としての理解を深める。

3 卒業後の進路選択に向けて働くことの意義を理解し、就職活動に必要なスキルを身につける。

【授業方法】

ゼミのグループ単位での活動を原則とするが、学年全体での授業、グループ合同での授業など、 授業内容に応じて実施形態が異なることがある。東萌祭やハロウィンイベント、クリスマスイベント等の行事への取り組みを通して、企画・立案・実施・活動評価の取り組みを行い、実践から学ぶ手法を身につける。こうした取り組みを通して、教育実習、保育実習にもつなげていけるようにする。また自らの学習活動を振り返るため、履修カルテや短期大学生調査等を活用し、就職活動と連動させながら将来のキャリアプランを考える。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

コメントを付記したものを返却する。あるいは、アドバイスや意見をまとめたものを全体に向けて提示する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	○
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	◎
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	○
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	○
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	後期オリエンテーション/図書館イベントに向けて(説明)/東萌祭に向けた準備①	授業担当者全員
第 2 回	東萌祭に向けた準備②/図書館イベントの準備	授業担当者全員
第 3 回	東萌祭に向けた準備③/図書館イベントの準備	授業担当者全員
第 4 回	東萌祭に向けた準備④/図書館イベントの準備	授業担当者全員
第 5 回	東萌祭に向けた準備⑤/図書館イベントの準備	授業担当者全員
第 6 回	東萌祭の実施①	授業担当者全員
第 7 回	東萌祭の実施②	授業担当者全員
第 8 回	第 1 回就職対策講座	授業担当者全員
第 9 回	図書館イベントの準備	授業担当者全員
第 10 回	図書館イベントの実施	授業担当者全員
第 11 回	図書館イベントの振り返り	授業担当者全員
第 12 回	就職講演会	授業担当者全員
第 13 回	後期試験について/「短期大学生調査」の実施/ゼミ面談	授業担当者全員
第 14 回	第 2 回就職対策講座	授業担当者全員
第 15 回	第 2 回就職対策講座	授業担当者全員
定期試験	レポート試験	授業担当者全員

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋授業への取り組み(30%)＋授業内提出物(40%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド 改訂版	小櫃智子	わかば社	978-4-907270-43-8

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

東萌祭に向けた準備活動や東萌祭当日の活動にあたってはゼミのメンバーと協力して準備学習を行う。またそれ以外のイベントに向けた活動でも事前事後学習を行う。その他、各自で自立的な生活習慣を身に着けるための活動を実施する。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・宿題を含めて 60 分～90 分程度が望ましい

【備考】

・授業の実施場所や集合場所が異なることがあるため、事前によく確認すること。
・研究資料等をパソコンで作成する場合には、保存用の USB メモリを各自で用意することが望ましい。

基礎教養科目

科 目 名	発展ゼミ	担当者名	前徳明子 真砂雄一 浅香勉 栗本浩二 奥恵 八田清果 浅野路子 蓮見絵里 熊上藤子 益田かな子	
ナンバリングコード	11003			
必選・単位	必修1単位	担当形態	オムニバス・複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	3年前期

【授業の概要】

発展ゼミでは、短期大学の卒業年次生としての自覚を持ち、卒業・就職までの流れをつかむ。学修、実習、就職活動のスケジュールを自己管理し、社会人力を養うことを目標に取り組む。実際には、乳幼児、障害児・者、社会的養護を必要とする子ども、保護者と対象にあわせた支援方法を学ぶ。ゼミ活動を通して、保育力・指導力を高める。

【授業の到達目標】

1 学修、実習、就職活動のスケジュールを自己管理し、社会人力(コミュニケーション能力、対人関係能力、協調性など)を養う。

2 保育の理論と技術の総合的な体験を通して多用な対象者の理解と支援の方法について理解を深める。

3 自己の特性を理解し、どのような保育者になりたいのか目標を見出す。

【授業方法】

ゼミのグループ単位での活動を原則とするが、学年全体での授業など、授業内容に応じて実施形態が異なることがある。 保育の理論と技術の総合的な体験を通して学ぶ。さらには、多用な対象者の理解と支援の方法について理解を深める。 新入生を迎え、学校行事、学友会、クラブ活動などにおいて、リーダーシップを発揮する。また、ゼミ活動を通して、自己の特性を理解し、どのような保育者になりたいかの目標を見い出す。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	○	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

コメントを付記したものを返却する。あるいは、アドバイスや意見をまとめたものを全体に向けて提示する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	○
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	オリエンテーション（ゼミ研究のテーマについて、キャリア支援について）、ゼミ活動	授業担当者全員
第 2 回	ゼミ活動（ゼミ長等役割分担決め）/交流会の説明/個別面談	授業担当者全員
第 3 回	交流会の実施	授業担当者全員
第 4 回	ゼミ活動/個別面談	授業担当者全員
第 5 回	ゼミ活動/個別面談	授業担当者全員
第 6 回	ゼミ活動/個別面談	授業担当者全員
第 7 回	学園交流会	授業担当者全員
第 8 回	東萌祭準備（概要説明）	授業担当者全員
第 9 回	就職直前講演会	授業担当者全員
第 10 回	東萌祭準備	授業担当者全員
第 11 回	ゼミ活動/キャリア支援	授業担当者全員
第 12 回	ゼミ活動/キャリア支援	授業担当者全員
第 13 回	ゼミ活動/キャリア支援/前期試験について	授業担当者全員
第 14 回	ゼミ活動/キャリア支援	授業担当者全員
第 15 回	東萌祭準備	授業担当者全員
定期試験	レポート試験	授業担当者全員

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋授業への取り組み(30%)＋授業内提出物(40%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド 改訂版	小櫃智子	わかば社	978-4-907270-43-8

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

ゼミ担当教員の指導のもとで調査活動や資料の準備など、各自で自主的な学習を進めること。交流会に関しては、他のゼミのメンバーとも協力して準備学習を行うことを通して経験を深める。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・宿題を含めて 60 分～90 分程度が望ましい

【備考】

・授業の実施場所や集合場所が異なることがあるため、事前によく確認すること。
・研究資料等をパソコンで作成する場合には、保存用の USB メモリを各自で用意することが望ましい。

基礎教養科目

科 目 名	統合ゼミ	担当者名	前徳明子 真砂雄一 浅香勉 栗本浩二 奥恵 八田清果 浅野路子 蓮見絵里 熊上藤子 益田かな子	
ナンバリングコード	11004			
必選・単位	必修1単位	担当形態	オムニバス・複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年後期
			長期履修生	3年後期

【授業の概要】

本学の『実践力のある保育者へのみちすじ』で示されている、短期大学の学習の4つの段階の最終段階にあたる統合段階のゼミ活動として、これまでの学修全体を振り返る機会とする。行事への取組を通して下級生と協力しながら学修を進める姿勢を培い、具体的な就職活動指導とゼミ研究活動を通して、将来の就職先でさらに実践力を高めていくことができるように、自らの課題を発見していくことを目指す。

【授業の到達目標】

1 グループ活動を通して学問的な研究方法や研究倫理についての考え方を実践的に学ぶ。

2 学生生活全体を振り返り、卒業後の課題とそれに向けての取り組みを自覚する。

3 保育者としての職務や社会的使命について理解を深め、卒業後のキャリア形成について見通しを持つ。

【授業方法】

ゼミのグループ単位での活動を原則とするが、学年全体での授業、合同での授業など、授業内容に応じて実施形態が異なることがある。東萌祭等の行事への取り組みを通して、上級生としての企画・立案・実施・活動評価の取り組みを行い、実践から学ぶ手法を確認する。また、ゼミ活動を通して具体的な就職活動支援を行い、将来のキャリアプランを明確化する。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	○	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

コメントを付記したものを返却する。あるいは、アドバイスや意見をまとめたものを全体に向けて提示する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	◎
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	◎

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	後期オリエンテーション/東萌祭に向けた準備①	授業担当者全員
第 2 回	東萌祭に向けた準備②	授業担当者全員
第 3 回	東萌祭に向けた準備③	授業担当者全員
第 4 回	東萌祭に向けた準備④	授業担当者全員
第 5 回	東萌祭に向けた準備⑤	授業担当者全員
第 6 回	東萌祭の実施①	授業担当者全員
第 7 回	東萌祭の実施②	授業担当者全員
第 8 回	ゼミ活動(研究・実践)/キャリア支援	授業担当者全員
第 9 回	ゼミ活動(研究・実践)/キャリア支援	授業担当者全員
第 10 回	ゼミ活動(研究・実践)/キャリア支援	授業担当者全員
第 11 回	ゼミ活動(研究・実践)/キャリア支援	授業担当者全員
第 12 回	ゼミ活動(研究・実践)/キャリア支援	授業担当者全員
第 13 回	ゼミ活動(研究・実践)/キャリア支援/後期試験について	授業担当者全員
第 14 回	ゼミ活動発表会①	授業担当者全員
第 15 回	ゼミ活動発表会②	授業担当者全員
定期試験	レポート試験	授業担当者全員

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋授業への取り組み(30%)＋授業内提出物(40%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド 改訂版	小櫃智子	わかば社	978-4-907270-43-8

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

東萌祭に向けた準備活動や東萌祭当日の活動にあたっては、他のゼミのメンバーとも協力して準備学習を行うほか、1 年生のゼミ活動と連動し、後輩の指導に当たることを通して経験を深める。またゼミ研究発表会に向けて、ゼミ担当教員の指導のもとで調査活動や資料の準備など、各自で自主的な学習を進めること。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・宿題を含めて 60 分～90 分程度が望ましい

【備考】

・授業の実施場所や集合場所が異なることがあるため、事前によく確認すること。
・研究資料等をパソコンで作成する場合には、保存用の USB メモリを各自で用意することが望ましい。

基礎教養科目

科 目 名	日本語表現	担当者名	原田　桂	
ナンバリングコード	12002			
必選・単位	選択2単位	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年前期／2年前期
			長期履修生	1年前期／2年前期／3年前期

【授業の概要】

保育の現場において、正確かつ的確に用件を文章化する能力や伝達する対話力は必要不可欠である。そこで、基礎的な文章のルールを確認しつつ、明確に表現するための日本語表現能力の向上を目指す。さらに、論理的思考を用いて文章の構造やテーマを探る読解力を磨き、それを自らの文章によって表現できるようにする。

【授業の到達目標】

1　日本語能力の基本的なスキルを伸長させ、正しい日本語能力を育てる。
2　国語の本質的機能を理解し、目的に応じた文章表現ができるようにする。
3　文章表現活動を通じて日本文化の特徴を理解し、思考と想念の深まりを目指す。
4　様々なシーンに対応できる敬語表現を習得し、正確にやりとりができる対話力を身につける。
5　文章表現の基盤となる発想とボキャブラリーの拡充を図る。

【授業方法】

【講義・演習】「読む／書く」「聞く／話す」ことを主軸とし、目的や条件に応じた文章作成を反復しながら行う演習と、基礎的な文章表現のルールを講義形式で確認する。
【課題・提出物】授業内での課題や提出物は、その都度、添削や講評したのち返却し、問題点を指摘する方法で授業を進めていく。
【小クイズ】文章読解・作成能力検定（準2級・2級）、ビジネス文書検定など、実用的な検定の紹介も兼ねて、5 分程度の簡単な小クイズに取り組む。（予習として事前に出題範囲は配付する。）

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	―	―	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

添削及びコメントを付した課題・提出物は次週返却し、解説する。また無記名にして様々な解答パターンを紹介し共有する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	◎
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	【概論①】「言語」とは何か？	原田
第 2 回	【概論②】「悪文」と何か？	原田
第 3 回	【基本構文①】(直接話法と間接話法)(話し言葉と書き言葉)特色と違い	原田
第 4 回	【図化⇔文章化①】(表示と表現)(説明と描写)(事実と意見)特色と違い	原田
第 5 回	【図化⇔文章化②】表、図、グラフの作成・4コマ漫画の挿入	原田
第 6 回	【基本構文②】要約の重要性・ポイント・練習問題	原田
第 7 回	【基本構文③】要約文実践	原田
第 8 回	【表現演習①】噛み砕き表現・やさしい表現・オブラート(配慮)表現	原田
第 9 回	【表現演習②】褒める表現・婉曲的なダメ出し表現	原田
第 10 回	【ビジネス文書】お知らせ文	原田
第 11 回	【敬語】実用敬語・冠婚葬祭マナー	原田
第 12 回	【レポートのルール①】書き方の基本・メモの取り方	原田
第 13 回	【レポートのルール②】文献名の書き方・引用の仕方	原田
第 14 回	【レポート実践①】構成・問題提起・テーマ展開	原田
第 15 回	【レポート実践②】講評	原田
定期試験	レポート試験	原田

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(40%) ＋ 提出物(40%) ＋ 授業への取り組み(20%) ＝ 合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼児教育系学生のための日本語表現法	久保田英助／ 大岡紀里子	東信堂	978-4-7989-1561-6

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

・前週の復習と定着を兼ねて、毎週、簡単な小クイズを行うので予習・復習すること。 ・配付物が多いので、プリントの整理をすること。
標準学修時間の目安:予習・復習を含めて 30 分程度が望ましい。

【備考】

すぐに AI や検索ソフトに頼るのではなく、自己の思考を大切にすること。

基礎教養科目

科 目 名	文学入門	担当者名	原田　桂	
ナンバリングコード	12004			
必選・単位	選択2単位	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年前期／2年前期
			長期履修生	1年前期／2年前期／3年前期

【授業の概要】

人には誰でも子どもの時代がある。人間形成にとって、特に子ども時代において「何を見て、どのように感じるのか」というプロセスは非常に重要であるだろう。文学というものは、そのプロセスを体現させてくれるものであり、自己の内面を見つめるきっかけともなる。本講義では、幼児や児童が親しむ昔話や説話の変遷を通じて、子どもを取り巻く時代や社会の変遷にも目を向け、文学作品に描かれる様々な人間の物語を読み解いていく。またアニメーションや映画など、文学に隣接するジャンルも含め、子どもはもちろんのこと、人間とは何かを考えていきたい。

【授業の到達目標】

1　文学教材を利用して現代の子どもや家族を取り巻く社会の実相を理解する。
2　文学鑑賞を通して人物の観察眼を養い、作品そのものの魅力を感得する。
3　文学教材を利用して気づき、考え、意見をもつ機会を得る。
4　ジャンルを問わない幅広い読書習慣を身につける。
5　媒体の違った表現（文学・映像等）から論点を導き出し、それを文章化して他者へ正確に伝える文章能力を身につける。

【授業方法】

【講義・演習】先入観にとらわれることなく、まずは作品に触れ、そこから感じ取る力を養うための講義を軸とする。さらに演習として実際に作品を読む、または鑑賞して作品のテーマや問題点などの考察をミニッツペーパーとして提出してもらう。昔話や現代小説、漫画やアニメーション、ドラマや映画など、取り上げる作品についてはプリントやパワーポイント、動画などを用いる。また、取り上げてほしい作品のリクエストも受け付ける。
【課題・提出物】ミニッツペーパーを参考に講評や議論へと展開させる。
【制作】様々な活字媒体から自分の好きな作品（絵本も含む）を選んで、書評や図書POPの作成にも取り組む。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	―	―	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

提出したミニッツペーパーなどにコメントを付して次週配付し共有する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	◎
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	△
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	昔話の変遷 ―「桃太郎」を読む	原田
第 2 回	村上春樹と児童文学① ―村上春樹の翻訳絵本を読む	原田
第 3 回	村上春樹と児童文学② ―村上春樹の絵本を読む	原田
第 4 回	小説『マザコン』(角田光代) 母と息子／母と娘	原田
第 5 回	講評・議論①(大人になった「子ども」と家族)	原田
第 6 回	アニメーション(新海誠監督作品) 成長と社会	原田
第 7 回	講評・議論②(大人になっていく「子ども」と社会)	原田
第 8 回	アニメーション「象の背中」(秋元康・原作) ／ 「スカイクロラ」(押井守監督)	原田
第 9 回	キャッチコピーの集計と講評	原田
第 10 回	小説「とんかつ」(三浦哲郎) ／ アニメーション「ミノタウロスの皿」(藤子・F・不二雄)	原田
第 11 回	図書POPとは―その効果と作品鑑賞	原田
第 12 回	図書POP広告作成①	原田
第 13 回	図書POP広告作成②	原田
第 14 回	図書POP広告作成③	原田
第 15 回	書評・POP講評	原田
定期試験	レポート試験	原田

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(40%) ＋ 提出物(40%) ＋ 授業への取り組み(20%) ＝ 合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
アプローチ児童文学	関口安義	翰林書房	978-4-87737-257-6
物語の言語学 語りに潜むことばの不思議	甲田直美	ひつじ書房	978-4-8234-1202-8

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

・事前に配布するテキストや、紹介した参考文献は必ず読んでおくこと。
・配布物が多いので、プリントの整理をすること。

標準学修時間の目安:予習・復習を含めて 30 分程度が望ましい。

【備考】

「子ども」が登場する、または関連する本を中心に、日頃から本を読む習慣を身につけること。

基礎教養科目

科 目 名	心理学	担当者名	浅野路子	
ナンバリングコード	12003			
必選・単位	選択2単位	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	1年後期／2年後期
			長期履修生	1年後期／2年後期 ／3年後期

【授業の概要】

心理学の基礎を学ぶことで、心理学理論による人の理解とその技法の基礎、人の成長・発達と心理との関係、日常生活と心の健康との関係、心理的支援の方法と実際などについて理解することを目的とします。今後、さまざまな専門を学ぶ上での土台となる教養として、また、人間の理解と援助に貢献できる人間となるための学びの入り口となる、「科 学的な人間理解」のための知識と考えを身につけることを目指します。

【授業の到達目標】

1 人間の心や行動を理解するための基礎的な知識を持つ。

2 人間を理解するための科学的な姿勢と視点を持つ。

3 人間の心や行動について臨床心理学的視点を持つ。

4 人間の心と脳の関係について神経心理学的視点を持つ。

【授業方法】

授業はプリントを配布し、PowerPoint のスライドで進めていきます。また、実験や心理テストを体験したり、調査を実際に行ったりします。

プリントと PowerPoint は、必ずしも一対一対応しているわけではありませんので、考えながらメモを取って下さい。 スライドの内容を書き込んで穴埋めをするだけではなく、先生が話したこと、自分なりに考えたことなどもどんどんメモしていくことが必要です。その際、予習で読んできた内容と結びつけながら授業を聞き、ノートを取ると良いでしょう。また、授業中に発言を求められる機会もありますので、進んで手を挙げて発言することが求められます。発言を求められていない場面でも、疑問がある場合や自分の意見を言いたいときには、挙手をして発言して下さい。発言は、自分にとってももちろんためになるものですが、一緒に授業を取っている他の学生にとっても有意義になるはずです。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	○	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で考えたこと疑問に思ったことをリアクションペーパーに記入してもらいます。全体で共有すべき内容については授業内で取りあげます。また、必要に応じて個別にコメントを返す場合もあります。小テストについては、解答・解説を行いますので、間違えたところはしっかり復習し、確かな知識としてください。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	◎
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	○
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	心理学とは−歴史と方法	浅野
第 2 回	心の進化−動物としての人間	浅野
第 3 回	心の発達−乳幼児期の心理	浅野
第 4 回	ライフサイクルと青年期−自分を見つめる	浅野
第 5 回	動機付け−人を動かすもの	浅野
第 6 回	性格−その人らしさとは	浅野
第 7 回	ストレスとメンタルヘルス−ストレスをどのように乗り越えるか	浅野
第 8 回	カウンセリングと心理療法−心の危機を乗り越える	浅野
第 9 回	知能とは−「頭が良い」とはどういうことか	浅野
第 10 回	脳と心−心の生物学的基礎	浅野
第 11 回	感覚・知覚	浅野
第 12 回	記憶・学習	浅野
第 13 回	思考−論理と直感	浅野
第 14 回	脳損傷と心の働き−失認・失語・健忘の症例に学ぶ	浅野
第 15 回	心と社会−協調と信頼	浅野
定期試験	レポート試験	浅野

【成績評価の方法・基準】

レポート試験(40%)＋課題及び小テスト(30%)＋授業への積極的参加(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
はじめて出会う心理学 第3版	長谷川寿一／東條正城	有斐閣	978-4-641-221451

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

授業に参加するにあたって、あらかじめ、該当するテキストページをよく読んできてください。そして、考えたことや疑問に思ったことをまとめておくと良いでしょう。また、ノートをまとめたり、あらためてテキストを読み返すなど、復習は早めに行いましょう。その過程であらためてわからないところがあれば、遠慮せずに担当教員に聞いてください。

標準学修時間の目安：予習 30 分、復習 60 分程度が望ましい。

【備考】

基礎教養科目

科 目 名	日本国憲法	担当者名	中島　福治	
ナンバリングコード	12005			
必選・単位	選択2単位（幼2免必修）	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	2年前期

【授業の概要】

本科目は、社会人となる直前期の教養科目として、日本国憲法の基本原理を理解し、基礎的な知識を習得することを目標とする。人権に関する規定と統治に関する規定をバランスよく学ぶことで、主権者意識を高め、日本国憲法をより身近なものとして定着させていく。また、保育者としてふさわしい資質を身につけた人材の育成に資するために、現代社会で起こっている特徴的な話題を適宜提供しながら、授業を進めていく。

【授業の到達目標】

1　憲法上の基礎知識・学習方法、及び、（憲）法学的なものの考え方を習得し、それらを用いて、身近なものからそうでないものまで、いくつかの社会現象に基本的分析を施すことができる。

2　講義で扱った主要な憲法学上のテーマについて、憲法学上の基本知識（概念、学説、判例など）を論述し、かつ、その当否を検討することができる。

【授業方法】

レジュメ等を配付し、原則として講義形式で行う。
・講義の内容によっては、小テストを行うことがある。
・リアクションペーパーの提出を求めることがある。
・授業の進度や履修者の理解度等により、授業内容を変更することがある。
・定期試験を行う。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	―	―	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

・提出物がある場合は、次回以降の講義において、総括する。
・発表等がある場合は、発表等の後に、ディスカッション等を行い、自分なりにまとめてもらうことがある。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	△
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	◎
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	△
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	○
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	ガイダンス 憲法の概要	中島
第 2 回	日本国憲法の歴史	中島
第 3 回	国民主権と象徴天皇制	中島
第 4 回	平和主義	中島
第 5 回	基本的人権の尊重と公共の福祉	中島
第 6 回	包括的基本権(幸福追求権と法の下の平等)	中島
第 7 回	精神的自由権Ⅰ(思想・良心の自由、信教の自由)	中島
第 8 回	精神的自由権Ⅱ(表現の自由、学問の自由)	中島
第 9 回	経済的自由権(職業選択の自由、財産権)	中島
第 10 回	人身の自由(適正手続きの保障、被疑者・被告人の権利)	中島
第 11 回	社会権(生存権、教育を受ける権利、勤労の権利)	中島
第 12 回	参政権と国務請求権	中島
第 13 回	統治機構(国会、内閣、裁判所)	中島
第 14 回	統治機構(地方自治)、憲法改正	中島
第 15 回	まとめ:憲法理解に基づく保育実践のあり方	中島
定期試験	筆記試験	中島

【成績評価の方法・基準】

定期試験(筆記)(50%)＋提出物、小テスト等による諸活動の到達度(50%)＝100%とし、積極性や主体性等の観点も取り入れて、総合評価を行う。

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
グラフィック憲法入門　第3版	毛利透	新世社	987-4-88384-397-8

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

・授業前に準備しておくことは特になし。
・授業後には、テキスト関連箇所を読むとともに、参考となる文献や問題集を探し当て、理解を深める。

標準学修時間の目安:1回の授業あたり、予習復習を含めて 120 分程度が望ましい。

【備考】

授業に関心が持てない場合でも、周囲を意識した態度や行動をとり、学習環境の維持に努めてください。

基礎教養科目

科 目 名	美術鑑賞 2026 年度　開講科目 2027 年度　開講しません	担当者名	栗本　浩二	
ナンバリングコード	12001			
必選・単位	選択2単位	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	1年後期／2年後期
			長期履修生	1年後期／2年後期／3年後期

【授業の概要】

美術史を中心にそれぞれの時代を代表的する作品を取り上げ、作品名、制作者、制作年代等の基礎的な知識を修得する。また、作品の意図や技法および時代背景を考える。さらに作品の魅力を味わい、鑑賞する楽しさを体験する。作品と歴史の関係についても取り上げる。

【授業の到達目標】

1　美術作品を鑑賞することで知識・教養を身につける。

2　美術家の思考を考察することで豊かな感性を知る。

3　美術史を通して世界の美術に興味関心をもつ。

【授業方法】

授業方法は講義形式で行い、講義ごとに美術家（画家、彫刻家等）の作品をとり上げ、美術作品や制作の背景、歴史などを画像や映像と交えて解説する。授業等で使用するテキストなどは随時配付する。予習の課題レポートをもとに授業展開する。また、講義以外に、美術館等で行われる展覧会のレポート課題に取り組む。そのレポートをもって試験とする。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	―	―	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

リアクションペーパーについては返却指導を実施する

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	◎
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	○
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	授業について　美術史とは　取り上げる画家(美術家)について	栗本
第 2 回	ラスコーの壁画について	栗本
第 3 回	キリスト教美術について	栗本
第 4 回	ルネサンス期イタリア絵画について	栗本
第 5 回	バロック美術の画家について	栗本
第 6 回	印象派について	栗本
第 7 回	後期印象派(ポスト印象派)の画家について1	栗本
第 8 回	後期印象派(ポスト印象派)の画家について2	栗本
第 9 回	アール・ヌーヴォーについて	栗本
第 10 回	キュビズム(立体派)の画家について	栗本
第 11 回	エコール・ド・パリの画家について	栗本
第 12 回	シュルレアリズムの画家について	栗本
第 13 回	20 世紀の画家・美術家について	栗本
第 14 回	20 世紀の画家・美術家について	栗本
第 15 回	現代の画家・美術家について	栗本
定期試験		栗本

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(50%)＋授業態度(積極性)(50%)＝合計(100%

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
西洋美術史　増補新装　カラー版	高階秀爾	美術出版社	978-4-568-40064-9

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

授業で取り上げる時代の画家や作品について簡単な予習を行うこと。また、絵画や授業で得られた美術の知識を各自で発展させ、美術館で作品鑑賞をおこない幅広い教養を身に付けること。

標準学修時間の目安:標準学修時間の目安:予習・復習・宿題を含めて 60 分程度が望ましい。

【備考】

基礎教養科目

科 目 名	絵本とアート*	担当者名	前徳明子* とよたかずひこ* 奥恵* 浅野路子 八田清果	
ナンバリングコード	12006			
必選・単位	選択1単位	担当形態	オムニバス・複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1 年後期
			長期履修生	1 年後期

【授業の概要】

「児童文化の歴史的背景などの基礎的知識を理解し、子どもの成長や発達に重要な影響を与えていることを学ぶ。絵本の制作やおもちゃを使った遊びの体験を通じて、児童文化財の魅力を探り、美術表現の意義を考える。さらに、作品の意図や技法について考え、美術館を見学することで魅力を味わい、鑑賞する楽しさを体験する。

【授業の到達目標】

1 絵本を実際に作りながら、絵本の知識と創作技法を習得する。

2 制作を踏まえて、絵本が子どもに及ぼしている影響について理解を深める。

3 児童文化財の魅力を探り、美術表現の意義を学ぶ。

【授業方法】

授業はすべて集中講義形式で実施する。実務家教員（絵本作家・紙芝居作家・保育者の経験）から、児童文化財やおもちゃに関する具体的な説明やその実践の仕方、ポイントなどについて講義や演習を行う。絵本製作の他におもちゃ美術館や絵本の美術館への見学も行う。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

美術館を見学した感想の提出後に、実務家教員からコメントをフィードバックする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	◎
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	○
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	授業オリエンテーション／児童文化財について	前徳・奥
第 2 回	絵本の美術館①見学準備	前徳・八田
第 3 回	絵本の美術館②見学	前徳・八田
第 4 回	絵本の美術館③見学	前徳・八田
第 5 回	絵本の美術館④学びの振り返り	前徳・八田
第 6 回	絵本製作①	とよた・前徳・奥
第 7 回	絵本製作②	とよた・前徳・奥
第 8 回	作品紹介と講評①	とよた・前徳・奥
第 9 回	作品紹介と講評②	とよた・前徳・奥
第 10 回	おもちゃ美術館①見学準備	八田・浅野
第 11 回	おもちゃ美術館②見学	八田・浅野
第 12 回	おもちゃ美術館③見学	八田・浅野
第 13 回	おもちゃ美術館④学びの振り返り	八田・浅野
第 14 回	美術館見学発表準備	前徳・奥
第 15 回	美術館見学発表	前徳・奥
定期試験	レポート試験	前徳・奥

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(40%)＋授業内発表(30%)＋授業内提出物(30%)＝合計(100%

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
紙芝居百科	紙芝居文化の会	童心社	978-4-494-01400-2

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

事前に見学先の美術館について調べておく。日頃から、絵本やおもちゃなどの児童文化財に触れておくことが望ましい。

標準学修時間の目安:：予習・復習・準備学習を含めて 30 分程度が望ましい

【備考】

美術館見学に伴う交通費、入館料実費は学生負担となる。

基礎教養科目

科 目 名	英語コミュニケーションⅠ*	担当者名	グルンデル　教子*	
ナンバリングコード	13001			
必選・単位	必修1単位	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年前期
			長期履修生	2年前期

【授業の概要】

保育に関する英語コミュニケーションの基本を身に付けることを目的とする。その方法として、英語の発音の学習を通じ、スピーキングとリスニングの土台を作る。特に、発音については子音の発音記号について学び、言い方や聞き分け方法を反復練習する。また英語を母国語とする園児との会話の場面で出てきやすい表現や文法を実践する。

【授業の到達目標】

1　英語の基礎とコミュニケーションの基礎について学ぶ。

2　英語の4つの技能の中で、特に話す能力・コミュニケーション能力を高める。

3　他者と協調して課題をこなしてゆくことの大切さを知る。

【授業方法】

授業の前半部分は、英語の発音について講師が解説したうえで、音源やもしくは講師の後について発音の練習をする。後半部分は保育現場でよくつかわれる英語に関するテキストをクラス全体で読み進めながら、個人で課題を解く時間を交え、実践的な英語コミュニケーションについて学習する。短期海外留学を何度か経験し英語で保育士として働いてきた実務家教員が保育実践で活かせる英語学習法を伝える。

前半部分:テキスト「やさしい英語の発音」を見ながら、講師が新しい発音記号の解説を行う。次にクラス全員で、音源を聞きながら発音の反復練習を行う。

後半部分:テキスト「Speaking of Childcare」をクラス全体で読み進めながら、文法問題や様々なアクティビティを行う。様々なアクティビティの問題については個人もしくはグループ課題を解く問題を設けた後に、クラス全体で解答を確認する。

単語の小テストを行うが、そのあと教員を含め、英語の保育園で使用される歌をみんなで一緒に学ぶ予定です。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	―	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストは Google Classroom で行いますが、小テストについて質疑応答を設けます。授業の合間に習った歌の中で聞き取れた発音や印象に残ったフレーズについても伺いたいと思います。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	○
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	△
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	授業の進め方について、i:の発音、 Unit 1 What's your name?	グルンデル
第 2 回	p & b の発音、Unit 2 Where are you from? 小テスト	グルンデル
第 3 回	t & d の発音、Unit 3 Good morning! 小テスト	グルンデル
第 4 回	k & g の発音、Unit 4 Are you OK? 小テスト	グルンデル
第 5 回	f & v の発音、Unit 5 What are you doing? 小テスト	グルンデル
第 6 回	θ & ð の発音、Unit 6 How are you feeling? 小テスト	グルンデル
第 7 回	h の発音、Unit 7 What's she like?小テスト	グルンデル
第 8 回	s & z の発音、Unit 8 Do's and don'ts 小テスト	グルンデル
第 9 回	ʃ & ʒ の発音、Unit 9 Let's eat lunch! 小テスト	グルンデル
第 10 回	ʧ & ʤ の発音、Unit 10 What do you want to do? 小テスト	グルンデル
第 11 回	m の発音、Unit 11 What do you have to do? 小テスト	グルンデル
第 12 回	n& ŋ の発音、Unit 12 I need to go potty	グルンデル
第 13 回	l の r 発音、Unit 13 Good job!	グルンデル
第 14 回	プレゼンテーション Part 1 Unit 14 Injuries and emergencies	グルンデル
第 15 回	プレゼンテーション Part 2 Unit 15 We're going to go outside	グルンデル
定期試験	筆記試験	グルンデル

【成績評価の方法・基準】

定期試験:筆記試験 50%+プレゼンテーション 30%+小テスト 20%＝合計 100%

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
やさしい英語の発音 改訂版	原岡笙子	語研	978-4-87615-332-9
Speaking of Childcare 保育学生のための英語コミュニケーション	ピーター・ビンセント／中里菜穂子	南雲堂	978-4-523-17883-5

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

各ユニットの前後で予習と復習をしてください。
① 前回授業で学んだ発音記号の音源を 10 回ずつ聞き、実際に発音して練習してください。
② その回で学ぶユニットの新出単語を辞書で調べて覚えてきてください。(予習・小テスト)
③ その週、または以前に学んだ歌を練習して覚えてきてください。(復習)

標準学修時間の目安:発音の復習と単語の予習で 30 分～60 分程度が望ましい。

【備考】

二つのテキストを毎回持参してきてください。英語の保育園で歌われている歌を練習してきてください。次の週に皆で歌いたいと思います。

基礎教養科目

科 目 名	英語コミュニケーション II*	担当者名	グルンデル　教子*	
ナンバリングコード	13002			
必選・単位	選択1単位（幼2免必修）	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年後期
			長期履修生	2年後期

【授業の概要】

保育に関する英語コミュニケーションの基本を身に付けることを目的とする。その方法として、英語の発音の学習を通じ、スピーキングとリスニングの土台を作る。特に、発音については「英語のあいうえお」ともいえる発音記号について学び、言い方や聞き分け方法を反復練習する。また英語を母国語とする園児との会話の場面で出てきやすい表現や文法を実践する。

【授業の到達目標】

1　現代における英語コミュニケーション能力の大切さを理解し、その基本を学ぶ。

2　英語の学習を通して英語圏の文化の特徴について理解を深める。

3　幼児英語を学習し、英語圏の言語的環境と幼児の心身の生活特性の関連について学ぶ。

【授業方法】

授業の前半部分は、英語の発音について講師が解説したうえで、音源やもしくは講師の後について発音の練習をする。後半部分は保育現場でよくつかわれる英語に関するテキストをクラス全体で読み進めながら、個人で課題を解く時間を交え、実践的な英語コミュニケーションについて学習する。短期海外留学を何度か経験し英語で保育士として働いてきた実務家教員が保育実践で活かせる英語学習法を伝える。

前半部分:テキスト「やさしい英語の発音」を見ながら、講師が新しい発音記号の解説を行う。次にクラス全員で、音源を聞きながら発音の反復練習を行う。

後半部分:テキスト「Speaking of Childcare」をクラス全体で読み進めながら、文法問題や様々なアクティビティを行う。様々なアクティビティの問題については個人もしくはグループ課題を解く問題を設けた後に、クラス全体で解答を確認する。

単語の小テストを行うが、そのあと教員を含め、英語の保育園で使用される歌をみんなで一緒に学ぶ予定です。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	—	—	

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストは Google Classroom で行いますが、小テストについて質疑応答を設けます。授業の合間に習った歌の中で聞き取れた発音や印象に残ったフレーズについても伺いたいと思います。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	○
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	授業の進め方について、i:及び i 発音、 Unit 1 What's your name?	グルンデル
第 2 回	ei 及び e の発音、Unit 2 Where are you from? 小テスト	グルンデル
第 3 回	e 及び æ の発音、Unit 3 Good morning! 小テスト	グルンデル
第 4 回	ə の発音、Unit 4 Are you OK? 小テスト	グルンデル
第 5 回	æ の発音、Unit 5 What are you doing? 小テスト	グルンデル
第 6 回	ə 及び ə:rの発音、Unit 6 How are you feeling? 小テスト	グルンデル
第 7 回	ʌ 及び a の発音、Unit 7 What's she like?小テスト	グルンデル
第 8 回	a:及び a:r の発音、Unit 8 Do's and don'ts 小テスト	グルンデル
第 9 回	u:及び u の発音、Unit 9 Let's eat lunch! 小テスト	グルンデル
第 10 回	ou 及び ɔ:の発音、Unit 10 What do you want to do? 小テスト	グルンデル
第 11 回	ɔ:及び ɔ: r の発音、Unit 11 What do you have to do? 小テスト	グルンデル
第 12 回	p及び b の発音、Unit 12 I need to go potty	グルンデル
第 13 回	t 及びdの発音、Unit 13 Good job!	グルンデル
第 14 回	プレゼンテーション Part 1 Unit 14 Injuries and emergencies	グルンデル
第 15 回	プレゼンテーション Part 2 Unit 15 We're going to go outside	グルンデル
定期試験	筆記試験	グルンデル

【成績評価の方法・基準】

定期試験筆記 50%+プレゼンテーション 30%+小テスト 20%＝合計 100%

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
やさしい英語の発音 改訂版	原岡笙子	語研	978-4-87615-332-9
Speaking of Childcare 保育学生のための英語コミュニケーション	ピーター・ビンセント／中里菜穂子	南雲堂	978-4-523-17883-5

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

各ユニットの前後で予習と復習をしてください。
① 前回授業で学んだ発音記号の音源を 10 回ずつ聞き、実際に発音して練習してください。
② その回で学ぶユニットの新出単語を辞書で調べて覚えてきてください。（予習・小テスト）
③ その週、または以前に学んだ歌を練習して覚えてきてください。（復習）

標準学修時間の目安：発音の復習と単語の予習で 30 分から 60 分程度が望ましい

【備考】

二つのテキストを毎回持参してきてください。英語の保育園で歌われてる歌を練習してきてください。次の週に皆で歌いたいと思います。

基礎教養科目

科 目 名	英語コミュニケーションⅢ*	担当者名	グルンデル　教子*	
ナンバリングコード	13003			
必選・単位	選択　1 単位	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1 年前期／2年前期
			長期履修生	1 年前期／2年前期／3年前期

【授業の概要】

保育や幼児教育に関する英語コミュニケーションの基本を身に付けることを目的とする。その方法として、英語の発音の学習を通じ、スピーキングとリスニングの土台を作る。特に発音については「英語のあいうえお」ともいえる発音記号について学び、言い方や聞き分け方を反復練習する。また英語を母国語とする園児との会話や保護者対応の場面出てきやすい表現や文法を実践する。

【授業の到達目標】

1 英語を学ぶことを通して、多文化への理解を深める。

2 英語力を伸ばし、異なる文化的背景を持つ方とのコミュニケーションの方法を身に付ける。

3 英語力を用いた保育の技術を身に付け、様々なルーツを持つ子どもたちや保護者とともに活動できる基盤を身に付ける。

【授業方法】

授業の前半部分は、英語の発音について講師が解説したうえで、音源を使って発音の練習をする。後半部分は保育現場でよくつかわれる英語に関するテキストをクラス全体で読み進めながら、個人で課題を解く時間を交え、実践的な英語コミュニケーションについて学習する。短期海外留学を何度か経験し、大学の非常勤英語講師や英語の保育士として働いてきた実務家教員が保育実践で活かせる英語学習法を伝える。

前半部分:テキスト「やさしい英語の発音」を見ながら、講師が新しい発音記号の解説を行う。次にクラス全員で、音源を聞きながら発音の反復練習を行う。最後に今回または前回の授業で学んだ発音記号を今回の授業に出てくるか確認する。

後半部分:「Happy English for Childcare」の教科書に出てくるアクティビティを個人もしくはペアで解いた後、回答を確認しあい、最後にクラス全体で答え合わせをする。※小テストの後、保育園で学ぶ歌を紹介するので、積極的に歌から発音を学び、一緒に歌ってほしいです。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストは Google Classroom でします。その際にテストに関する質疑応答を設けますので、質問をどんどんしてください。授業の合間に勉強した歌を紹介し、歌った際、その中で聞き取れた発音や印象に残ったフレーズについても伺いたいと思います。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	○
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	◎
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	i: & i の発音、英語でコミュニケーションをするときの基本表現	グルンデル
第 2 回	ei & e の発音、Unit 1 挨拶・自己紹介、小テスト	グルンデル
第 3 回	e 及び æ の発音、Unit 2 園内の案内、小テスト	グルンデル
第 4 回	ə の発音、Unit 3 登園時の会話、小テスト	グルンデル
第 5 回	æ の発音、Unit 4 工作時間の会話、小テスト	グルンデル
第 6 回	ə 及び ə:rの発音、Unit 5 園外散歩での会話、小テスト	グルンデル
第 7 回	ʌ 及び a の発音、Unit 6 園庭での会話、小テスト	グルンデル
第 8 回	a:及び a:r の発音、Unit 7 保護者からの相談、小テスト	グルンデル
第 9 回	u:及び u の発音、Unit 8 お昼寝時間の会話、小テスト	グルンデル
第 10 回	ou 及び ɔ:の発音、Unit 9 降園時の会話、小テスト	グルンデル
第 11 回	ɔ:及び ɔ: r の発音、Unit 10 園行事予定についての会話、小テスト	グルンデル
第 12 回	p及び b の発音、Unit 11 ネィティブとの打ち合わせ	グルンデル
第 13 回	t 及びdの発音、Unit 12 体調不良の園児との会話	グルンデル
第 14 回	プレゼンテーション Part 1 Unit 13 保護者との電話	グルンデル
第 15 回	プレゼンテーション Part 2 Unit 14 最後の日の会話	グルンデル
定期試験	筆記試験	グルンデル

【成績評価の方法・基準】

定期試験:筆記試験 50%+プレゼンテーション 30%+小テスト 20%＝100%

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
やさしい英語の発音 改訂版	原岡笙子	語研	978-4-87615-332-9
保育のための基礎英語 Happy English for Childcare	土屋麻衣子	金星堂	978-4-7647-4008-2

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

各ユニットの前後で予習と復習をしてください。
① 前回の授業で学んだ発音記号の音源を 10 回ずつ聞き、実際に発音して練習してください。（復習）
② 該当するページのわからない単語を辞書で調べて、覚えてきてください。（予習・小テスト）
③ その週または以前に歌った英語のうたを練習してきてください。（復習）

標準学修時間の目安:発音の復習と単語の予習で 30 分～60 分程度が望ましい。

【備考】

2 つのテキストを毎回持参してきてください。英語の発音の勉強をする際は、該当する週に歌った歌を意識しながら歌う練習をしてください。歌う事及び発音勉強が楽しくなります。

基礎教養科目

科 目 名	情報機器演習Ⅰ	担当者名	松本 拓也	
ナンバリングコード	13004			
必選・単位	必修1単位	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1 年前期
			長期履修生	1 年前期

【授業の概要】

ICT 化が促進されている保育現場に対応すべく、PC を主とした情報機器を活用できる保育者の育成を目指す。そのため、授業内では、お便りや登園ボードの作成、議事録の書き方等といった実際の現場で求められるスキルを課題として提示する。加えて、これらの課題を遂行するために必要なソフト（Word、Excel、PowerPoint）の操作方法を学ぶことで、これからの保育現場で必須となる PC スキルを習得する。

【授業の到達目標】

1 保育者として従事する上で、必要な PC スキル（おたよりや議事録の作成等）を身につける

2 Word を活用し、文章の記述方法、画像の挿入方法、吹き出しの入れ方等を学ぶ

3 Excel を活用し、シートの作成や計算式の取り扱いといった一般教養を身につける

4 WEB 上にある画像データの取り扱い方を理解する

【授業方法】

一人一台のコンピュータを利用できる教室にて、演習形式の授業を行う。毎回の授業で課題が提示されるので、時間内に作業を行い、指示された場所に提出する。その際、データの一時保存場所として、各自で USB メモリを用意することが望ましい。

授業では、保育経験のある教員のもと、実際の保育現場で作成する資料物やそれに伴う PC 操作を学ぶ。また、課題作成時には、適宜、教員からフィードバックを行う。

授業内で課題が終わらない者は学内のパソコン等を用いて操作の課題を提出する必要がある。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	―	○	―	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

課題作成時及び完成時に教員が適宜フィードバックを行う。また提出した課題は Google クラスルームを用いて確認できるようにする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	○
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	△
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	Windows：パソコンの基本操作	松本
第 2 回	Word：登園ボード作成	松本
第 3 回	Word：登園ボード作成	松本
第 4 回	Word：自己紹介カード作成	松本
第 5 回	Word：自己紹介カード作成	松本
第 6 回	Word：議事録の作成方法	松本
第 7 回	Word：おたより作成	松本
第 8 回	Word：おたより作成	松本
第 9 回	Excel：保育書類の作成	松本
第 10 回	Excel：計算式の入力方法	松本
第 11 回	Word：求人票作成	松本
第 12 回	Word：求人票作成	松本
第 13 回	PowerPoint：遠足のしおり作成	松本
第 14 回	PowerPoint：遠足のしおり作成	松本
第 15 回	総復習：今までの振り返り	松本
定期試験	作品制作試験	松本

【成績評価の方法・基準】

課題物提出(70%)＋定期試験（30%）＝合計 100%

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
使用しない			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
情報基礎演習　保育士・栄養士のためのパソコン操作編　第 3 版	矢代智子	一粒書房	978-4-86743-315-7
教育デジタルトランスフォーメーション基礎　第 2 版	矢代智子	一粒書房	978-4-86743-253-2

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

・授業時間内に課題が終わらない者は、学内のパソコンを利用して課題を完成させ、提出すること。
・課題提出や欠席時の課題提出方法は、Google クラスルームにて指示する。

標準学修時間の目安：：1回の授業あたり予習・復習を含めて 30 分～60 分程度が望ましい。

【備考】

・パソコン教室の利用にあたっては、定められたルールを守ること。
・作成途中の課題は USB メモリに保存する為、毎回の授業で USB を持参すること。
・課題の提出は Google クラスルームで行うため、大学が発行する Google アカウントのメールアドレス及びパスワードが記載された用紙を持参すること。

基礎教養科目

科 目 名	情報機器演習Ⅱ	担当者名	松本　拓也	
ナンバリングコード	13005			
必選・単位	必修1単位	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年後期
			長期履修生	2年後期

【授業の概要】

情報機器演習Ⅰで学んだ内容を基に、運動会のしおり作成や音楽/動画編集といった、保育現場で活用できる幅広いスキルを身につける。また、ICT を用いた保育活動の在り方も学ぶことで、実際の保育活動で ICT を導入できる人材の育成を目指す。

【授業の到達目標】

1　保育者として従事する上で必要な PC スキルを学ぶ。

2　運動会や遠足のしおり等を作成できるようになる。

3　保育現場で必要とされる楽曲/動画編集の技術を会得する。

4　保育活動で ICT を活用する方法を学ぶ。

【授業方法】

一人一台のコンピュータを利用できる教室にて、演習形式の授業を行う。毎回の授業で課題が提示されるので、時間内に作業を行い、指示された場所に提出する。その際、データの一時保存場所として、各自で USB メモリを用意することが望ましい。
毎回の授業で課題を提示し、教員が課題に対して適宜フィードバックを行う。なお、授業内で課題が終わらない者は学内のパソコン等を用いて操作の課題を提出する必要がある。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	―	○	―	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

課題作成時及び完成時に教員が適宜フィードバックを行う。また提出した課題は Google クラスルームを用いて確認できるようにする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	○
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	PowerPoint：遠足のスタンプラリー作成	松本
第 2 回	PowerPoint：遠足のスタンプラリー作成	松本
第 3 回	PowerPoint：運動会の競技図作成	松本
第 4 回	PowerPoint：運動会の競技図作成	松本
第 5 回	PowerPoint：運動会の競技図作成	松本
第 6 回	音源編集	松本
第 7 回	音源編集	松本
第 8 回	動画編集	松本
第 9 回	動画編集	松本
第 10 回	Word：今までの操作の復習	松本
第 11 回	Excel・PowerPoint：今までの操作の復習	松本
第 12 回	ICT を活用した保育活動の一例①	松本
第 13 回	ICT を活用した保育活動の一例②	松本
第 14 回	ICT を活用した保育活動の一例③	松本
第 15 回	総復習：今までの振り返り	松本
定期試験	作品制作試験	松本

【成績評価の方法・基準】

課題物提出(70%)＋定期試験（30%）＝合計 100%

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
使用しない			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
情報基礎演習　保育士・栄養士のためのパソコン操作編　第 3 版	矢代智子	一粒書房	978-4-86743-315-7
教育デジタルトランスフォーメーション基礎　第 2 版	矢代智子	一粒書房	978-4-86743-253-2

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

・授業時間内に課題が終わらない者は、学内のパソコンを利用して課題を完成させ、提出すること。
・課題提出や欠席時の課題提出方法は、Google クラスルームにて指示する。

標準学修時間の目安：：1回の授業あたり予習・復習を含めて 30 分～60 分程度が望ましい。

【備考】

・パソコン教室の利用にあたっては、定められたルールを守ること。
・作成途中の課題は USB メモリに保存する為、毎回の授業で USB を持参すること。
・課題の提出は Google クラスルームで行うため、大学が発行する Google アカウントのメールアドレス及びパスワードが記載された用紙を持参すること。

基礎教養科

科 目 名	情報メディアとコミュニケーション	担当者名	松本　拓也	
ナンバリングコード	13006			
必選・単位	選択1単位	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	2年前期

【授業の概要】

保育者として業務を遂行するための Office ソフト（Word・Excel・PowerPoint）の応用的な操作方法に加え、Canva を活用したビジュアルデザインの表現や保育活動で ICT を活用する際の留意点について学ぶ。本授業では、保育現場で情報機器を率先して業務に取り入れることの出来る人材の育成を目指すため、受講者は Office ソフトの基本操作を理解しておくことが望ましい。

【授業の到達目標】

1　保育者として従事する上で必要な PC 操作の知識を身につける。

2　ビジュアルデザインの視点から保育書類を作成することができる。

3　コンピュータを用いた課題制作を通して、コンピュータをコミュニケーションツールとして用いるためのスキルを身につける。

【授業方法】

一人一台のコンピュータを利用できる教室にて、演習形式の授業を行う。毎回の授業で課題が提示されるので、時間内に作業を行い、指示された場所に提出する。その際、データの一時保存場所として、各自で USB メモリを用意することが望ましい。
毎回の授業で作成する課題は他の受講者と共有することで、PC スキルの習得だけでなく、自身の成果をプレゼンテーションする力も養う。なお、授業内で課題が終わらない者は学内のパソコン等を用いて操作の課題を提出する必要がある。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	―	○	―	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

課題作成時及び完成時に教員が適宜フィードバックを行う。また提出した課題は Google クラスルームを用いて確認できるようにする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	◎
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	◎
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	Office ソフトの扱い方　基本操作の説明	松本
第 2 回	Office ソフトの扱い方　ショートカットキーの操作①	松本
第 3 回	Office ソフトの扱い方　ショートカットキーの操作②	松本
第 4 回	Office ソフトの扱い方　課題作成	松本
第 5 回	Canva：画像編集①	松本
第 6 回	Canva：画像編集②	松本
第 7 回	Canva：ポスター作成①	松本
第 8 回	Canva：ポスター作成②	松本
第 9 回	Canva：キーフレームの活用①	松本
第 10 回	Canva：キーフレームの活用②	松本
第 11 回	Google ドライブを活用した保育活動の一例	松本
第 12 回	タブレット端末を活用した保育活動の一例①	松本
第 13 回	タブレット端末を活用した保育活動の一例②	松本
第 14 回	液晶プロジェクターを活用した保育活動の一例	松本
第 15 回	総復習：今までの振り返り	松本
定期試験	作品制作試験	松本

【成績評価の方法・基準】

課題物提出(70%)＋定期試験（30%）＝合計 100%

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
使用しない			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
情報基礎演習　保育士・栄養士のためのパソコン操作編　第 3 版	矢代智子	一粒書房	978-4-86743-315-7
教育デジタルトランスフォーメーション基礎　第 2 版	矢代智子	一粒書房	978-4-86743-253-2

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

・授業時間内に課題が終わらない者は、学内のパソコンを利用して課題を完成させ、提出すること。
・課題提出や欠席時の課題提出方法は、Google クラスルームにて指示する。

標準学修時間の目安：：1回の授業あたり予習・復習を含めて 30 分～60 分程度が望ましい。

【備考】

・パソコン教室の利用にあたっては、定められたルールを守ること。
・作成途中の課題は USB メモリに保存する為、毎回の授業で USB を持参すること。
・課題の提出は Google クラスルームで行うため、大学が発行する Google アカウントのメールアドレス及びパスワードが記載された用紙を持参すること。

基礎教養科目

科 目 名	体育理論*	担当者名	真砂　雄一*	
ナンバリングコード	14002			
必選・単位	必修1単位	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	2年後期
			長期履修生	3年後期

【授業の概要】

健康を取り巻く社会状況の中で、国民一人一人が生涯にわたる心身の健康の保持増進を図るためには、疾病の発症そのものを予防するのみならず、ストレス解消やストレスへの抵抗力を増す観点からも、運動、栄養及び休養を柱とする調和のとれた生活習慣の確立が不可欠である。

また、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るためには、運動やスポーツについての幅広い知識を身につけておくことが必要になる。スポーツの意味や素晴らしさに加え、運動技能や体力を合理的に向上させるための科学的知識や方法を学び、スポーツの歴史や文化的意義などを総合的に捉え、体育の必要性を考えていく。

【授業の到達目標】

1　生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康なライフスタイル（生活様式）を確立することは重要であり、そのための健康・スポーツについての基礎知識を身につける。

2　誕生からの一生涯にわたるからだの発達と加齢のプロセスを理解できるようになる。

3　授業で修得した知識や態度が、個人の日常生活で活用され、より健康で豊かな生活が営めるようになる。

【授業方法】

授業方法は講義形式で行うが、グループワーク等を取り入れ、主体的に授業参加できるような授業展開を行っていく。
また、授業の理解度を高めるために、視覚教材を使用するとともに、資料を配付し、授業を進めていく。
授業で学んだ知識を日常生活に取り入れ、自身の健康について考える機会としてもらいたい。
保育園での幼児体育指導員、小学校での体育テクニカルアドバイザー、高校での体育教師としての実務経験を活かし、健康や運動、体育に関する知識等を具体的かつ実践的に教授する。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	―	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内の小課題やリアクションペーパー等の提出物に関しては、コメントを付記したものを次週の授業で返却する。あるいは、コメントや意見をまとめたものを全体に向けて提示する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	○
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	◎
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	ガイダンス、スポーツや体育の目的・意義	真砂
第 2 回	運動の種類と養われる多様な運動能力	真砂
第 3 回	様々な環境の中で行う運動やスポーツ	真砂
第 4 回	体力	真砂
第 5 回	運動時における保育者の役割	真砂
第 6 回	調整力	真砂
第 7 回	これからの健康について考える	真砂
第 8 回	人体の構造と機能	真砂
定期試験	筆記試験	真砂

【成績評価の方法・基準】

定期試験(筆記)(50%)＋授業に対する関心・意欲・態度(30%)＋各回の授業の最後に提出する小レポート(20%)
＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
元気な子どもを育てる幼児体育	前橋明	教育情報出版	978-4-905493-15-0

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

授業で得た知識を自分自身の体験と照らし合わせて、運動や体育の必要性を考えてください。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・宿題を含めて 60 分程度が望ましい。

【備考】

今後の自分自身のライフスタイルをどのようにしていくかを考える機会にしてください。

基礎教養科目

科 目 名	体育実技*	担当者名	大木 寛人*	
ナンバリングコード	14001			
必選・単位	必修1単位	担当形態	単独	
授業方法	実技	開講年次・時期	2年制コース	1年前期
			長期履修生	2年前期

【授業の概要】

本来、学校体育とは生涯にわたり、運動に親しむ素質や能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てるものである。また、楽しみながら運動を継続することで体力の体得、疾病等の軽減ができ、健やかな生活を送ることができる。このような体育教育の目的や身体活動の楽しさを、授業を通して学生自身が体験し、他者との共存・協力する姿勢を身につける。

保育者として、自身の体力の維持増進を図ると同時に、様々な運動の特性を知り、運動技能の向上を図る。

【授業の到達目標】

1　様々な運動を通して、保育現場でも子ども達に運動の楽しさを教えることのできる素地を養う。

2　基礎的な運動やスポーツ種目を体験することで、身体づくりのための体力を養う。

3　生涯に渡ってスポーツに親しむ生涯スポーツの理念と実践力を身につけるようにする。

【授業方法】

各種スポーツやレクリエーションスポーツを実践していく中で、「からだ」を動かすことの楽しさを知り、生涯に渡って自ら健康や体力に配慮し、それらを保持増進していくために必要な習慣を学ぶ。授業は、1 回目～9回目は体育館、10 回目からクリエイティブホールで行う予定である(変更がある場合は、口頭および掲示にて連絡する)。

初回は指定された場所に集まりガイダンス、その後、体育館の場所や、ハウスルールの確認を行うため、体育館履きも持参すること。

保育園での幼児体育指導員、スポーツ少年団での運動遊び指導、高校での体育教師としての実務経験を活かし、運動遊びや、体育・スポーツに関する知識等を実践的に教授する。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	―	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

体力テストの結果を点数化し、自身の体力の低下や現状を把握する機会を設ける。その後、自身の体力レベルに合わせた目標設定を行う。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	○
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	◎
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	オリエンテーション（授業の進め方、シラバスの内容の確認など）、ドッジビー	大木
第 2 回	体力テスト①	大木
第 3 回	体力テスト②	大木
第 4 回	バスケットボール①	大木
第 5 回	バスケットボール②	大木
第 6 回	バドミントン①	大木
第 7 回	バドミントン②	大木
第 8 回	フットサル	大木
第 9 回	ソフトバレーボール	大木
第 10 回	リズム運動、長縄	大木
第 11 回	ニュースポーツ①	大木
第 12 回	ニュースポーツ②	大木
第 13 回	リレー系	大木
第 14 回	運動会①	大木
第 15 回	運動会②	大木
定期試験	実技試験	大木

【成績評価の方法・基準】

実技試験(40%)+授業の振り返り(20%)+実技参加の積極性および協調性(20%)+授業に対する関心・意欲・態度（20%)=合計(100%

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
観るまえに読む 大修館 スポーツルール 2026	大修館書店編集部	大修館書店	978-4-46928-026-5

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

授業がない日でも、からだを積極的に動かす習慣を身につけましょう。

標準学修時間の目安：少なくとも 1 日に 30 分以上歩く習慣が望ましい。

【備考】

体操着、体育館シューズを用意すること。保育や外遊びを想定し、ピアスや指輪などアクセサリー類は外すこと。
また、髪の毛の長い人は、 髪の毛を結ぶこと。爪の長い人は注意すること。

専門科目

科 目 名	幼児と健康Ⅰ*	担当者名	真砂　雄一*	
ナンバリングコード	21009			
必選・単位	必修1単位	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1 年前期
			長期履修生	1 年前期

【授業の概要】

領域「健康」の指導に関する、幼児の心身および運動機能の発達、基本的な生活習慣、安全な生活などの専門的事項についての知識や技術を実践的に身につける。

また、近年、子どもたちの運動量、体力の低下が問題となっていることから、様々な運動を通して、保育現場でも子どもたちに運動遊びの楽しさを教えることのできる素地を養い、子どもの発達をふまえた運動遊びの援助・指導・安全管理を実践的に習得する。

【授業の到達目標】

1　健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。

2　乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。

3　幼児期の怪我の特徴や病気について説明できる。

4　幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解する。

【授業方法】

保育現場で子ども達に運動遊びの楽しさを教えるためにも、まずは学生自身が保育現場で行っている様々な運動遊びを体験する。

そして、心身および運動機能の発達、基本的な生活習慣、安全教育など現代の子どもたちの健康と運動に関する教材を活用し、作成することで知識を身につける。環境構成について考え、展開するための技術を授業内で多く実践する。

幼児体育指導員としての実務経験を活かし、保育者としての必要な乳幼児の健康に関する技術や知識等を具体的かつ実践的に教授する。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内の小課題やリアクションペーパー等の提出物に関しては、コメントを付記したものを次週の授業で返却する。あるいは、コメントや意見をまとめたものを全体に向けて提示する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	△
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	◎
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	健康の定義、乳幼児期の健康の意義	真砂
第 2 回	乳幼児の運動遊びの実際	真砂
第 3 回	基本的動作と多様な動きの獲得	真砂
第 4 回	用具を使った運動遊び	真砂
第 5 回	身近な素材を用いた遊び	真砂
第 6 回	自然とかかわる遊び	真砂
第 7 回	調整力を伸ばす運動遊び	真砂
第 8 回	乳幼児の心身および運動発達などの特徴	真砂
第 9 回	乳幼児の心身および運動発達などの健康課題	真砂
第 10 回	子どもの運動能力と体力:昔と今の比較	真砂
第 11 回	子どもに必要な運動－幼児期運動指針と保育者の役割－	真砂
第 12 回	幼児の安全教育・健康管理－幼児にとって危険な場所と遊び－	真砂
第 13 回	安全管理と環境整備の意義、リスクとハザード	真砂
第 14 回	幼児期の怪我の特徴や病気	真砂
第 15 回	乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義	真砂
定期試験	レポート試験	真砂

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(40%)＋各回の授業の最後に提出する小レポート(20%)＋授業に対する関心・意欲・態度(40%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
新・保育内容　健康　活き活きとした子どもの発育発達を求めて		教育情報出版	978-4-909378-38-5
幼児期運動指針ガイドブック 毎日、楽しく体を動かすために	文部科学省	サンライフ企画	978-4-904-01147-8

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

授業の前には、自身が幼少期に行っていた運動遊びを思い出し、幼児期の運動について考えてみてください。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・宿題を含めて 30 分程度が望ましい。

【備考】

意欲的、積極的な取り組みを評価し、期待します。
運動遊びの実技授業時は、動きやすい服装、室内シューズを用意すること。
ピアスや指輪などアクセサリー類は外すこと。また、髪の毛の長い人は、髪の毛を結ぶこと。

専門科目

科 目 名	幼児と健康Ⅱ *	担当者名	真砂　雄一*	
ナンバリングコード	21010			
必選・単位	選択 1 単位 (保育士・幼 2 免選択必修)	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年後期／2年後期
			長期履修生	1年後期／2年後期 ／3年後期

【授業の概要】

領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項について理解し、課題の把握に努める。

幼児期において多様な動きを獲得していく意義と重要性を理解し、保育者としての実践力を高める。

最終的には、運動遊びの模擬実践をし、意見交換や相互評価を行う。指導、援助に必要な言葉かけやポイント、安全管理について等、実践を通して考察・検討する。

【授業の到達目標】

1　乳幼児の心と体、運動発達などの健康課題や特徴を説明できる。

2　幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。

3　日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。

4　幼児期における運動遊びの具体的な内容について理解・修得し、保育者としての基礎的能力と実践力を身につける。

【授業方法】

実際に運動遊びを学生自身が体験、実践しながら、「運動遊び指導のポイント」についての必要な知識や技能を修得していく。
初回は、授業概要や進め方を説明し、グループディスカッションを交えながら幼児期の運動について考える。
実践を通して、実際の運動遊びの楽しさやその魅力を味わってほしい。場所は、クリエイティブホールで行う。
幼児体育指導員としての実務経験を活かし、保育者として必要な乳幼児の健康に関する技術や知識等を具体的かつ実践的に教授する。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

コメントを付記したものを次週の授業で返却する。あるいは、アドバイスや意見をまとめたものを全体に向けて提示する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	△
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	子どもの健康に関する課題:最近の子どもたちの生活や体力	真砂
第 2 回	日常生活における幼児の動きの経験とその配慮、多様な動きを獲得する意義	真砂
第 3 回	乳幼児期の運動発達とリズム遊び	真砂
第 4 回	室内遊びと戸外遊びにおける安全管理	真砂
第 5 回	遊具と事故、応急処置	真砂
第 6 回	小型遊具を用いた遊びと活用方法	真砂
第 7 回	大型遊具の運動遊びと安全管理	真砂
第 8 回	伝承遊び(今の遊びと昔の遊びの特徴)	真砂
第 9 回	模擬実践に関する説明、ポイント	真砂
第 10 回	模擬実践1(ボール遊び)	真砂
第 11 回	模擬実践2(身体表現、リズム)	真砂
第 12 回	模擬実践3(小型遊具)	真砂
第 13 回	模擬実践4(調整力)	真砂
第 14 回	模擬実践5(身近な素材)	真砂
第 15 回	模擬実践に関する意見交換や相互評価によるまとめ	真砂
定期試験	レポート試験	真砂

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋各回の授業の最後に提出する振り返りシート(20%)＋授業に対する関心・意欲・態度(30%)＋模擬実践内容(20%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼児期運動指針ガイドブック 毎日、楽しく体を動かすために	文部科学省	サンライフ企画	978-4-904-01147-8

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

授業の前には、自身が幼少期に行っていた遊びを思い出し、幼児期の運動について考えてみてください。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・宿題を含めて 30 分程度が望ましい。

【備考】

意欲的、積極的な取り組みを評価し、期待します。
運動遊びの実技授業時は、動きやすい服装、室内シューズを用意すること。
ピアスや指輪などアクセサリー類は外すこと。また、髪の毛の長い人は、髪の毛を結ぶこと。

専門科目

科 目 名	幼児と環境*	担当者名	前徳明子* 奥恵* （ゲストスピーカー 杉浦紀彦）	
ナンバリングコード	21012			
必選・単位	選択1単位 （保育士・幼2免選択必修）	担当形態	オムニバス・複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年後期
			長期履修生	2年後期

【授業の概要】

領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身につける。これにより、時代や環境の変化から多様化した幼児の生活や遊びに対応できる保育者をめざす。

【授業の到達目標】

1 子どもを取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。
2 幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。
3 幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達を理解する。
4 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。

【授業方法】

領域「環境」の指導に関連する知識・技術を身につけ、幼児の生活や遊びに対応する力を実践的に学ぶ。具体的には、①幼児をとりまく環境や遊びについての調べ学習、実際に五感を使った遊びの体験などを通して学ぶ。②グループワークなどを通し、子どもたちの発達をイメージした遊びを考えたり、教材づくりを行う。また、保育者としての留意・配慮点、環境構成などを探る。③体験したことや調べたことについてパワーポイント作成したり、資料作成などを行い発表する。その発表内容について、幼稚園で勤務経験のある実務家教員が幼児教育現場における事例を含めて解説を行い進めていく。授業の最後に振り返りを行い、質問を受けたりしながら、全体が理解できているかを確認しながら進めていく。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

各回の授業の終わりに質問を受け、ふりかえりをしながら全体で共有する。また、内容によっては、コメントを提出し、添削指導を行い、フィードバックとする。それぞれの課題などについては、個人指導を行う。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	△
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	授業概要説明・遊びの種類・体験	前徳・奥
第 2 回	遊びの意義	前徳
第 3 回	幼児期の生活と遊び	奥
第 4 回	子どもを取り巻く環境(人的・物的)	前徳
第 5 回	子どもを取り巻く環境(情報的・物資的)	奥
第 6 回	子どもの生活習慣(食事・睡眠)	前徳
第 7 回	時代に伴う遊びの変化(現代的課題について考える)	奥
第 8 回	時代に伴う遊びの変化(グループ学習)	奥
第 9 回	時代に伴う遊びの変化(発表)	奥
第 10 回	発達に合わせた遊び(0、1、2歳児)	奥
第 11 回	発達に合わせた遊び(3、4、5歳児)	前徳
第 12 回	遊びプロジェクトの準備(流れやねらい)	前徳
第 13 回	遊びプロジェクトの準備(製作等の準備)	前徳
第 14 回	遊びプロジェクトの準備(製作等の準備)	前徳・奥
第 15 回	幼児期の環境プロジェクトの振り返り(評価とまとめ)	前徳・奥
定期試験	レポート試験	前徳・奥

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(40%)＋提出物(40%)＋授業への取り組み(20%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業中に適宜紹介する。			

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

テキストを熟読すること。また、子どもを取り巻く環境と、幼児の発達にとっての環境の意義を考え、幼児期の環境プロジェクトの準備をすること。他に授業内で適宜指示する。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・宿題等を含めて 30～60 分程度が望ましい。

【備考】

積極的な取り組みを評価します。

専門科目

科 目 名	幼児と言葉	担当者名	益田　かな子	
ナンバリングコード	21011			
必選・単位	選択1単位 （保育士必修・幼2免選択必修）	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	2年前期

【授業の概要】

「幼児と言葉」では、領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身につける。

言葉の発達過程において、乳幼児が言葉の意義と機能をどのように理解していくのか、その過程において、言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにしていく実践について理解していく。絵本・物語・紙芝居などの児童文化財を読んだり演じたりする体験から、保育への取り入れ方を身につける。

【授業の到達目標】

1　人間にとっての言葉の意義や機能を理解している。
2　言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解している。
3　子どもにとっての児童文化財の意義を理解している。
4　保育実践に役立つ言語表現活動とその指導法を修得する。
5　保育の現場における言語表現活動の実際を学習する。

【授業方法】

授業方法の基本は演習であるが、講義形式を組み合わせて授業を進めていく。
保育の現場を想定した授業であっても、頭で理解することと実際に体を使ってやることは異なることが多い。将来、保育の現場において素話、紙芝居、絵本等を有効に取り入れていくために、その表現方法が具体的に身につくよう、それぞれの形式と特性の違いを理解しながら導いていく。
さらに、子どもたちにどのような作品世界を手渡していけばよいのかについて作家と作品世界の理解の深め方、演じ方の修得方法についても導いていく。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

素話、絵本、紙芝居の発表については評価指導を行う。各授業で提出されたリアクションペーパーについては返却指導を実施する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	△
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	人間にとって言葉とは何か。	益田
第 2 回	子どもの生活体験と言葉	益田
第 3 回	子どもの遊びと言葉	益田
第 4 回	乳児期の言葉の発達と援助、幼児期の言葉の発達と援助	益田
第 5 回	幼児期の言葉の発達と援助	益田
第 6 回	子どもにとっての児童文化財の意義。言葉の楽しさと美しさ。	益田
第 7 回	言葉遊びと素話の魅力、紹介	益田
第 8 回	言葉遊びと素話の発表と評価（前半）	益田
第 9 回	言葉遊びと素話の発表と評価（後半）	益田
第 10 回	絵本の魅力、紹介	益田
第 11 回	絵本の実演（グループ別）	益田
第 12 回	絵本の発表と評価	益田
第 13 回	紙芝居の魅力、紹介、作製	益田
第 14 回	紙芝居の作製、実演（グループ別）	益田
第 15 回	紙芝居の発表と評価	益田
定期試験	レポート試験	益田

【成績評価の方法・基準】

定期試験（レポート）（40％）＋課題・提出物（50％）＋授業の積極性（10％）＝合計（100％）

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業中に適宜資料を配布する。			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

保育技能を含む国語表現修得のための自分の好きな素話、絵本、紙芝居を選び実演するための事前練習に取り組む。さらに指導案に基づき保育現場で利用できる自分なりの教材を作成する。

標準学修時間の目安：1 回の授業あたり予習・復習・宿題を含め 30 分～60 分程度が望ましい。

【備考】

紙芝居の実演発表の時は、専用舞台を図書館から借りることが望ましい。
授業の進捗状況によって、授業内容が前後する場合があります。

専門科目

科 目 名	幼児と音楽表現Ⅰ	担当者名	蓮見絵里　黒田紀子 田中麻衣　辻浩美 宮尾夕華　吉田美保	
ナンバリングコード	21001			
必選・単位	必修１単位	担当形態	複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	１年前期
			長期履修生	１年前期

【授業の概要】

領域「表現」の指導に関する、幼児表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能・表現力を身に付ける授業科目である。
「幼児と音楽表現Ⅰ」では、特に幼児期の音楽表現の特性とそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中で見られる素朴な音楽表現について説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。また、うたによる音楽表現と鍵盤楽器の基礎技能を習得するなかで、豊かな表現をうみだす過程を体験する。さらに、豊かな表現の基礎となる楽典の知識を学習する。これらにより、幼児の音楽表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。

【授業の到達目標】

1　子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。
2　表現を生成する過程について理解している。
3　子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。
4　様々な表現の基礎的知識技能を生かし、子どもの表現活動に展開させることができる。

【授業方法】

授業方法の基本は演習であるが、講義形式や、実技形式を組み合わせて授業を進める。幼児の生活や遊びで用いられる様々なうたを歌えるようにするとともに、活動を子どもの視点から捉え、子どもの遊びや生活を豊かにするための方法を考える。鍵盤楽器基礎技能では、保育現場で用いられる歌の弾きうたいを習得する。各自の技能に応じて練習曲も併用して技能の向上をおこなう。楽典は講義での学習とともに、予習・復習課題を行う。鍵盤楽器による音あそびは、ペアやグループで取り組む。毎回の授業後に各自で振り返りを行い課題として提出する。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	―	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業後に各自で行う振り返り、各活動の過程、鍵盤楽器技能、楽典の課題と小テストにたいして、内容に応じて授業内で全体に共有する、あるいは個別にコメントを行う。

【学習成果】

①「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	△
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	◎
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	幼児期の音楽表現の特性と領域「表現」の位置づけ、鍵盤楽器基礎技能	蓮見
第 2 回	幼児の音楽表現(生活のうた)、鍵盤楽器基礎技能、楽典(音名)	蓮見
第 3 回	幼児の音楽表現(生活のうた)、鍵盤楽器基礎技能、楽典(音符と休符)	蓮見
第 4 回	幼児の音楽表現(生活のうた)、鍵盤楽器基礎技能、ソルフェージュ	蓮見
第 5 回	幼児の音楽表現(遊び、生活のうた)、鍵盤楽器基礎技能、楽典(音程)	蓮見
第 6 回	幼児の音楽表現(遊び、生活のうた)、鍵盤楽器基礎技能、ソルフェージュ	蓮見
第 7 回	幼児の音楽表現(遊び、生活のうた)、鍵盤楽器基礎技能、楽典(調))	蓮見
第 8 回	第 1 回～第 7 回の鍵盤楽器基礎技能の成果の発表	蓮見
第 9 回	幼児の音楽表現(遊び、生活のうた)、鍵盤楽器基礎技能、ソルフェージュ	蓮見
第 10 回	幼児の音楽表現(遊び、生活のうた)、鍵盤楽器基礎技能、楽典(和音、コード)	蓮見
第 11 回	幼児の音楽表現(遊び、生活のうた)、鍵盤楽器基礎技能、ソルフェージュ	蓮見
第 12 回	幼児の音楽表現(遊びのうた)、鍵盤楽器基礎技能、楽典(音階)	蓮見
第 13 回	幼児の音楽表現(遊びのうた)、鍵盤楽器基礎技能、ソルフェージュ	蓮見
第 14 回	鍵盤楽器による音遊び、鍵盤楽器基礎技能、楽典小テスト	蓮見
第 15 回	鍵盤楽器による音遊び、鍵盤楽器基礎技能、楽典小テスト解説	蓮見
定期試験	実技試験	蓮見

【成績評価の方法・基準】

定期試験(実技)(30%)＋授業内提出物(30%)＋授業内鍵盤楽器発表(20%)＋楽典小テスト(20%)＝合計(100%))

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
ポケットいっぱいのうた　3訂版	鈴木　恵津子	教育芸術社	978-4-86779-111-0

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

鍵盤楽器の技能の習得のためには、継続的な予習・復習が必要となる。毎日練習することが望ましい。楽典は予習・復習課題を行う。授業後に、その日に学習したことの振り返りを行う。振り返りの方法については授業内で指示する。

標準学修時間の目安:予習・復習・宿題を含めて 60 分程度、ピアノは毎日 30 分以上が望ましい。

【備考】

授業参加者で協働し、ともに学びあうことを望みます。とくに鍵盤楽器技能や楽典に関して、不安や難しく感じること、方法に関する不明点などあれば、専任教員に都度相談し確認をしてください。

専門科目

科 目 名	幼児と音楽表現Ⅱ	担当者名	蓮見絵里　黒田紀子 田中麻衣　辻浩美 宮尾夕華	
ナンバリングコード	21002			
必選・単位	選択1単位（保育士・幼2免選択必修）	担当形態	複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年後期
			長期履修生	1年後期

【授業の概要】

領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける授業科目である。
「幼児と音楽表現Ⅱ」では、特に子どもの音楽表現の発達を理解するとともに、弾き歌いのための鍵盤楽器とうたの技能を習得する。さらに、音楽表現を用いた遊びとして、即興やペープサートを用いた活動を体験する。これらにより、幼児の音楽表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。

【授業の到達目標】

1　子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。
2　様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
3　身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。
4　表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。

【授業方法】

「幼児と音楽表現Ⅰ」と同様、授業方法の基本は演習であるが、講義形式や、実技形式を組み合わせて授業を進める。子どもの発達に応じたうたを歌えるようにするとともに、活動を子どもの視点から捉え、子どもの遊びや生活を豊かにするための方法を考え試しながら学ぶ。声や楽器による即興、ペープサートを用いた活動では、グループが基本となっており、参加者間のディスカッションなどを通じて、自身の体験を共有し深めるとともに、活動の展開を検討することとなる。鍵盤楽器では、保育現場で用いられる歌と練習曲に取り組み、「幼児と音楽表現Ⅰ」から、弾き歌いのさらなる技能の向上を行う。毎回の授業後に各自で振り返りを行い課題として提出する。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業後の各自の振り返り、各活動の過程、鍵盤楽器技能、発表にたいして、内容に応じて授業内で全体に共有する、あるいは個別にコメントを行う。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	△
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	子どもの発達理解と音楽表現(0～1 歳児の曲)、弾き歌いのための鍵盤楽器、楽典:移調	蓮見
第 2 回	子どもの発達理解と音楽表現(0～1 歳児の曲)、弾き歌いのための鍵盤楽器、ソルフェージュ)	蓮見
第 3 回	子どもの発達理解と音楽表現(2～3 歳児の曲)、弾き歌いのための鍵盤楽器、楽典:移調 2)	蓮見
第 4 回	子どもの発達理解と音楽表現(2～3 歳児の曲)、弾き歌いのための鍵盤楽器、ソルフェージュ	蓮見
第 5 回	子どもの発達理解と音楽表現(4～5 歳児の曲)、弾き歌いのための鍵盤楽器、演奏方法の工夫(1)	蓮見
第 6 回	子どもの発達理解と音楽表現(4～5 歳児の曲)、弾き歌いのための鍵盤楽器、演奏方法の工夫(2)	蓮見
第 7 回	子どもの発達理解と音楽表現、弾き歌いのための鍵盤楽器、ソルフェージュ)	蓮見
第 8 回	第 1 回～第 7 回の鍵盤楽器基礎技能の成果の発表	蓮見
第 9 回	季節の歌(春・夏)、声による即興、弾き歌いのための鍵盤楽器	蓮見
第 10 回	季節の歌(春・夏)、楽器による即興、弾き歌いのための鍵盤楽器	蓮見
第 11 回	季節の歌(秋・冬)、音楽表現を用いたペープサート 1(構想)、弾き歌いのための鍵盤楽器	蓮見
第 12 回	季節の歌(秋・冬)、音楽表現を用いたペープサート 2(作成)、弾き歌いのための鍵盤楽器	蓮見
第 13 回	音楽表現を用いたペープサート 3(リハーサル)、弾き歌いのための鍵盤楽器	蓮見
第 14 回	音楽表現を用いたペープサート 4(発表)、弾き歌いのための鍵盤楽器	蓮見
第 15 回	鍵盤楽器による音遊び、鍵盤楽器基礎技能、楽典小テスト解説	蓮見
定期試験	実技試験	蓮見

【成績評価の方法・基準】

定期試験(実技)(40%)＋授業内提出物・発表(40%)＋授業内鍵盤楽器発表(20%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
ポケットいっぱいのうた　3訂版	鈴木　恵津子	教育芸術社	978-4-86779-111-0

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業中に適宜資料を配付する。			

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

鍵盤楽器の技能の習得のためには、継続的な予習・復習が必要となる。毎日練習することが望ましい。授業後に、その日に学習したことの振り返りを行う。振り返りの方法については授業内で指示する。

標準学修時間の目安:予習・復習・宿題を含めて 60 分程度、ピアノは毎日 30 分以上が望ましい。

【備考】

授業参加者で協働し、ともに学びあうことを望みます。とくに鍵盤楽器技能や楽典に関して、不安や難しく感じること、方法に関する不明点などあれば、専任教員に都度相談し確認をしてください。

専門科目

科 目 名	幼児と音楽表現Ⅲ	担当者名	蓮見絵里　黒田紀子 辻浩美　吉田美保	
ナンバリングコード	21003			
必選・単位	選択1単位 （保育士・幼2免選択必修）	担当形態	複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	2年前期

【授業の概要】

領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける授業科目である。

「幼児と音楽表現Ⅲ」では、音と身体やイメージを用いた表現、楽器による表現などを通じて、幼児の音楽表現活動の過程を理解し、それらを豊かにするための技能を身に付ける。また、グループでの音楽劇に取り組むなかで、協働による表現を体験する。これらにより、幼児の音楽表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。

【授業の到達目標】

1　様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。

2　表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。

3　協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。

4　様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、子どもの表現活動に展開させることができる。

【授業方法】

授業方法の基本は演習であるが、講義形式や、実技形式を組み合わせて授業を進める。身体・イメージ・楽器・音楽劇による表現では、活動を子どもの視点から捉え、子どもの遊びや生活を豊かにするための方法を考え試しながら学ぶ。これらの活動はグループが基本となっており、参加者間のディスカッションなどを通じて、自身の体験を共有し深めるとともに、活動の展開を検討することとなる。鍵盤楽器では、保育現場で用いられる歌と練習曲に取り組み、弾き歌いのさらなる技能の向上を行う。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業後の各自の振り返り、各活動の過程、鍵盤楽器技能、発表にたいして、内容に応じて授業内で全体に共有する、あるいは個別にコメントを行う。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	△
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	○
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	ガイダンス、園の諸活動と音楽表現(遊び・行事のうた)、音楽表現のための鍵盤楽器 1	蓮見
第 2 回	園の諸活動と音楽表現(遊び・行事のうた)、音と身体による表現 1(体験)、音楽表現のための鍵盤楽器	蓮見
第 3 回	園の諸活動と音楽表現(遊び・行事のうた)、音と身体による表現 2(構想)、音楽表現のための鍵盤楽器	蓮見
第 4 回	園の諸活動と音楽表現(遊び・行事のうた)、音と身体による表現 3(実践・振り返り)、音楽表現のための鍵盤楽器	蓮見
第 5 回	園の諸活動と音楽表現(遊び・行事のうた)、音とイメージによる表現 1(体験)、音楽表現のための鍵盤楽器	蓮見
第 6 回	園の諸活動と音楽表現(遊び・行事のうた)、音とイメージによる表現 2(構想)、音楽表現のための鍵盤楽器	蓮見
第 7 回	園の諸活動と音楽表現(遊び・行事のうた)、音とイメージによる表現 3(実践・振り返り)、音楽表現のための鍵盤楽器	蓮見
第 8 回	第 1 回～第 7 回の鍵盤楽器基礎技能の成果の発表	蓮見
第 9 回	園の諸活動と音楽表現(遊び・行事のうた)、楽器による表現 1(体験)、音楽表現のための鍵盤楽器	蓮見
第 10 回	園の諸活動と音楽表現(遊び・行事のうた)、楽器による表現 2(構想)、音楽表現のための鍵盤楽器	蓮見
第 11 回	園の諸活動と音楽表現(遊び・行事のうた)、楽器による表現 3(実践・振り返り)、音楽表現のための鍵盤楽器	蓮見
第 12 回	園の諸活動と音楽表現(遊び・行事のうた)、音と言葉による表現 1(体験)、音楽表現のための鍵盤楽器	蓮見
第 13 回	園の諸活動と音楽表現(遊び・行事のうた)、音と言葉による表現 2(構想)、音楽表現のための鍵盤楽器	蓮見
第 14 回	園の諸活動と音楽表現(遊び・行事のうた)、音と言葉による表現 3(実践・振り返り)、音楽表現のための鍵盤楽器	蓮見
第 15 回	の諸活動と音楽表現(遊び・行事のうた)、1～14 回目までの実践の振り返り、音楽表現のための鍵盤楽器	蓮見
定期試験	実技試験	蓮見

【成績評価の方法・基準】

定期試験(実技)(30%)＋授業内提出物・発表(50%)＋授業内鍵盤楽器発表(20%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
ポケットいっぱいのうた　改訂	鈴木　恵津子 冨田　英也	教育芸術社	978-4-87788-485-7

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

鍵盤楽器の技能の習得のためには、継続的な予習・復習が必要となる。毎日練習することが望ましい。授業後に、その日に学習したことの振り返りを行う。振り返りの方法については授業内で指示する。

標準学修時間の目安：予習・復習・宿題を含めて 60 分程度、ピアノは毎日 30 分以上が望ましい。

【備考】

授業参加者で協働し、ともに学びあうことを望みます。とくに鍵盤楽器技能や楽典に関して、不安や難しく感じること、方法に関する不明点などあれば、専任教員に都度相談し確認をしてください。

専門科目

科 目 名	幼児と音楽表現Ⅳ	担当者名	宮尾夕華 黒田紀子　辻浩美	
ナンバリングコード	21004			
必選・単位	選択1単位 （保育士・幼2免選択必修）	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2 年後期
			長期履修生	2 年後期

【授業の概要】

領域「表現」の指導に関する、豊かな音楽表現に繋げる演奏技術を修得する授業科目である。

これらの修得に向けて「幼児と音楽表現Ⅳ」では、主に幼児の表現を豊かにするために重要となる鍵盤楽器の音楽表現を身に付ける。採用試験の課題曲や各自のレヴェルに合わせたピアノ小品、弾き歌い曲を演奏する。また、楽譜に基づいた、その曲にふさわしい音楽表現を身に付けるとともに、状況に合わせて柔軟に演奏できるようにする。

【授業の到達目標】

1　様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。

2　表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。

3　協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。

4　様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、子どもの表現活動に展開させることができる。保育の現場で子どもと音楽活動を行う際に必要となるピアノ演奏の技術を修得する。

【授業方法】

授業方法の基本は演習であるが、個別の実技形式で実施する。教員が担当する学生一人ひとりの音楽的能力に合わせて、個別にレッスンする。個別レッスン以外の時間は、音楽室やピアノ練習室で自主練習に充てる。この授業では、採用試験での頻出課題曲(バイエル後半、ブルグミュラー、ソナチネなど)や保育現場で歌われる曲の弾き歌いに取り組む。また、テキストにはない楽曲にも挑戦し、各自のモチベーションを高め、演奏技術のレベルアップを図る。同時に、曲に適した音楽表現を考え、実践できるようにする。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	―	○	―	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

各自に与えられた課題は、次回の授業で教員が必ず確認する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	△
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	ガイダンス、音楽表現のための鍵盤楽器 1(季節の曲①)	宮尾
第 2 回	音楽表現のための鍵盤楽器 2 (季節の曲②)	宮尾
第 3 回	音楽表現のための鍵盤楽器 3(季節の曲③)	宮尾
第 4 回	音楽表現のための鍵盤楽器 4(季節の曲④)	宮尾
第 5 回	音楽表現のための鍵盤楽器 5(季節の曲⑤)	宮尾
第 6 回	音楽表現のための鍵盤楽器 6(年齢に応じた曲①)	宮尾
第 7 回	音楽表現のための鍵盤楽器 7(年齢に応じた曲②)	宮尾
第 8 回	第 1 回～第 7 回の鍵盤楽器基礎技能の成果の発表	宮尾
第 9 回	音楽表現のための鍵盤楽器 8(年齢に応じた曲③)	宮尾
第 10 回	音楽表現のための鍵盤楽器 9(年齢に応じた曲④)	宮尾
第 11 回	音楽表現のための鍵盤楽器 10(年齢に応じた曲⑤)	宮尾
第 12 回	音楽表現のための鍵盤楽器 11(行事の曲①)	宮尾
第 13 回	音楽表現のための鍵盤楽器 12(行事の曲②)	宮尾
第 14 回	音楽表現のための鍵盤楽器 13(行事の曲③)	宮尾
第 15 回	音楽表現のための鍵盤楽器 14(行事の曲④)	宮尾
定期試験	実技試験	宮尾

【成績評価の方法・基準】

定期試験(実技)(30%)＋授業への積極的参加(20%)＋授業内進度(30%)＋小テスト(20%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
ポケットいっぱいのうた　改訂	鈴木　恵津子 冨田　英也	教育芸術社	978-4-87788-485-7

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
ピアノ教本 MUSICA	在原　章子	音楽之友社	978-4-11-170458-3
ブルグミュラー　25 の練習曲	ヨハン・フリードリヒ・フランツ・ブルクミュラー 北村　智恵	全音楽譜出版社	978-4-11-102010-2

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

・各自に与えられた課題は、必ず練習してレッスンに臨むこと。
・自分で弾いてみたい曲を探すこと。

標準学修時間の目安:予習・復習・宿題を含めて 60 分程度、ピアノは毎日 30 分以上が望ましい。え

【備考】

授業への積極的、意欲的な姿勢を期待します。初学者を始め、ピアノ学習の経験の浅い学生、ピアノに苦手意識を持つ学生は積極的に受講してください。

専門科目

科 目 名	幼児と造形表現Ⅰ*	担当者名	栗本 浩二*	
ナンバリングコード	21005			
必選・単位	必修1単位	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年前期
			長期履修生	1年前期

【授業の概要】

領域「表現」の指導に関する、子どもの表現の姿やその発達及びそれを促す要因、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける授業科目である。
「幼児と造形表現Ⅰ」では、特に子どもの造形表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、子どもの遊びや生活の中に見られる素朴な造形表現について説明し、子どもの世界に関心をもつようにする。さらに、フィンガーペインティングや表現遊びなどを体験する。これらにより、子どもの造形表現の姿やその発達及びそれを促す要因、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な造形表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につけ子どもの活動に展開させる。

【授業の到達目標】

1 子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。
2 造形表現を生成する過程について理解している。
3 子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。
4 様々な造形表現の基礎的知識・技能を生かし、子どもの表現活動に展開させることができる。

【授業方法】

製作を中心とした体験型の授業展開を行う。製作は、1回又は数回で基本的な作品のプラン作成、製作、講評の形式で授業を行い、製作を通して知識・技能、表現力を身に付ける。その作品製作及び講評について、幼児の作品製作指導を行ってきた実務家教員が、保育、幼児の造形活動の事例を含めて解説を行う。
製作にあたって、絵の具を使用する場合があるので服装に注意し、活動しやすい服装を心がける。また、製作に関しては自分なりの考えを持つことが大切である。乳幼児の造形活動と発達の授業では、講義形式の授業を行う。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	―	―	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で製作した作品については、講評会時にフィードバックを行う。また、リアクションペーパーについては返却指導を実施する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	幼児期の造形表現の特性と領域「表現」の位置づけ	栗本
第 2 回	幼児の遊びや生活の中に見られる造形表現	栗本
第 3 回	幼児の感性を育てる:フィンガーペインティングを楽しもう	栗本
第 4 回	幼児の感性を育てる:指と手だけを使って描こう	栗本
第 5 回	幼児の感性を育てる:ペープサートの製作	栗本
第 6 回	造形表現を生成する過程:円を基にしたお面の製作1:シンメトリーと可愛さについて	栗本
第 7 回	造形表現を生成する過程:円を基にしたお面の製作2:完成・レポート作成・講評会	栗本
第 8 回	幼児の創造性を豊かにする:カード製作 1:ポップアップの原理とアイデアスケッチ	栗本
第 9 回	幼児の創造性を豊かにする:カード製作 2:パーツの作成と組み立て	栗本
第 10 回	幼児の創造性を豊かにする:カード製作 3:完成・レポート作成・講評会	栗本
第 11 回	乳幼児の造形活動と発達	栗本
第 12 回	幼児の造形表現遊び　モダンテクニック 1:吹き絵、はじき絵	栗本
第 13 回	幼児の造形表現遊びモダンテクニック 2:フロッタージュ、デカルコマニ	栗本
第 14 回	幼児の造形表現遊びモダンテクニック 3:マーブリング、スクラッチ	栗本
第 15 回	幼児の造形表現遊び　モダンテクニックのまとめ	栗本
定期試験	レポート試験	栗本

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋授業態度(積極性)(20%)＋作品評価(50%)＝合計(100%

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
保育をひらく造形表現　第2版	槇英子	萌文書林	978-4-89347-295-3

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

授業で得られた造形製作及び体験を各自で発展させ、幼児における造形表現を考え保育活動で役立つ作品を製作しなさい。

標準学修時間の目安:予習・復習・宿題を含めて 60 分程度が望ましい。

【備考】

なし

専門科目

科 目 名	幼児と造形表現Ⅱ*	担当者名	栗本 浩二*	
ナンバリングコード	21006			
必選・単位	選択1単位 （保育士・幼2免選択必修）	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年後期
			長期履修生	1年後期

【授業の概要】

領域「表現」の指導に関する、子どもの表現の姿やその発達及びそれを促す要因、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける授業科目である。

「幼児と造形表現Ⅱ」では、特に幼児造形表現技法を用いて、テーマを設定しての作品製作を考案し、年齢に適した活動を計画する。また、季節や行事を表現する壁面製作、子ども向けおもちゃ製作を行う。これらにより、子どもの造形表現の姿やその発達及びそれを促す要因、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な造形表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につけ子どもの活動に展開させる。

【授業の到達目標】

1 造形表現を生成する過程について理解している。

2 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。

3 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。

4 様々な造形表現の基礎的知識・技能を生かし、子どもの表現活動に展開させることができる。

【授業方法】

製作を中心とした体験型の授業展開を行う。製作は、1回又は数回で基本的な作品のプラン作成、製作、講評の形式で授業を行い、製作を通して知識・技能、表現力を身に付ける。その作品製作及び講評について、幼児の作品製作指導を行ってきた実務家教員が、保育、幼児の造形活動の事例を含めて解説を行う。
製作にあたっては、グループ製作を基本とし、各自のアイデアやディスカッションを通して作品製作を行うので自分なりの考えを持つことが大切である。絵の具を使用するので服装に注意し、活動しやすい服装を心がける。また、講評会を行うので、表現の過程をまとめておくことが大切である。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	―	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で製作した作品については、講評会時にフィードバックを行う。また、リアクションペーパーについては返却指導を実施する

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	幼児の造形表現を生成する過程 1:染紙遊び①:製作体験	栗本
第 2 回	幼児の造形表現を生成する過程 2:染紙遊び②:染紙を使った表現・製作レポート・講評会	栗本
第 3 回	幼児の造形表現を生成する過程 3:スタンプ遊び①:製作	栗本
第 4 回	幼児の造形表現を生成する過程 4:スタンプ遊び②:スタンプ作品を使った表現・製作レポート・講評会	栗本
第 5 回	幼児のイメージを豊かにする造形表現 1:小麦粉粘土遊び	栗本
第 6 回	幼児のイメージを豊かにする造形表現 2:紙版画を楽しむ	栗本
第 7 回	幼児のイメージを豊かにする造形表現 3:スチレン版画製作を楽しむ	栗本
第 8 回	表現することの楽しさ:紙版画、スチレン版画を使った表現から①	栗本
第 9 回	表現することの楽しさ:紙版画、スチレン版画を使った表現から②レポート作成・講評会	栗本
第 10 回	季節や行事を表現する壁面装飾 1:講義・プラン作成	栗本
第 11 回	季節や行事を表現する壁面装飾 2:製作	栗本
第 12 回	季節や行事を表現する壁面装飾 3:完成・レポート作成・講評会	栗本
第 13 回	楽しさを生み出す要因 1:おもちゃ製作のプラン作成	栗本
第 14 回	楽しさを生み出す要因 2:おもちゃ製作の製作	栗本
第 15 回	楽しさを生み出す要因 3:おもちゃ製作の完成、レポート作成・作品発表・講評	栗本
定期試験	レポート課題	栗本

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋授業態度(積極性)(20%)＋作品レポート・作品評価(50%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
保育をひらく造形表現　第2版	槇英子	萌文書林	978-4-89347-295-3

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

授業で得られた造形製作及び体験を各自で発展させ、幼児における造形表現を考え保育活動で役立つ作品を製作しなさい。

標準学修時間の目安:予習・復習・宿題を含めて 60 分程度が望ましい。

【備考】

なし

専門科目

科 目 名	幼児と造形表現Ⅲ*	担当者名	栗本 浩二*	
ナンバリングコード	21007			
必選・単位	選択1単位 （保育士・幼2免選択必修）	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	2年前期

【授業の概要】

領域「表現」の指導に関する、子どもの表現の姿やその発達及びそれを促す要因、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける授業科目である。
「幼児と造形表現Ⅲ」では、特に粘土を用いた表現、ジオラマのグループ製作を通して、身体の諸感覚によりイメージと感性を豊かにする。これらにより、子どもの造形表現の姿やその発達及びそれを促す要因、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な造形表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につけ子どもの活動に展開させる。

【授業の到達目標】

1 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。
2 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。
3 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
4 様々な造形表現の基礎的知識・技能を生かし、子どもの表現活動に展開させることができる。

【授業方法】

製作を中心とした体験型の授業展開を行う。製作は、1回又は数回で基本的な作品のプラン作成、製作、講評の形式で授業を行い、製作を通して知識・技能、表現力を身に付ける。その作品製作及び講評について、幼児の作品製作指導を行ってきた実務家教員が、保育、幼児の造形活動の事例を含めて解説を行う。
製作にあたっては、グループ製作を基本とし、各自のアイデアやグループのメンバーとディスカッションを通して作品製作を行う。素材（粘土）の特性を理解し、幼児の生活と遊びを豊かにする作品製作を心がける。粘土や絵の具を使用するので服装に注意し、活動しやすい服装を心がける。また、講評会を行うので、作品のコンセプトや表現の過程をまとめておくことが大切である。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	—	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で製作した作品については、講評会時にフィードバックを行う。また、リアクションペーパーについては返却指導を実施する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	いろいろな表現を感じる、イメージを豊かにする 1:キャラクター表現①プラン作成	栗本
第 2 回	いろいろな表現を感じる、イメージを豊かにする 2:キャラクター表現②粘土体験・製作	栗本
第 3 回	いろいろな表現を感じる、イメージを豊かにする 3:キャラクター表現③完成レポート作成・講評会	栗本
第 4 回	素材を生かした表現:粘土を用いて(顔をテーマに)①プラン作成	栗本
第 5 回	素材を生かした表現:粘土を用いて(顔をテーマに)②粘土付け	栗本
第 6 回	素材を生かした表現:粘土を用いて(顔をテーマに)③形成	栗本
第 7 回	素材を生かした表現:粘土を用いて(顔をテーマに)④完成・レポート作成・講評会	栗本
第 8 回	素材を生かした表現:陶芸用オーブン粘土を用いて(日用品をテーマに)①プラン作成	栗本
第 9 回	素材を生かした表現:陶芸用オーブン粘土を用いて(日用品をテーマに)②粘土付け	栗本
第 10 回	素材を生かした表現:陶芸用オーブン粘土を用いて(日用品をテーマに)③形成	栗本
第 11 回	素材を生かした表現:陶芸用オーブン粘土を用いて(日用品をテーマに)④完成・レポート作成・講評会	栗本
第 12 回	表現の楽しさと、楽しさを生み出す要因:ジオラマ製作から①プラン作成・材料揃え	栗本
第 13 回	表現の楽しさと、楽しさを生み出す要因:ジオラマ製作から②粘土付け	栗本
第 14 回	表現の楽しさと、楽しさを生み出す要因:ジオラマ製作から③形成	栗本
第 15 回	表現の楽しさと、楽しさを生み出す要因を:ジオラマ製作から④完成・レポート作成・講評会・授業のまとめ	栗本
定期試験	レポート課題	栗本

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋授業態度(積極性)(20%)＋作品レポート・作品評価(50%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
保育をひらく造形表現　第2版	槇英子	萌文書林	978-4-89347-295-3

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

授業で得られた造形製作及び体験を各自で発展させ、幼児における造形表現を考え保育活動で役立つ作品を製作しなさい。

標準学修時間の目安:予習復習を含め60分程度が望ましい。

【備考】

なし

専門科目

科 目 名	幼児と造形表現Ⅳ*	担当者名	栗本 浩二*	
ナンバリングコード	21008			
必選・単位	選択1単位 （保育士・幼2免選択必修）	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	2年前期

【授業の概要】

領域「表現」の指導に関する、子どもの表現の姿やその発達及びそれを促す要因、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける授業科目である。

「幼児と造形表現Ⅳ」では、特に立体作品製作を通して、身体の諸感覚によりイメージをさらに豊かにし、子どもの表現を支える感性を豊かにする。あわせて協働して表現するなかで、他者の表現を受け止め共感し、豊かな表現につなげることを体験する。これらにより、子どもの造形表現の姿やその発達及びそれを促す要因、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な造形表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につけ子どもの活動に展開させる。

【授業の到達目標】

1 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。

2 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。

3 様々な造形表現の基礎的知識・技能を生かし、子どもの表現活動に展開させることができる。

【授業方法】

製作を中心とした体験型の授業展開を行う。製作は、1回又は数回で基本的な作品のプラン作成、製作、講評の形式で授業を行い、製作を通して知識・技能、表現力を身に付ける。その作品製作及び講評について、幼児の作品製作指導を行ってきた実務家教員が、保育、幼児の造形活動の事例を含めて解説を行う。
製作にあたっては、グループ製作を基本とし、各自のアイデアやグループのメンバーとディスカッションを通して作品製作を行う。素材の特性を理解し、幼児の生活と遊びを豊かにする作品製作を心がける。鋸や絵の具を使用するので服装に注意し、活動しやすい服装を心がける。また、講評会を行うので、作品のコンセプトや表現の過程をまとめておくことが大切である。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	—	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で製作した作品については、講評会時にフィードバックを行う。また、リアクションペーパーについては返却指導を実施する

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	イメージを豊かにする 1:動物等の被り物製作①素材の特徴を知る:プラン作成	栗本
第 2 回	イメージを豊かにする 1:動物等の被り物製作②ベース造り	栗本
第 3 回	イメージを豊かにする 1:動物等の被り物製作③張り込み	栗本
第 4 回	イメージを豊かにする 1:動物等の被り物製作④ペイント	栗本
第 5 回	イメージを豊かにする 1:動物等の被り物製作⑤完成・レポート作成・講評会	栗本
第 6 回	協働して表現する 1:モビール製作①講義・プラン作成	栗本
第 7 回	協働して表現する 2:モビール製作②材料加工針金の協働作業	栗本
第 8 回	協働して表現する 3:モビール製作③材料加工プラ板等の協働作業	栗本
第 9 回	協働して表現する 4:モビール製作④組み立ての協働作業	栗本
第 10 回	協働して表現する 5:モビール製作⑤完成・レポート作成・協働による表現活動の考察・講評会	栗本
第 11 回	造形表現の基礎知識・技能の応用 1:木製パズル製作①講義・製作プランの作成	栗本
第 12 回	造形表現の基礎知識・技能の応用 2:木製パズル製作②幼児の造形表現を使って下絵を描く	栗本
第 13 回	造形表現の基礎知識・技能の応用 3:木製パズル製作③パズル遊びと形	栗本
第 14 回	造形表現の基礎知識・技能の応用 4:木製パズル製作④完成・レポート作成。子どものパズル遊び	栗本
第 15 回	造形表現の基礎知識・技能の応用 5:木製パズル製作⑤講評会と授業のまとめ	栗本
定期試験	レポート課題	栗本

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋授業態度(積極性)(20%)＋作品レポート・作品評価(50%)＝合計(100%

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
保育をひらく造形表現　第2版	槇英子	萌文書林	978-4-89347-295-3

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

授業で得られた造形製作及び体験を各自で発展させ、幼児における造形表現を考え保育活動で役立つ作品を製作しなさい。

標準学修時間の目安:予習・復習・宿題を含めて 60 分程度が望ましい。

【備考】

なし

専門科目

科 目 名	教職概論 （保育者・教師論）	担当者名	濱中　啓二郎	
ナンバリングコード	22003			
必選・単位	選択 2 単位 （保育士・幼 2 免必修）	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	1年後期
			長期履修生	2年後期

【授業の概要】

現代社会における保育職・教職の意義を踏まえ、保育者・教員の役割と倫理を理解する。資格・要件、欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等を学び、制度的位置づけを理解する。また、保育者・教員の資質や能力、専門 性を理解し、計画に基づく実践、省察・評価による保育の質の向上について考察する。さらに、保育者・教員と保護者 及び地域との連携・協働の必要性を学び、資質向上やキャリア形成を理解する。

【授業の到達目標】

1 我が国における今日の保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園における保育・幼児教育や、保育職・教職の社会的意義を理解している。

2 保育・教育の動向を踏まえ、今日の保育者・教員に求められる専門性を考察し、役割や倫理について理解している。

3 保育者・教員の職務内容の全体像や、保育者・教員に課せられる服務上・身分上の義務を学び、制度的な位置づけを理解している。

4 園の担う役割が拡大・多様化する中で、園が内外の専門家等と連携・協働・分担して対応する必要性について理解している。

5 保育者・教員の資質向上とキャリア形成について理解する。

【授業方法】

・講義を中心としながらもグループワークも取り入れて授業を進める。
・毎回プリントを配布し、パワーポイントや映像を用いて授業を進める。
・講義の最後に自身の考えをまとめるワークシートを提出する機会が数回ある。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	―	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

プリントの配布など、授業に応じて支持する。

【学習成果】

①	「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
②	幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	○
③	保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④	子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤	保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥	学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦	生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	△
⑧	保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	理想の保育者・教員像を考える（保育士の制度的位置づけ、公教育の担い手としての教 員の位置づけ、保育職・教職の意義と目的）	濱中
第 2 回	保育者・教員の役割と倫理（保育観・教育観の変遷、職務内容と倫理）	濱中
第 3 回	保育者・教員の姿勢と責任（服務上・身分上の義務及び身分保障を踏まえて）	濱中
第 4 回	保育者・教員の姿勢と専門性・能力（今日の保育者・教員に求められる基礎的資質と専門	濱中
第 5 回	子どもへのまなざし（気になる子ども、配慮の必要な子どもの理解を深める、養護と教員の	濱中
第 6 回	保育の環境構成（物的・人的環境を活かしたクラス運営）	濱中
第 7 回	保育の計画と記録（発達段階に応じた保育者・教員の援助・配慮の計画）	濱中
第 8 回	教職員間の連携と協働（チーム学校運営の視点から１）	濱中
第 9 回	家庭との連携と保護者に対する支援（チーム学校運営の視点から２）	濱中
第 10 回	専門機関及び地域との連携と協働（チーム学校運営の視点から３）	濱中
第 11 回	自己課題、計画に基づく実践と評価・反省、質の向上	濱中
第 12 回	保育者・教員の専門性１（保育職・教職の職業的特徴と専門性）	濱中
第 13 回	保育者・教員の専門性２（保育者・教員の職務の全体像）	濱中
第 14 回	保育者・教員の専門性３（専門性の向上とキャリア形成）	濱中
第 15 回	保育者・教員を目指す上での目線と自己課題を考える	濱中
定期試験	定期試験(筆記試験)	濱中

【成績評価の方法･基準】

試験(70%)＋提出物及びグループワークへの参加(30％)＝100%

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育･保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
なし			

【授業時間外学習(予習･復習･準備学習等)】

授業の中で、内容に応じて指示する。

標準学修時間の目安:1回の授業について、予習・復習・課題を含めて 120 分とする。

【備考】

授業では毎回プリントを配布するので、ファイル等に保管し、これまでのプリントも毎回持参すること。

専門科目

科 目 名	教育原理*	担当者名	吉濱 優子*	
ナンバリングコード	22001			
必選・単位	必修2単位	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	1年前期
			長期履修生	2年前期

【授業の概要】

我が国における教育史・幼児教育についての変遷を中心に、教育思想及び子ども観を概観し、現代社会における教育・保育内容がどのように成立したかを理解する。後半は地域のつながりと保育の在り方に重点を置く。

世界の教育内容や思想の成り立ち、現代的な教育問題を提示し、問題意識をもって理解する。

【授業の到達目標】

1 教育の基本的概念を身につけるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解している。具体的には、人類史の中で蓄積されてきた教育の諸原理の基礎を学び、教育とはどのような営みであるか、その本質を理解するための基礎を培う。

2 教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解している。具体的には、世界と日本の教育の理念や制度を学ぶとともに、教育の歴史的な展開の実相に触れ、保育者、幼児教育者となるための教育観の基礎を培う。さらに、生涯学習社会における教育の現状と課題について理解している。

3 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。具体的には、保育者・幼児教育者に求められる教養や専門的知識、実践力、使命感や子どもを受け止め理解しようとする力など、保育者・幼児教育者に必要な人間的資質について教育思想家の思想を基礎に学習し、自己の理想とする保育者・幼児教育者像を確立するための基礎を培う。

4 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身につけるとともに、そこに内在する課題を理解している。具体的には、保育を支える法制度がどのような法律によって支えられているか学ぶことを通じて、保育者は法的知見が必須であり、遵法精神を身につけている必要があることを理解している。

5 園と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解している。今日の幼稚園や保育所、認定こども園などの施設で実施される保育・教育は、地域社会や家庭との連携が求められている。本授業では地域社会との連携について取り上げ、子どもを育てる為には、家庭と地域社会も含めた包括的な支援が必要であると理解し、地域に開かれた園を構築する力の基礎を培う。

6 園の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解している。具体的には、保育や幼児教育に携わる保育者や幼児教育者として災害等に対してどのように対応するか、そして事故を未然に防ぎつつも子どもの経験や交際を豊かにするためには取り組みが必要か考える基礎を培う。

【授業方法】

・幼稚園教諭・保育園園長としての実務経験のある教員により、「保育者の専門性」について実践的に学ぶ。
・教科書を使用し、必要なときには資料を配付して講義する。
・講義においては、内容に応じてグループワークを中心に行う場合もある。
・授業において手遊び等の保育技術等につながる演習を行う。
・学生の理解等、状況に応じて内容変更の場合あり。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	—	○	—	

【課題に対するフィードバックの方法】

学内サイトにて配信する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	○
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	△
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	ガイダンス 大学とは何か、高等教育とは何か	吉濱
第 2 回	教育学と教育原理 欧米における教育学的価値観の変遷	吉濱
第 3 回	教育の意義と目的、子ども家庭福祉等との関連性	吉濱
第 4 回	教育法規・教育行政について	吉濱
第 5 回	保育者の役割と教育法規1:保育者に求められる資質と専門性	吉濱
第 6 回	保育者の役割と教育法規2:もしも災害が起こったら？	吉濱
第 7 回	西洋教育思想史1:古代から中世	吉濱
第 8 回	西洋教育思想史2:近世から近代	吉濱
第 9 回	西洋教育思想史3:近代から現代	吉濱
第 10 回	日本の教育制度1:戦前の教育制度	吉濱
第 11 回	日本の教育制度2:戦後の教育制度	吉濱
第 12 回	地域に開かれた学校づくり:子どもを育てる環境の充実	吉濱
第 13 回	生涯学習社会の理念	吉濱
第 14 回	児童の権利と教育1:児童の権利の歴史	吉濱
第 15 回	児童の権利と教育2:児童の権利に関する条約・まとめ	吉濱
定期試験	レポート試験	吉濱

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋授業態度・積極性(40%)＋課題提出(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
保育のための教育原理	垂見直樹／金俊華	ミネルヴァ書房	978-4-623-08513-2

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領解説　平成 30 年 3 月	文部科学省	フレーベル館	978-4-5778-1447-5
保育所保育指針解説　平成 30 年 3 月	厚生労働省	フレーベル館	978-4-5778-1449-9

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

授業等において内容に応じ指示する。
標準学修時間の目安：1回の授業あたり予習・復習・課題などを含めて、30～60 分程度が望ましい。

【備考】

教科書を必ず持参すること。配布したプリントはきちんと管理すること。

専門科目

科 目 名	保育原理	担当者名	益田　かな子	
ナンバリングコード	22002			
必選・単位	必修2単位	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	1年前期
			長期履修生	1年前期

【授業の概要】

本科目では、保育所保育指針に明記されている「資質・能力」を育む保育方法及び、求められる保育士の専門性について学んでいく。子ども達が資質・能力を育むための援助方法及び環境構成方法を事例等において理解し、実習や保育者になった際に実践できることを目的とする。

海外の保育等において、現在行われている保育内容と我が国の保育内容を比較検討し、今後の保育内容における在り方についても教授する。

【授業の到達目標】

1　保育の意義及び目的について理解する。
2　保育に関する法令及び制度を理解する。
3　保育所保育指針における保育の基本について理解する。
4　保育の思想と歴史的変遷について理解する。
5　保育の現状と課題について理解する。

【授業方法】

テキストを中心に講義を展開する。パワーポイントを使用し、重要な個所や語句等について解説する。授業内容にそった記入できるプリントを用い、学びの確認ができるようにする。
授業は主に講義となるが、グループワークおよびディスカッションを取り入れ、保育所保育指針をもとに「保育」の基本概念を共有しあい、保育者像や保育者の専門性までも考えられるようにする。また保育を取り巻く社会情勢を視野に入れながら、現代の保育についても考えていく。
ボランティアや実習での経験を大切にし、保育現場のDVDなどの視聴覚教材を取り入れることで保育を身近に感じ、子どもへの思いやりと愛情、成長を支える立場となる使命感をもてるようにする。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	―	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内でも予習や復習をおこない、リアクションペーパー等の提出物より授業内容の理解度をはかり、質問内容等についても次回の授業に反映できるようにする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	◎
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	○
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	保育について	益田
第 2 回	子どもと保育に関する法令	益田
第 3 回	保育所について学ぶ ―保育所保育指針―	益田
第 4 回	保育所について学ぶ ―保育のねらい及び内容―	益田
第 5 回	幼稚園について学ぶ	益田
第 6 回	幼保連携型認定こども園について学ぶ	益田
第 7 回	保育所保育の方法	益田
第 8 回	保育の計画と評価	益田
第 9 回	子どもの理解に基づく保育①理論編	益田
第 10 回	子どもの理解に基づく保育②実践編	益田
第 11 回	地域社会で行う子育ての支援	益田
第 12 回	障害児を受け入れる保育	益田
第 13 回	保育の歴史	益田
第 14 回	日本の保育の現状	益田
第 15 回	まとめ:これからの保育現代の領域「人間関係」を取り巻く諸問題を考える―子どもの生活を中心にして―	益田
定期試験	筆記試験	益田

【成績評価の方法・基準】

定期試験(筆記)(50%)＋課題・提出物(40%)＋授業の積極性(10%)＝(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3
新・保育原理 第4版 すばらしき保育の世界へ	三宅茂夫	みらい	978-4-86015-430-1

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業中に適宜資料を配布する。			

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

日常生活において保育とのつながりや課題を意識する。授業内でのワークに向けた準備学習をする。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・課題などを含めて、60 分～90 分程度が望ましい。

【備考】

意欲的・積極的な取り組みに期待します。授業の進捗状況によって、授業内容が前後する場合があります。

専門科目

科 目 名	子ども家庭福祉	担当者名	八田　清果	
ナンバリングコード	22006			
必選・単位	選択2単位（保育士必修）	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	1 年後期
			長期履修生	1 年後期

【授業の概要】

子どもは家庭や社会との相互関係の中で成長・発達していくという基本的考え方のもとに、子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷、現状と課題、動向と展望を理解する。また、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度と実施体系を理解する。さらに、福祉施設での実習も念頭に置き、現場で役立つ知識及び援助の方法を身につける。

【授業の到達目標】

1　現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。

2　子どもの人権擁護について理解する。

3　子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。

4　子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。

5　子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

【授業方法】

①書き込み式のプリントを配付するので、必要なことは書き込むようにしてほしい。小グループでのグループワークも取り入れながら、各自が自ら考えそして意見交換できる機会を設けることとする。また、DVD等も使用しながら視覚的教材も活用しより理解が深まるように努める。
②授業冒頭に、20 分を使い毎回 2～3 名ずつの「5 分間スピーチ」を行う。子どもや家庭、福祉に関することで興味のあるテーマを各自1つ取り上げ、パワーポイントでの資料作成を行い、それに基づいたスピーチを行う。また、併せて指定学生コメンテーターによるねぎらいとコメント・質疑応答を行う。さらに、クラスメイトは、発表に対するコメントをコメントシートに記入し、最後に提出をしてもらうこととする。
※Google クラスルーム内に授業で使用した資料、スライドを置いておくので復習等に活用してほしい。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回リアクションペーパーを提出してもらい、それにコメントをつけて返却する。グループワーク等の演習やDVD視聴に関しては振り返りをし、提出してもらう。それら提出された課題に対しては、提出状況及び内容について確認を行い返却を行う。授業内で行う振り返りについては答え合わせまで行い、その内容について再度解説をする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	△
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	現代社会における子ども家庭福祉の理念と概念	八田
第 2 回	子ども家庭福祉の歴史	八田
第 3 回	子どもの権利と権利擁護	八田
第 4 回	子ども家庭福祉の法体系と行財政	八田
第 5 回	子ども家庭福祉にかかわる専門機関	八田
第 6 回	子ども家庭福祉の専門職	八田
第 7 回	母子保健サービス	八田
第 8 回	保育サービス	八田
第 9 回	子ども虐待とドメスティックバイオレンス(DV)	八田
第 10 回	社会的養護	八田
第 11 回	子どもの貧困、外国にルーツを持つ子どもとの家庭への対応	八田
第 12 回	少年非行	八田
第 13 回	障害のある子どもへの福祉	八田
第 14 回	子育て支援サービス	八田
第 15 回	子ども家庭福祉の課題	八田
定期試験	レポート試験	八田

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(40%)＋平常点(受講態度・スピーチ)(40%)＋提出物(20%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現代社会　保育と子ども家庭福祉　第2版	櫻井奈津子	みらい	978-4-86015-611-4
ひと目でわかる保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック 2026	全国保育士養成協議会／山縣文治	中央法規出版	978-4-8243-0363-9

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
福祉・保育小六法　2026 年版	福祉・保育福祉小六法編集委員会	みらい	978-4-86015-669-5

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

毎時間教科書を事前に読み、授業で配付したプリントを読み返し、わからないことがあれば聞きに来ること。また授業内容を深めるための課題を出すこともあるので、各自学修し作成すること。

標準学修時間の目安:予習・復習・宿題を含めて 60 分程度が望ましい

【備考】

授業を欠席した場合は、翌週の授業前までに研究室に来て、配付したプリント等を自分でもらいにくるか、Google クラスルーム内に置いてある資料を印刷しておくこと。

専門科目

科 目 名	社会福祉*	担当者名	浅香　勉*	
ナンバリングコード	22005			
必選・単位	選択2単位（保育士必修）	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	1年前期
			長期履修生	1年前期

【授業の概要】

現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。また、社会福祉の制度と法体系、社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設や専門職、社会保障及び関連制度について学ぶ。さらに、社会福祉における相談援助について理解する。社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みを理解し、社会福祉の動向と課題について考える。

講義では、児童養護施設での児童指導員、主任指導員としての実務経験を活かし、広く子どもと保護者・地域の人々の理解、更には個別的配慮を必要とする人たちの理解に向き合う。そして、権利擁護・自己実現に必要な社会福祉に関する知識と姿勢を、具体的かつ実践的に教授する。

【授業の到達目標】

1　現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。

2　社会福祉の制度や実施体系等について理解する。

3　社会福祉における相談援助について理解する。

4　社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。

5　社会福祉の動向と課題について理解する。

【授業方法】

(1) 授業冒頭に、毎回 2 名ずつの「5 分間スピーチ」を行う。この取組みにより、学生は資料作成の方法と共に、社会福祉から更に広い一般教養の習得の契機とすることができる。併せて発表者は、毎回2名のコメンテーターによる「ねぎらい」とコメントをクラスメートより提示してもらい、フィードバックと共に、評価も貰う。また全員が、コメントシートに各自記入・保管し、科目修了時の評価対象としても活用する。(2) 次いで前回の講義内容の確認・復習を学生とのやり取り、質問等により進める。(3) 講義内容は、パワーポイントによる場合、印刷資料 による場合、映像を活用する場合等である。基本的に、講義中はクラス全員が質問に答えるか、NEWS IN EDUCATION としてのスピーチに関わるか、そのコメントを提示して積極的に関わる等、相互交流のできる授業を目指している。社会福祉小六法、データブック等も購入しアクティブラーニングにも取り組む。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他：
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

(1)「5 分間スピーチ」への各自のコメントは、科目修了時に提出し評価対象としても活用する。
(2) 授業への質問、意見・要望等を各回フィードバックシートとして提出し、次回授業の際に記入返却し、授業に反映する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	△
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	△
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	オリエンテーション―社会福祉の考え方―	浅香
第 2 回	社会福祉を取り巻く環境	浅香
第 3 回	社会福祉の歴史	浅香
第 4 回	社会福祉の仕組み	浅香
第 5 回	社会福祉サービスの利用の仕組み	浅香
第 6 回	社会福祉の機関と施設	浅香
第 7 回	社会保障	浅香
第 8 回	低所得者福祉	浅香
第 9 回	子ども家庭福祉	浅香
第 10 回	高齢者福祉	浅香
第 11 回	障害者福祉	浅香
第 12 回	地域福祉	浅香
第 13 回	利用者保護制度	浅香
第 14 回	ソーシャルワーク	浅香
第 15 回	社会福祉の担い手	浅香
定期試験	筆記試験	浅香

【成績評価の方法・基準】

定期試験(筆記)(40%)＋議論・質問等に臨む授業の積極性(30%)＋課題の到達度(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
新・プリマーズ/ 保育 / 福祉 社会福祉　第 6 版	石田慎二／ 山縣文治	ミネルヴァ書房	978-4-623-09683-1
ひと目でわかる保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック 2026	全国保育士養成 協議会／ 山縣文治	中央法規出版	978-4-8243-0363-9
福祉・保育小六法　2026 年版	福祉・保育福祉小六法編集委員会	みらい	978-4-86015-669-5

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業中に適宜提示する			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

(1)テキストの下調べをする。
(2)課題に取り組み、併せて学生同士でディスカッションをする

標準学修時間の目安：予習・復習・宿題を含めて 60 分程度が望ましい。

【備考】

テキスト・参考文献以外にも関連する書籍をよく読むとともに、特に新聞等で情勢を把握すること。

専門科目

科 目 名	子ども家庭支援論*	担当者名	浅野 路子*	
ナンバリングコード	22007			
必選・単位	選択2単位（保育士必修）	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	3年前期

【授業の概要】

子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について学ぶ。また、子育て家庭に対する支援の体制について学習する。さらに、子育て家庭のニーズに応じた支援の展開と子ども家庭支援の現状、関係機関との連携について理解する。

【授業の到達目標】

1　子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。

2　保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。

3　子育て家庭に対する支援の体制について理解する。

4　子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

【授業方法】

授業はプリントを配布し、PowerPoint のスライドで進めていきます。また、公認心理師、臨床心理士、臨床発達心 理士の実務家教員により、事例をあげて解説を行いますが、関連のテーマについて、少人数でのディスカッション 等の機会も設けます。

プリントと PowerPoint は、必ずしも一対一対応しているわけではありませんので、考えながらメモを取って下さい。 スライドの内容を書き込んで穴埋めをするだけではなく、先生が話したこと、自分なりに考えたことなどもどんどんメモしていくことが必要です。その際、予習で読んできた内容と結びつけながら授業を聞き、ノートを取ると良いでしょう。また、授業中に発言を求められる機会もありますので、進んで手を挙げて発言することが求められます。発言を求められていない場面でも、疑問がある場合や自分の意見を言いたいときには、挙手をして発言して下さい。発言 は、自分にとってももちろんためになるものですが、一緒に授業を取っている他の学生にとっても有意義になるはずです。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	―	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で考えたこと疑問に思ったことをリアクションペーパーに記入してもらいます。全体で共有すべき内容については授業内で取りあげます。また、必要に応じて個別にコメントを返す場合もあります。小テストについては、 解答・解説を行いますので、間違えたところはしっかり復習し、確かな知識としてください。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	△
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	△
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	子ども家庭支援の意義と必要性	浅野
第 2 回	子ども家庭支援の目的と機能	浅野
第 3 回	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	浅野
第 4 回	子どもの育ちの喜びの共有	浅野
第 5 回	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	浅野
第 6 回	保育士に求められる基本的態度(受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等)	浅野
第 7 回	家庭の状況に応じた支援	浅野
第 8 回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	浅野
第 9 回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	浅野
第 10 回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	浅野
第 11 回	子ども家庭支援の内容と対象	浅野
第 12 回	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	浅野
第 13 回	地域の子育て家庭への支援	浅野
第 14 回	要保護児童等及びその家庭に対する支援	浅野
第 15 回	子ども家庭支援に関する現状と課題	浅野
定期試験	筆記試験	浅野

【成績評価の方法・基準】

定期試験(筆記)(40%)＋課題及び小テスト(30%)＋授業への積極的参加(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
子ども家庭支援論 第 2 版	原信夫／松倉佳子	北樹出版	978-4-7793-0746-1

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

授業に参加するにあたって、あらかじめ、該当するテキストのページをよく読んできてください。そして、日頃より社会状況に関心をもち、子どもや子育て家庭にどのように影響するかを考え、なるほどと思ったことや疑問に思ったことをまとめておくと良いでしょう。授業中に書いたノートは単なるメモですので、それを後で整理してまとめる必要があります。その途中で必ず、理解があやふやだったり、さらに疑問に思うところが出てくるはずです。その時には改めて調べたり、先生に聞いたりして、知識や理解の不十分なところを補いましょう。わからない点や疑問点は、自 分の知識と理解を深めるためのチャンスですので、それをしっかり捕まえて、授業の内容を深めていって下さい。

標準学修時間の目安:予習 30 分、復習 60 分程度が望ましい。

【備考】

専門科目

科 目 名	社会的養護Ⅰ *	担当者名	浅香 勉*	
ナンバリングコード	22004			
必選・単位	選択2単位（保育士必修）	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	3年前期

【授業の概要】

現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷、社会的養護の制度と実施体系、社会的養護の対象や形態、関係する専門職等、社会的養護の現状と課題を学ぶことにより、社会的養護の基本的な考え方及び児童福祉施設等における保育の本質と目的等について、理解する。

講義では、児童養護施設での児童指導員、主任指導員としての実務経験を活かし、広く子どもと保護者・地域の人々の理解、更には個別的配慮を必要とする人たちの理解に向き合う。そして、権利擁護・自己実現に必要な社会的養護に関する基本的な制度的知識を、具体的かつ実践的に教授する。

【授業の到達目標】

1 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する

2 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。

3 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。

4 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。

5 社会的養護の現状と課題について理解する。

【授業方法】

(1) 授業冒頭に、毎回 2 名ずつの「5 分間スピーチ」を行う。この取組みにより、学生は資料作成の方法と共に、社会的養護に限らない広い一般教養の習得の契機とすることができる。更に、毎回2名のコメンテーターによるコメントをクラスメートより提示してもらい、フィードバックと共に、評価も貰う。また全員が、コメントシートに各自記入・保管し、科目修了時の評価対象としても活用する。(2) 次いで前回の講義内容の確認・復習を学生とのやり取り、質問、課題プリント等により進める。(3) 講義内容は、パワーポイントによる場合、印刷資料 による場合、映像を活用する場合等である。基本的に、講義中はクラス全員が質問に答えるか、NEWS IN EDUCATION としてのスピーチに関わるか、そのコメントを提示して積極的に関わる等、相互交流のできる授業を目指している。社会福祉小六法、データブック等も活用しアクティブラーニングにも取り組む。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他：
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

(1)「5 分間スピーチ」への各自のコメントは、科目修了時に提出し評価対象としても活用する。
(2) 授業への質問、意見・要望等を各回フィードバックシートとして提出し、次回授業の際に記入返却し、授業に反映する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	△
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	◎
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	△
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	○
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	社会的養護を学ぶ意義	浅香
第 2 回	社会的養護の理念と概念	浅香
第 3 回	社会的養護の歴史的変遷	浅香
第 4 回	子どもの人権擁護と社会的養護	浅香
第 5 回	権利のとらえ方と近年の施策動向	浅香
第 6 回	社会的養護における保育士等の倫理と責務	浅香
第 7 回	社会的養護の制度と法体系	浅香
第 8 回	社会的養護の仕組みと実施体制	浅香
第 9 回	社会的養護の社会資源	浅香
第 10 回	社会的養護の対象	浅香
第 11 回	社会的養護の中の家庭養護と施設養護	浅香
第 12 回	社会的養護に求められる専門性	浅香
第 13 回	社会的養護と国家資格・任用資格	浅香
第 14 回	児童虐待等の対応のための専門職	浅香
第 15 回	里親支援をする専門職	浅香
定期試験	筆記試験	浅香

【成績評価の方法・基準】

定期試験(筆記)(40%)＋議論・質問等に臨む授業の積極性(30%)＋課題の到達度(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
最新保育士養成講座 社会的擁護と障害児保育　改訂1版	『最新保育士 養成講座』総括 編纂委員会	全国社会福祉協議会	978-4-7935-1408-1
ひと目でわかる保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック 2025	全国保育士養成 協議会監修／ 宮島清	中央法規出版	978-4-8243-0363-9
福祉・保育小六法　2025 年版	福祉・保育福祉小六 法編集委員会	みらい	978-4-86015-669-5

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

(1)テキストの下調べをする。(2)課題に取り組み、併せて学生同士でディスカッションをする。

標準学修時間の目安：予習・復習・宿題を含めて 60 分程度が望ましい

【備考】

テキスト・参考文献以外にも関連する書籍をよく読むとともに、特に新聞等で情勢を把握すること。

専門科目

科 目 名	こども文化Ⅰ*	担当者名	前徳明子* （ゲストスピーカー）	
ナンバリングコード	23001			
必選・単位	選択1単位（保育士選択必修） （認定絵本士資格必修）	担当形態	オムニバス・複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年後期
			長期履修生	1年後期

【授業の概要】

「こども文化」について追求する中で、特に「絵本」についての知識を深めると共に、実際に自分自身が触れ、体験する。また、こどもをめぐる絵本の文化状況の変化を追いながら、こどもの成長と絵本のかかわりなどについて考える。

【授業の到達目標】

1　こどもについて理解すると共に多様な絵本について知り、追体験的に学習する。

2　保育実践における絵本を活かした活動について知る。

3　人間形成におけるこども文化の役割の重要性を知る。

【授業方法】

こどもの育ちを支える文化としての絵本や遊びを、その役割を考えながら授業を進めていく。実際に体験したり遊んだりすることで、その物を通して保育を見る目を育てる。また、幼稚園での現場経験がある実務家教員が、幼児教育現場とこども文化とのつながりの深さを伝えていく。毎授業、絵本を1冊読んでくることを課題として、おおむね 1人 10 冊×受講生分（なるべく重ならないように選んでもらう）の絵本に触れる機会を持つというのも、目的としている。授業の成果として読み語りの発表をしたり、絵本の紹介をしたり活動的な授業である。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内容をはじめ多様なこどもの文化についてディスカッションを重ね、必要性や意義などを感じ取ることができるようにする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	△
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	オリエンテーション　「こども文化」とは (我が国の読書推進活動、相互理解)	前徳
第 2 回	絵本総論 (絵本とは何か)	前徳
第 3 回	絵本各論① (絵本の歴史、絵本賞について)	村上 (前徳)
第 4 回	絵本各論② (視覚表現、言語表現から見た絵本)	前徳
第 5 回	絵本各論③ (子供の知的・社会的発達と絵本との関わり)	前徳
第 6 回	絵本各論④ (メディアとしての絵本の位置づけ)	片野 (前徳)
第 7 回	さまざまなジャンルの絵本① (物語の絵本)	村上 (前徳)
第 8 回	さまざまなジャンルの絵本② (昔話、童話を基にした絵本)	村上 (前徳)
第 9 回	さまざまなジャンルの絵本③ (科学絵本)	前徳
第 10 回	絵本と出会う① (はじめての絵本との出会い)	前徳
第 11 回	絵本と出会う② (保育・教育の場での出会い)	前徳
第 12 回	絵本と出会う③ (図書館等での出会い～絵本の活用及び地域連携の可能性～)	片野 (前徳)
第 13 回	絵本と出会う④ (書店での出会い)	青野 (前徳)(片野)
第 14 回	絵本の世界を広げる技術 (絵本を探す技術)	片野 (前徳)
第 15 回	絵本を紹介する技術 (ブックトークの技術)	片野 (前徳)
定期試験	レポート試験	前徳

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(40%)＋授業への取り組み(20%)＋授業内での提出物・発表(40%)＝(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
認定絵本士養成講座テキスト　第2版	絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ	中央法規出版	978-4-8243-0056-0

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業中に適宜紹介する。			

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

授業で紹介された絵本は、必ず、手にとって読んでおくこと。日頃から絵本や児童文学、玩具などに多く触れる機会を持つようにする。常にお薦めの絵本を用意し、簡単な内容紹介ができるようにする。

標準学修時間の目安:それぞれの授業について、テキストを確認し、事前に絵本を確認するなどの予習や復習を含

【備考】

こども文化財に興味を持ち、楽しみながら子ども理解を深める。

専門科目

科 目 名	こども文化Ⅱ*	担当者名	前徳明子* とよたかずひこ （ゲストスピーカー）	
ナンバリングコード	23002			
必選・単位	選択1単位（保育士選択必修） （認定絵本士資格必修）	担当形態	オムニバス・複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	2年前期

【授業の概要】

「こども文化」について追求する中で、特に「絵本」についての知識を深めると共に、実際に自分自身が触れ、体験する。また、こどもをめぐる絵本の文化状況の変化を追いながら、こどもの成長と絵本のかかわりなどについて考える。

【授業の到達目標】

1　こどもについて理解すると共に多様な絵本について知り、追体験的に学習する。

2　保育実践における絵本を活かした活動について知る。

3　人間形成におけるこども文化の役割の重要性を知る。

【授業方法】

こどもの育ちを支える文化としての絵本を、その役割を考えながら授業を進めていく。実際に体験したり、おはなし会の企画をすることで、その物を通して保育を見る目を育てる。また、幼稚園での現場経験がある実務家教員が、幼児教育現場と絵本のつながりの深さを伝えていく。毎授業、絵本を1冊読んでくることを課題として、おおむね 1人 10 冊×受講生分（なるべく重ならないように選んでもらう）の多様な絵本に触れる機会を持つこと目的としている。授業の成果として発表をしたり、お話し会の企画、運営をするなど、活動的に取り組む授業である。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内容をはじめ多様なこどもの文化についてディスカッションを重ね、必要性や意義などを感じ取ることができるようにする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	△
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	絵本の世界を広げる技術② (ワークショップ)	前德 (栗本)
第 2 回	絵本の世界を広げる技術③ (絵本コンシェルジュ術)	片野 (前德)
第 3 回	絵本を紹介する技術② (書評・紹介文の書き方)	片野 (前德)
第 4 回	絵本を紹介する技術③ (支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割)	前德 (八田)
第 5 回	おはなし会の手法① (おはなし会を開こう)	前德
第 6 回	おはなし会の手法② (おはなし会のテクニック)	前德
第 7 回	絵本の持つ力 (さまざまな角度から絵本を見る)	上原 (前德)
第 8 回	心に寄り添う絵本 (心のケアと絵本の可能性)	上原 (前德)
第 9 回	絵本のある空間 (絵本のある望ましい空間とは)	片野 (前德)
第 10 回	子供の心をとらえるもの (子供の心をとらえて離さないもの)	村上 (前德)
第 11 回	大人の心を豊かにする絵本 (人生で3度、絵本を手にする喜び、大人にこそ絵本を)	上原 (前德))
第 12 回	ホスピタリティに学ぶ (人を楽しませる為の手法を学ぼう)	上原 (前德)
第 13 回	絵本が生まれる現場① (作家の感性に触れる)	とよた (前德)
第 14 回	絵本が生まれる現場② (絵本の編集)	山田 (前德)
第 15 回	ディスカッション(認定絵本士にむけて)	前德
定期試験	レポート試験	前德

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(40%)＋授業への取り組み(20%)+授業内での提出物・発表(40%)＝(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
認定絵本士養成講座テキスト　第2版	絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ	中央法規出版	978-4-8243-0056-0

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業中に適宜紹介する。			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

授業で紹介された絵本は、必ず、手にとって読んでおくこと。常にお薦めの絵本を用意し、簡単な内容紹介ができるようにする。また、認定絵本士取得後の活動にもつながるようにおはなし会やお薦めの絵本紹介企画などに積極的に参加する。

標準学修時間の目安:それぞれの授業について、テキストを確認し、事前に絵本を確認するなどの予習や復習を

【備考】

絵本に興味を持ち、楽しみながら子ども理解を深める。

専門科目

科 目 名	教育心理学*	担当者名	浅野 路子*	
ナンバリングコード	23003			
必選・単位	必修2単位	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	1 年前期
			長期履修生	2 年前期

【授業の概要】

子どもの心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。また、養護と教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深めていく。さらに、保育、幼児教育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。教育心理学は、心理学の知見を教育の実践場面に応用するだけでなく、実践をもとに学びについての新たな理論を構築していく学問でもある。本授業では、理論と実践場面での問題や指導・支援のあり方を結び付けながら学んでいく。

【授業の到達目標】

1 子どもの心身の発達の過程及び特徴を理解している。
2 子どもの学習に関する基礎的知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解している。
3 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。
4 子どもの発達に関わる心理学の基礎を修得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。
5 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を修得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。

【授業方法】

授業はプリントを配布し、PowerPoint のスライドで進めていきます。また、公認心理師、臨床心理士、臨床発達心理士の実務家教員により、事例をあげて解説を行います。

プリントと PowerPoint は、必ずしも一対一対応しているわけではありませんので、考えながらメモを取って下さい。スライドの内容を書き込んで穴埋めをするだけではなく、先生が話したこと、自分なりに考えたことなどもどんどんメモしていくことが必要です。その際、予習で読んできた内容と結びつけながら授業を聞き、ノートを取ると良いでしょう。また、授業中に発言を求められる機会もありますので、進んで手を挙げて発言することが求められます。発言を求められていない場面でも、疑問がある場合や自分の意見を言いたいときには、挙手をして発言して下さい。発言は、自分にとってももちろんためになるものですが、一緒に授業を取っている他の学生にとっても有意義になるはずです。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	―	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で考えたこと疑問に思ったことをリアクションペーパーに記入してもらいます。全体で共有すべき内容については授業内で取りあげます。また、必要に応じて個別にコメントを返す場合もあります。小テストについては、解答・解説を行いますので、間違えたところはしっかり復習し、確かな知識としてください。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	○
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	○
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	教育心理学とは、発達を捉える視点、発達の道筋	浅野
第 2 回	子どもの発達と環境	浅野
第 3 回	感情の発達と自我	浅野
第 4 回	身体的機能と運動機能の発	浅野
第 5 回	知覚と認知の発達	浅野
第 6 回	言葉と社会性の発達	浅野
第 7 回	他者とのかかわり、仲間関係の発達	浅野
第 8 回	基本的信頼感の獲得（母子関係とアタッチメント	浅野
第 9 回	社会性、道徳性の発達	浅野
第 10 回	子どもの集団の理解と支援、集団づくり	浅野
第 11 回	学びのメカニズムと支援①（条件づけ、観察学習など）	浅野
第 12 回	動機づけ	浅野
第 13 回	学びのメカニズムと支援②（保育・教育への応用	浅野
第 14 回	主体性、自主性の必要性と問題	浅野
第 15 回	保育評価、学習評価	浅野
定期試験	レポート試験	浅野

【成績評価の方法・基準】

レポート試験(40%)＋課題及び小テスト(30%)＋授業への積極的参加(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
実践に活かす保育の心理学	原口喜充	ミネルヴァ書房	978-4-623-09522-3

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

事前に教科書に目を通すなどの、自分なりの予習も怠らないように。あらかじめ教科書を読んでくることで、授業の内容も頭に入りやすくなりますし、聴くポイントもつかめます。わからない語句や専門用語があれば、あらかじめ調べてくることも必要でしょう。できれば、自分なりになるほどと思った点や疑問点を、ノートにまとめてくると、よりよい準備となるはずです。授業中に書いたノートは単なるメモですので、それを後で整理してまとめる必要があります。その途中で必ず、理解があやふやだったり、さらに疑問に思うところが出てくるはずです。その時には改めて調べたり、先生に聞いたりして、知識や理解の不十分なところを補いましょう。わからない点や疑問点は、自分の知識と理解を深めるためのチャンスですので、それをしっかり捕まえて、授業の内容を深めていって下さい。

標準学修時間の目安：予習 30 分、復習 60 分程度が望ましい。

【備考】

専門科目

科 目 名	子ども家庭支援の心理学*	担当者名	熊上　藤子*	
ナンバリングコード	23006			
必選・単位	選択 2 単位(保育士必修)	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	2 年後期
			長期履修生	3 年後期

【授業の概要】

生涯発達に関する心理学の基礎的知識を修得し、初期経験の重要性、発達課題について理解する。子どもの発達において重要な役割を持つ家庭・家族の意義や機能を理解し、親子関係、家族関係を発達的な観点から理解していくことで、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を身につけていく。子育て家庭をめぐる現状と課題を捉え考察する。さらに、子どもの精神保健とその課題について理解する。

【授業の到達目標】

1　生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を修得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2　家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を修得する。
3　子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4　子どもの精神保健とその課題について理解する。

【授業方法】

・授業は、テキストの内容や学生の理解度・関心に応じて、講義、資料の読解、簡単なワーク、意見の共有、課題への取り組み等を適宜組み合わせて進める。
・講義では、パワーポイント等の視聴覚教材を用いて、重要な概念や用語、考え方、事例等について解説する。
・演習や課題への取り組みでは、個人での作業、全体での共有、必要に応じた話し合い等を取り入れ、内容の理解を深める。
・身近な疑問や問いを手がかりに、心理学などの資料やデータ、調査結果等をもとに考察する活動も取り入れる。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	—	ロールプレイ

【課題に対するフィードバックの方法】

授業のリアクションペーパー、および家庭学習課題などの提出課題は、内容に応じて個別にコメントを記入して返却する。また、全体で共有すべき意見や質問については、授業内で取り上げる。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	△
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	乳幼児期の発達	熊上
第 2 回	幼児期の発達	熊上
第 3 回	学童期の発達	熊上
第 4 回	青年期の発達	熊上
第 5 回	成人期・中年期の発達	熊上
第 6 回	高齢期の発達	熊上
第 7 回	家族・家庭の意義と機能	熊上
第 8 回	家族関係・親子関係の理解	熊上
第 9 回	子育ての経験と親としての育ち	熊上
第 10 回	子育てを取り巻く社会的状況	熊上
第 11 回	ライフコースと仕事・子育て	熊上
第 12 回	多様な家庭とその理解	熊上
第 13 回	特別な配慮を要する家庭	熊上
第 14 回	子どもの生活・生育環境とその影響	熊上
第 15 回	子どものこころの健康にかかわる問題	熊上
定期試験	レポート試験	熊上

【成績評価の方法・基準】

定期試験（レポート）(40%)＋家庭学習課題(30%)＋授業への取り組み(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
新　基本保育シリーズ9 子ども家庭支援の心理学	児童育成協会／ 白川佳子	中央法規出版	978-4-8058-5789-2

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
エピソードで学ぶ 子ども家庭支援の心理学	小原倫子／ 小林佐知子	ミネルヴァ書房	978-4-6230-9666-4
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

・予習として、テキストの該当箇所を読むこと。
・復習として、授業の内容を振り返り、疑問や不明点を整理し、資料やテキストをもとに理解を深めること。
・家庭学習課題がある場合は、自身が現場で実践することを想定しながら取り組むこと。
・提出を求める課題は、成績評価の対象とする。

標準学修時間の目安：　予習・復習・家庭学習を含めて 45～60 分程度が望ましい。

【備考】

テキストをよく読むとともに、新聞・テレビ等で、子どもや家庭支援に関する情勢を把握すること。

専門科目

科 目 名	特別支援教育*	担当者名	荻野　昌秀*	
ナンバリングコード	23007			
必選・単位	選択1単位（幼2免必修）	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	2年後期
			長期履修生	3年後期

【授業の概要】

多くの園に在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする子どもが保育における活動や遊びに参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていくことができるよう、子どもの生活上の困難を理解し、個別のニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら、組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。また、様々なタイプの障害について、病理や心理などの問題を含む発達の観点と、教育・保育課程や制度、指導・支援法などの教育・保育の観点から授業を行う。

【授業の到達目標】

1　特別の支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達を理解している。

2　特別の支援を必要とする子どもに対する教育課程や支援の方法を理解している。

3　障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもの学習上又は生活上の困難とその対応を理解している。

【授業方法】

配付資料、参考文献を活用して、講義・演習を行う。インクルーシブ保育や様々な障害について、その特性や病理、心理、支援方法など基礎的な知識の修得を目指し、講義を行う。また特別な支援を必要とする子どもに対する、園内で行う支援や関係機関との連携について、講義を行った上で、事例検討などの演習を行う。演習においては、公認心理師、臨床心理士である実務家教員が、保育、幼児教育現場における事例を含めて解説を加える。

毎回講義内容に沿った資料を配付し、必要に応じて映像などの視聴覚教材を用い、各コマのテーマに沿ってパワーポイントなどで解説する。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	―	―	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業に関する質問、コメントなどはリアクションペーパー、オンラインアンケートなどを通して受け付ける。全体で共有すべき内容については授業内で取り上げるほか、必要に応じて個別にコメントを返す。考察を深め、授業時間外の学習を進める際の参考として欲しい。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	△
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	インクルーシブ保育／特別支援教育について	荻野
第 2 回	障害児の理解と支援① 視覚障害、聴覚障害	荻野
第 3 回	障害児の理解と支援② 肢体不自由、重度重複障害、病弱	荻野
第 4 回	障害児の理解と支援③ 知的障害	荻野
第 5 回	障害児の理解と支援④ 発達障害	荻野
第 6 回	個別の支援計画、指導計画 障害のない特別の教育的ニーズのある児の理解と支援（母国語や貧困の問題等）、個別の支援計画、指導計画	荻野
第 7 回	園内・園外の連携、自立活動	荻野
第 8 回	就学に向けた支援	荻野
定期試験	レポート試験	荻野

【成績評価の方法・基準】

定期試験（レポート）(35％)＋課題(35%)＋授業への取り組み(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業中に適宜資料を配付する。			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
障害のある子どもの保育・教育 心に寄り添う援助をめざして	小竹　利夫 芳野　正昭	建帛社	978-4-7679-5113-3
その他、適宜資料を配付、紹介する。			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

・シラバスの該当箇所に沿って参考文献を読み、理解を深めること。
・参考文献以外にも関連する書籍をよく読むとともに、新聞・テレビ等で情勢を把握すること。

標準学修時間の目安：予習 30 分、復習 60 分程度が望ましい。

【備考】

授業を欠席した場合は、次回の授業時に配布したプリント等を自分でもらいにくるか、授業ページ内に資料を置いておくので確認しておくこと。

専門科目

科 目 名	子ども理解の理論と方法*	担当者名	浅野 路子*	
ナンバリングコード	23005			
必選・単位	選択1単位（保育士必修）	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年後期
			長期履修生	3年後期

【授業の概要】

子ども理解は、園におけるあらゆる営みの基本となるものである。子ども理解の意義を理解し、子ども理解に基づく養護及び教育の一体的展開、子どもに対する共感的な理解と関わりを理解する。園における子どもの生活や遊びの実態に即して、子どもの発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができるようにする。さらに、子どもの理解に基づく、保育者としての援助や態度の基本について学習することで、様々な活動の場面で適切に子どもや保護者と関わることができる力を育てる。

【授業の到達目標】

1 保育・幼児教育の実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。

2 子ども理解についての知識を身につけ、子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基礎的な考え方や態度を理解する。

3 子ども理解の方法を具体的に理解する。

4 子ども理解に基づく保育者の援助や対応の仕方、方法、態度を理解する。

【授業方法】

授業はプリントを配布し、PowerPoint のスライドで進めていきます。また、公認心理師、臨床心理士、臨床発達心 理士の実務家教員により、事例をあげて解説を行いますが、関連のテーマについて、少人数でのディスカッション 等の機会も設けます。

プリントと PowerPoint は、必ずしも一対一対応しているわけではありませんので、考えながら メモを取って下さい。スライドの内容を書き込んで穴埋めをするだけではなく、先生が話したこと、自分なりに考えた ことなどもどんどんメモしていくことが必要です。その際、予習で読んできた内容と結びつけながら授業を聞き、ノー トを取ると良いでしょう。また、授業中に発言を求められる機会もありますので、進んで手を挙げて発言することが求 められます。発言を求められていない場面でも、疑問がある場合や自分の意見を言いたいときには、挙手をして発 言して下さい。発言は、自分にとってももちろんためになるものですが、一緒に授業を取っている他の学生にとって も有意義になるはずです。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	—	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で考えたこと疑問に思ったことをリアクションペーパーに記入してもらいます。全体で共有すべき内容については授業内で取りあげます。また、必要に応じて個別にコメントを返す場合もあります。小テストについては、解答・解説を行いますので、間違えたところはしっかり復習し、確かな知識としてください。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	○
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	子ども理解の意義	浅野
第 2 回	子ども理解に基づく養護と教育の一体的展開	浅野
第 3 回	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり	浅野
第 4 回	子どもの発達理解と支援1:乳幼児期	浅野
第 5 回	子どもの発達理解と支援2:学童期、思春期	浅野
第 6 回	子ども理解の方法1:観察・記録を活用した子ども理解と支援への活用	浅野
第 7 回	子ども理解の方法2:省察による子ども理解の深まり。評価とその子ども理解と支援への活用	浅野
第 8 回	子ども理解の方法3:職員間、保護者との情報の共有と支援への展開	浅野
第 9 回	子どもを理解する視点1:子どもの生活と遊び、学び。理解から支援へ	浅野
第 10 回	子どもと理解する視点2:子ども相互の関わり、関係づくり。理解から支援へ	浅野
第 11 回	子どもを理解する視点3:個と集団。集団における経験と育ち	浅野
第 12 回	子どもと理解する視点4:環境の理解と構成、変化と移行。葛藤とつまずきと成長	浅野
第 13 回	保育者と子どもの発達、発達の課題に応じた援助と関わり	浅野
第 14 回	特別な支援を要する子どもの理解と支援	浅野
第 15 回	発達の連続性と就学への支援	浅野
定期試験	レポート試験	浅野

【成績評価の方法・基準】

レポート試験(40%)＋課題及び小テスト(30%)＋授業への積極的参加(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
子どもの理解と援助 子どもの育ちと学びの理解と保育実践	藪中征代/玉瀬友美	萌文書林	978-4-89347-371-4

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

授業に参加するにあたって、あらかじめ、該当するテキストのページをよく読んできてください。そして、日頃より社会状況に関心をもち、子どもに影響するかを考え、なるほどと思ったことや疑問に思ったことをまとめておくと良い でしょう。授業中に書いたノートは単なるメモですので、それを後で整理してまとめる必要があります。その途中で必 ず、理解があやふやだったり、さらに疑問に思うところが出てくるはずです。その時には改めて調べたり、先生に聞 いたりして、知識や理解の不十分なところを補いましょう。わからない点や疑問点は、自分の知識と理解を深めるた めのチャンスですので、それをしっかり捕まえて、授業の内容を深めていって下さい。

標準学修時間の目安:予習 30 分、復習 60 分程度が望ましい

【備考】

専門科目

科 目 名	子どもの保健	担当者名	浅野 路子	
ナンバリングコード	23004			
必選・単位	選択2単位（保育士必修）	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	1年前期
			長期履修生	1年前期

【授業の概要】

子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。また、子どもの身体的な発育・発達と保健、及び子どもの心身の健康状態とその把握方法について学ぶ。さらに、子どもの疾病とその予防法、及び他職種間の連携・協働 による適切な対応について理解する。

【授業の到達目標】

1 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。

2 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。

3 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。

4 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

【授業方法】

授業はプリントを配布し、PowerPoint のスライドで進めていきます。また、保健や病気に関してのニュースを積極的に取り入れ、少人数でのディスカッション等の機会も設けます。
プリントと PowerPoint は、必ずしも一対一対応しているわけではありませんので、考えながらメモを取って下さい。 スライドの内容を書き込んで穴埋めをするだけではなく、先生が話したこと、自分なりに考えたことなどもどんどんメモしていくことが必要です。その際、予習で読んできた内容と結びつけながら授業を聞き、ノートを取ると良いでしょう。また、授業中に発言を求められる機会もありますので、進んで手を挙げて発言することが求められます。発言を求められていない場面でも、疑問がある場合や自分の意見を言いたいときには、挙手をして発言して下さい。発言は、自分にとってももちろんためになるものですが、一緒に授業を取っている他の学生にとっても有意義になるはずです。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で考えたこと疑問に思ったことをリアクションペーパーに記入してもらいます。全体で共有すべき内容については授業内で取りあげます。また、必要に応じて個別にコメントを返す場合もあります。小テストについては、 解答・解説を行いますので、間違えたところはしっかり復習し、確かな知識としてください。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	△
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	◎

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	子どもの心身の健康と保健の意義を理解する	浅野
第 2 回	生命の保持と情緒安定に係る保健活動の意義と目的・健康の概念と健康の指標	浅野
第 3 回	現代社会における保健活動と子どもの健康に関する現状、健康診断	浅野
第 4 回	胎児から乳児～健常児と先天的・遺伝的障害	浅野
第 5 回	子どもの身体的発達・発育と保健 身体発育及び運動機能の発達と保健	浅野
第 6 回	生理機能の理解と発達および疾患の理解①～子どもの特徴	浅野
第 7 回	生理機能の理解と発達および疾患の理解②～呼吸器	浅野
第 8 回	生理機能の理解と発達および疾患の理解③～脳、神経系	浅野
第 9 回	生理機能の理解と発達および疾患の理解④～睡眠	浅野
第 10 回	生理機能の理解と発達および疾患の理解⑤～消化器	浅野
第 11 回	生理機能の理解と発達および疾患の理解⑥～排泄	浅野
第 12 回	生理機能の理解と発達および疾患の理解⑦～歯、口腔	浅野
第 13 回	規則正しい日常生活と健康の関係・保護者との情報共有①	浅野
第 14 回	規則正しい日常生活と健康の関係・保護者との情報共有②	浅野
第 15 回	院内病児保育、医療的ケアなど特別な処置が必要な子ども	浅野
定期試験	筆記試験	浅野

【成績評価の方法・基準】

定期試験(筆記)(40%)＋課題及び小テスト(30%)＋授業への積極的参加(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業で現場で役に立つ！ 子どもの保健テキスト 改訂第3版	小林美由紀／ 森脇浩一	診断と治療社	978-4-7878-2701-2

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

授業に参加するにあたって、あらかじめ、該当するテキストのページをよく読んできてください。そして、日ごろから乳幼児に関する保健や病気に関する報道や記事に意識的に目を向け、なるほどと思ったことや疑問に思ったことをまとめておくと良いでしょう。授業中に書いたノートは単なるメモですので、それを後で整理してまとめる必要があります。その途中で必ず、理解があやふやだったり、さらに疑問に思うところが出てくるはずです。その時には改めて調べたり、先生に聞いたりして、知識や理解の不十分なところを補いましょう。わからない点や疑問点は、自分の知識と理解を深めるためのチャンスですので、それをしっかり捕まえて、授業の内容を深めていって下さい。

標準学修時間の目安：予習 30 分、復習 60 分程度が望ましい。

【備考】

専門科目

科 目 名	子どもの食と栄養*	担当者名	門脇　真利奈*	
ナンバリングコード	23008			
必選・単位	選択2単位（保育士必修）	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年通年
			長期履修生	2年通年

【授業の概要】

子どもにとっての食事は、身体の発達に必要な栄養を摂取することはもちろん人間形成にとっても重要である。この授業では、養護と教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、内容を理解し、栄養学の基礎、出生・発育・成長に伴う生理的な変化と栄養状態の特徴・評価方法について学習する。家庭並びに保育所・児童福祉施設での食事、食物アレルギーのある子どもの食事、障害のある子どもの食事への対応について、最新のデータに基づいた内容を把握し、課題を考える。保育士として子どもや保護者への適切な情報提供及び支援のための技術を習得することを目的とする。

【授業の到達目標】

1　健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基礎的な知識を習得する。

2　子どもの発育・発達と食生活との関連について理解する。

3　養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的・基本的な考え方、内容等について理解する。

4　家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。

5　関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について理解する。

【授業方法】

・テキスト(教科書)を中心にプリント、黒板、パワーポイントで図表を用いて授業内容を理解する。
・授業終了後にリアクションペーパー（講義を受けての意見や感想、疑問点を記入）を提出する。
・必要に応じて、授業で使用したプリント（授業時の課題など）を提出する。
・調理実習（グループ）を行い、乳幼児にとって安全で衛生的な食品の取り扱いや調理方法について学ぶ。
・調理実習終了後は、調理実習レポートを提出する。
・後期授業で「子どもに伝えたい食育」を計画し、授業内で発表する。発表後はクラスメイトや教員から意見や感想を受ける。

栄養士養成施設及び高等学校での教員（食品学、食品製造、食品衛生等の科目を担当）としての実務経験、保育所での食育指導の実務経験を活かし、保育現場において具体的な食生活支援を行うことができるよう教授する。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	—	—	

【課題に対するフィードバックの方法】

・リアクションペーパーや調理実習レポートをもとに、次回の授業で補足説明を行ったり、気づきをクラスメイトと共有したりする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」[共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	○
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	子どもの健康と食生活の意義(1) 心身の健康と食生活	門脇
第 2 回	子どもの健康と食生活の意義(2) 子どもの食生活の現状と課題	門脇
第 3 回	栄養に関する基礎的知識(1) 栄養の基本、栄養素の種類、糖質・脂質の栄養とはたらき	門脇
第 4 回	栄養に関する基礎的知識(2) タンパク質の栄養とはたらき	門脇
第 5 回	栄養に関する基礎的知識(3) ビタミン・ミネラルの栄養とはたらき	門脇
第 6 回	栄養に関する基礎的知識(4) 栄養素の消化・吸収のしくみ	門脇
第 7 回	栄養に関する基礎的知識(5) 日本人の食事摂取基準(2025 年版)と子どもの食事	門脇
第 8 回	栄養に関する基礎的知識(6) 献立と調理の基本	門脇
第 9 回	妊娠(胎児期)・授乳期の栄養と食生活 妊産婦のための食生活指針と妊娠期にみられるトラブルと食生活	門脇
第 10 回	乳児期の栄養・食生活の特徴　乳汁栄養とその支援(授乳・離乳の支援ガイド)	門脇
第 11 回	離乳の必要性と実践(1) 離乳食(5～6 カ月、7～8 カ月)の進め方と支援	門脇
第 12 回	離乳の必要性と実践(2) 離乳食(9～11 カ月、12～18 カ月)の進め方と支援	門脇
第 13 回	調乳実践、調理実習にあたっての確認と準備 第 1 回～第 12 回までの講義のまとめ	門脇
第 14 回	第 1 回～第 14 回までのまとめ 小テスト(前期の講義内容について)(筆記)	門脇
第 15 回	調理実習(離乳食の形状、味を知る。援助における配慮を確認する。) 乳児期の食生活のまとめ	門脇
第 16 回	幼児期の心身の発達と食生活(1) 幼児期の栄養の特徴	門脇
第 17 回	幼児期の心身の発達と食生活(2) 幼児期の献立と調理の配慮・間食の意義	門脇
第 18 回	調理実習計画(幼児向けおやつ)	門脇
第 19 回	調理実習(幼児向けおやつ)	門脇
第 20 回	学童期・思春期の心身の発達と食生活 学童期の食生活と学校給食	門脇
第 21 回	生涯発達と食生活 生涯における発達段階と食生活の課題(生活習慣病と食生活)	門脇
第 22 回	食育の基本と内容、保育所給食の概要と実際(保育所における食事の提供ガイドライン)	門脇
第 23 回	保育における食育の必要性と基本的な考え方、食育の内容、保育所保育指針と食育	門脇
第 24 回	保育所における食育の計画と実践(1)	門脇
第 25 回	保育所における食育の計画と実践(2)	門脇
第 26 回	家庭や児童福祉施設での食事(1) 家庭における食事・栄養 保護者への支援	門脇
第 27 回	家庭や児童福祉施設での食事(2) 児童福祉施設における食事と栄養	門脇
第 28 回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(1) 体調不良、疾病、障害	門脇
第 29 回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(2) 食物アレルギー	門脇
第 30 回	調理実習の振り返りと応用(食物アレルギー、障害のある場合) 第 16 回～第 30 回までの講義のまとめ	門脇
定期試験	筆記試験	門脇

【成績評価の方法・基準】

定期試験(筆記)(30%)＋小テスト(前期の講義内容について筆記)(30%)＋授業内提出物(調理実習レポート、リアクションペーパーなど)(30%)＋「食育」発表(10%)=合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
子どもの食と栄養第 3 版 保育現場で活かせる食の基本	太田百合子／ 堤ちはる	羊土社	978-4-7581-1380-9

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
子どもの食と栄養　改訂版第 4 版	児玉浩子	中山書店	978-4-521-75162-7
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

・シラバスで授業のプログラムを確認し、事前にテキストを一読しておく。
・授業で学んだ知識と施設実習での実践を結びつける。施設実習で学んだことや疑問に思ったこと、課題等については、振り返りを行う。
・自身の食生活や健康に関心を持つ。

標準学修時間の目安:予習・復習・宿題等を含めて 30～60 分程度が望ましい。

【備考】

調理実習時:エプロン、三角巾(バンダナなど)、マスク、手拭きタオル、上履きが必要。また、アクセサリー類の着用およびネイルなど不可。爪は短く切ること(実習前に確認する)。
「食育」の発表:詳細については、事前に連絡する。

専門科目

科 目 名	教育課程論	担当者名	歌川　光一	
ナンバリングコード	24102			
必選・単位	選択2単位（保育士・幼2免必修）	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	3年前期

【授業の概要】

教育課程論では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基準として各園において編成される保育・教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解することを目指している。

【授業の到達目標】

1　教育・保育課程が有する役割・機能・意義を理解している。特に教育・保育内容、課程、方法、実践、評価の関係を理解する。

2　教育・保育課程編成の基本原理および園の実践に即した課程編成の方法を理解している。

3　教科・領域、学年をまたいでカリキュラムを把握し、教育・保育課程全体をマネジメントすることの意義、カリキュラム・マネジメントの意義を理解している。

【授業方法】

講義が中心となる。配布資料の要点を読み進めながら、シラバスのテーマを理解する。また、映像視聴などを交えたワークを通じて、教育の計画や評価に関わる理解を深めていく。毎回リアクションペーパーを課す。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	―	○	―	ドキュメンテーション作成

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で全体に向けてフィードバックする。

【学習成果】

①「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	△
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	○
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	教育・保育になぜ計画が必要か①	歌川
第 2 回	教育・保育になぜ計画が必要か②	歌川
第 3 回	カリキュラムの基礎的理解	歌川
第 4 回	教育・保育における潜在的カリキュラム	歌川
第 5 回	教育・保育課程と教育目標①―家庭の理解と合わせて―	歌川
第 6 回	教育・保育課程と教育目標②―理想の子ども像を見直す―	歌川
第 7 回	「資質・能力」の理解①―獲得、参加	歌川
第 8 回	「資質・能力」の理解②―知識創造	歌川
第 9 回	評価をめぐる動向	歌川
第 10 回	ドキュメンテーションの作成	歌川
第 11 回	ドキュメンテーションから要録へ	歌川
第 12 回	保幼小連携①―小学校の教科の理解―	歌川
第 13 回	保幼小連携②―その課題と保育者の専門性の再確認―	歌川
第 14 回	全体的な計画、月案、週案の作成	歌川
第 15 回	カリキュラム・マネジメント、まとめ	歌川
定期試験	筆記試験	歌川

【成績評価の方法・基準】

定期試験（40%）＋授業内課題（60%）＝合計（100%）

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
保育所保育指針解説　平成 30 年 3 月	厚生労働省	フレーベル館	978-4-5778-1448-2
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　平成 30 年 3 月	内閣府／文部科学省	フレーベル館	978-4-5778-1449-9

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

授業内で配付されたプリントを授業後に読み直すこと。授業内で資料をすべて読み上げるわけではないので、特に復習の際には、授業で扱った箇所の読み直しを行うことをおすすめする。

標準学修時間の目安：予習・復習を含めて 90 分程度が望ましい。

【備考】

答えが一つに定まらないような問いについて、粘り強く考えることを大切にしています。

専門科目

科 目 名	保育内容総論*	担当者名	奥 恵*	
ナンバリングコード	24101			
必選・単位	必修1単位	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年前期
			長期履修生	1年前期

【授業の概要】

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育・教育の目的・目標、「育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容の関連を理解する。5 領域の学びと共に、 それらを総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。また、子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の過程を学び、保育の多様な展開について具体的に理解する。5 領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。

【授業の到達目標】

1 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育・教育の目的・目標、「育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容の関連を理解する。

2 保育・幼児教育の基本と全体的な構造を踏まえ、5 領域のねらい及び内容を理解している。

3 子どもの姿や発達の特徴を知り、その学びの過程を理解し、保育内容や環境構成の重要性を理解するとともに、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法の基本設計の視点を身につける。

4 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。

5 保育の多様な展開について具体的に理解する。

【授業方法】

パワーポイントやプリントを使って授業を進めるため、各自で必要に応じて書きとること。また、授業内のグループで発表をするため、担当回までに準備をしておくこと。発表について、幼稚園での勤務経験のある実務家教員が幼児教育現場における実践経験を踏まえた指導を行う。発表内容はプリントに記述して提出する。プリントは教員が確認して返却する。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	—	—	

【課題に対するフィードバックの方法】

発表内容を記述したプリントは、教員が確認して返却する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	△
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	△
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	○
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	保育・教育の目的と目標	奥
第 2 回	保育・教育の構造（養護・教育）	奥
第 3 回	5 領域のねらいと内容	奥
第 4 回	子どもの姿と保育内容	奥
第 5 回	子どもの遊びと特徴	奥
第 6 回	環境と保育内容	奥
第 7 回	0 歳児の発達と保育内容	奥
第 8 回	1 歳児の発達と保育内容	奥
第 9 回	2 歳児の発達と保育内容	奥
第 10 回	3 歳児の発達と保育内容	奥
第 11 回	4 歳児の発達と保育内容	奥
第 12 回	5 歳児の発達と保育内容	奥
第 13 回	日本の社会の流れと保育内容の関連、保育の多様な展開	奥
第 14 回	多文化共生の保育	奥
第 15 回	保育の構想と情報機器及び教材の活用	奥
定期試験	レポート試験	奥

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(40%)＋授業内発表(30%)＋授業内提出物(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業中に適宜資料を配付する。			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

グループ内で発表する内容について調べて準備しておく。学期末のレポート試験に向けて、 各授業内容に関する考察をまとめておく。

標準学修時間の目安：予習・復習・準備学習を含めて 30 分程度が望ましい。

【備考】

特になし。

専門科目

科 目 名	保育内容(健康) 指導法*	担当者名	真砂　雄一*	
ナンバリングコード	24201			
必選・単位	必修1単位	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1 年後期
			長期履修生	1 年後期

【授業の概要】

保育・幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、領域「健康」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。

子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。

乳幼児期の基本的生活習慣や健康づくり、および幼児の運動遊びに関する指導法を学ぶとともに、領域「健康」における保育者の役割を理解する。

【授業の到達目標】

1　乳幼児期の健康、基本的生活習慣の指導に関する知識や技能を身につけている。

2　幼児期の運動の重要性を理解し、指導の方法を考えることができる。

3　健康に関する教材や指導案作成、模擬保育の体験を通して指導法の基本を理解することができる。

4　保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解している。

5　子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけている。

【授業方法】

講義による解説に加え、ゲームや運動遊び指導、グループでの模擬保育と振り返り活動などの実践的な授業を行う。

実際に運動遊びを学生自身が体験、実践しながら、「運動遊び指導のポイント」についての必要な知識や技能を修得し、領域「健康」における保育者の役割について深く考える。

また、実際の保育現場での運動遊びの事例を挙げ、子どもや保育者の様子をイメージしながら、一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。

幼児体育指導員としての実務経験を活かし、保育者として必要な乳幼児の健康に関する指導法や知識等を具体的かつ実践的に教授する。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	○	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内の小課題やリアクションペーパー等の提出物に関しては、コメントを付記したものを次週の授業で返却する。あるいは、コメントや意見をまとめたものを全体に向けて提示する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	○
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	乳幼児の「健康」の現状と課題	真砂
第 2 回	幼児運動能力測定の体験	真砂
第 3 回	乳幼児の運動遊びの実際	真砂
第 4 回	幼児の運動遊びの指導案作成1 （計画立案）	真砂
第 5 回	幼児の運動遊びの指導案作成2 （準備・環境構成）	真砂
第 6 回	模擬保育（運動遊び実践）1	真砂
第 7 回	模擬保育（運動遊び実践）2	真砂
第 8 回	模擬保育（運動遊び実践）3	真砂
第 9 回	模擬保育（運動遊び実践）4	真砂
第 10 回	模擬保育（運動遊び実践）5 ／ 振り返り（自己課題の発見と改善）	真砂
第 11 回	領域「健康」の理解と指導法－小学校との連携・接続－	真砂
第 12 回	園における事故事例と安全管理・安全教育－ヒヤリハットの共有、避難訓練、安全教育の実際－	真砂
第 13 回	乳幼児期に多い怪我とその予防と応急処置	真砂
第 14 回	園における乳幼児期の生活習慣の形成の実際	真砂
第 15 回	領域「健康」における保育者の役割	真砂
定期試験	レポート試験	真砂

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋各回の授業の最後に提出する小レポート(20%)＋授業に対する関心・意欲・態度(20%)＋指導案作成・模擬実践内容(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
演習 保育内容「健康」 基礎的事項の理解と指導法	河邉貴子／ 吉田伊津美	建帛社	978-4-7679-5099-0

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

日常的に子どもの健康に関する様々な情報を意識して調べてみましょう。
講義での内容を参考に、多くの運動遊びを調べ、その運動遊びにはどのような特徴があるのかをまとめてください。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・宿題を含めて 60 分程度が望ましい。

【備考】

意欲的、積極的な取り組みを評価し、期待します。
運動遊びの実技授業時は、動きやすい服装、室内シューズを用意すること。
ピアスや指輪などアクセサリー類は外すこと。また、髪の毛の長い人は、髪の毛を結ぶこと。

専門科目

科 目 名	保育内容（人間関係）指導法＊	担当者名	益田　かな子＊	
ナンバリングコード	24202			
必選・単位	必修1単位	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年後期
			長期履修生	2年後期

【授業の概要】

「保育内容人間関係」のおおもととなる「人間関係とは何か」という人間関係論について、その考えが分かるように、大きな視点で「人間関係」という概念そのものを見直すことができるようにする。換言すれば、乳幼児期からの集団の教育力を高める保育界における「集団づくり」と、そこでの子どもたちの育ちについて考えていく。乳幼児の育てたい力としては、他者をくぐって自己を知り、自分の要求を表現し、他者の要求を受け止め、問題をともに解決し、それぞれが自分らしく生きていく、主体的共同の基礎を育てることを目指すが、本講義では、「人間関係」に関する基本的な理論、幼稚園・保育所など、集団の場における実践の展開、親子関係も含めた大人と子どもの関係、および、地域の子育ち・子育ての共同への園の関与と世代間交流などについても触れていく。

【授業の到達目標】

1　5 領域における人間関係の内容とねらいを理解する。

2　保育現場における人間関係のあり方を学ぶ。

3　「人とかかわる力」について考察を深める。

4　保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解している。

5　子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけている。

【授業方法】

・テキストを中心に講義を展開していく。パワーポイントを使って、キーワードやポイントを示し、記入用紙を用いて授業内容を確認できるようにする。
・参考となる視聴覚教材や手遊びなど保育技術、児童文化財などを取り入れていく。
・内容によっては、自分の考えをまとめ、グループで話し合い意見を共有しながら「人間関係」の視点を深めていく。
・これまでの実習やボランティア経験から、保育内容「人間関係」に関わる事柄の記録を共有し合う。
・復習しやすいように、授業内容のまとめをする。
・幼稚園教諭として現場経験のある実務家教員により、保育に関わる人間関係の事例を考察し、実践力のある保育者となれるような学びにつなげる。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	—	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で提出するリアクションペーパーに記入された授業や課題についての質問等は、適宜、授業内で紹介する。最終レポートに関しては、期間を設け学生の質問などに応じることでフィードバックとする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	○
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	自己理解と自己概念	益田
第 2 回	社会・文化に生きる子ども	益田
第 3 回	領域「人間関係」がめざすもの	益田
第 4 回	領域「人間関係」の基礎知識：乳幼児期の発達	益田
第 5 回	領域「人間関係」の基礎知識：社会性の発達	益田
第 6 回	0・1・2 歳児：保育所における人とのかかわり	益田
第 7 回	3 歳児：保育所が居場所	益田
第 8 回	4 歳児：自己主張と自己抑制	益田
第 9 回	5 歳児：園生活の充実感を支えるもの	益田
第 10 回	かけがえのない一人一人の存在	益田
第 11 回	保護者とのかかわり	益田
第 12 回	保育者同士のかかわり	益田
第 13 回	かかわりの育ちを「みる」	益田
第 14 回	人とのつながりを考える	益田
第 15 回	まとめ：領域「人間関係」を取り巻く諸問題を考える―子どもの生活を中心にして―	益田
定期試験	レポート試験	益田

【成績評価の方法・基準】

定期試験（レポート）（40％）＋課題・提出物（50％）＋授業の積極性（10％）＝合計（100％）

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3
演習　保育内容「人間関係」 基礎的事項の理解と指導法	田代和美／ 榎本眞実	建帛社	978-4-7679-5100-3

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

人と関わり合うことについて意識しながら、保育における人間関係についての省察をおこなう。課題や授業発表に向けた準備学習をする。

標準学修時間の目安：1 回の授業あたり予習・復習・課題などを含めて、30～60 分程度が望ましい。

【備考】

意欲的・積極的な取り組みに期待します。 授業の進捗状況によって、授業内容が前後する場合があります。

専門科目

科 目 名	保育内容(環境) 指導法*	担当者名	前徳　明子*	
ナンバリングコード	24204			
必選・単位	必修1単位	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1 年後期
			長期履修生	2 年後期

【授業の概要】

保育・幼児教育において育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、領域「環境」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。領域「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。

【授業の到達目標】

1　保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解している。

2　子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。

3　保育現場におけるのぞましい保育環境と環境構成について考える。

【授業方法】

領域「環境」のねらい及び内容について理解していくと共に指導法を身につける。具体的には、①実際に戸外に出て、自然に触れたり、公園を確認し、地域の親子と交流したり、安全について調べるなど、五感を使った体験を通して学んでいく。②グループワークなどを通し、子どもたちの発達課程をイメージした教材づくりを行ったり、留意・配慮点、環境構成などを踏まえた指導法を探っていく。③体験したことや調べたことについてパワーポイント作成したり、資料作成などを行い発表するなど、全体でのポイントの共有をしていく。授業の最後にリアクションペーパーを提出したり、質問を受けたりしながら、全体が理解できているかを確認しながら進めていく。この授業に向けた自分なりのテーマや課題を持って自発的に授業に参加する。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

リアクションペーパーにて習熟度や質問事項を把握し、その後の授業内でその都度、全体で共有し、フィードバックとする。内容によっては個人指導を行う。また、作成した教材などについては、本学や他施設にて展示する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	○
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	環境とは何か(目的と領域について)	前徳
第 2 回	子どもの育ちと環境:物的・人的環境の大切さ	前徳
第 3 回	科学体験遊び	前徳
第 4 回	五感を使った自然体験	前徳
第 5 回	園外保育 1 園外保育の流れと留意点、指導案	前徳
第 6 回	園外保育 2 公園の下見と模擬保育 公園マップ入り報告書の作成(情報機器及び教材の活用を含む)	前徳
第 7 回	保育室の環境 1 保育園見学を通し、環境設定や安全面について学ぶ	前徳
第 8 回	保育室の環境 2 保育園見学についての報告、保育環境の安全性(安全への配慮)	前徳
第 9 回	園庭の遊び(模擬保育)から学ぶ	前徳
第 10 回	安全管理の考え方、事故が起こったときの対応	前徳
第 11 回	日本の文化にふれる年間行事	前徳
第 12 回	行事をいかした保育の展開	前徳
第 13 回	地域社会における子どもと環境(体験学習)	前徳
第 14 回	地域社会における子どもと環境(体験学習の報告)	前徳
第 15 回	環境を通した指導法の考察とまとめ	前徳
定期試験	レポート試験	前徳

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(40%)＋提出物(40%)＋授業への取り組み(20%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

テキストを熟読すること。また、子どもを取り巻く環境と、幼児の発達にとっての環境の意義を考え、幼児期の環境プロジェクトの準備をすること。他に授業内で適宜指示する。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・宿題等を含めて 30～60 分程度が望ましい。

【備考】

積極的な取り組みを評価します。体験学習については、授業内で説明します。保育現場での学習は、現場の状況により、時期や内容の変更などがあります。

専門科目

科 目 名	保育内容(言葉) 指導法	担当者名	益田　かな子	
ナンバリングコード	24203			
必選・単位	必修1単位	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年前期
			長期履修生	1年前期

【授業の概要】

保育・幼児教育において育みたい資質・能力、幼児期までに育ってほしい姿を理解し、領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び機材の活用を理解し、保育の構想に活用する。

【授業の到達目標】

1　保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解している。

2　子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけている。

3　保育現場で子どもが言葉を修得していく過程を、子どもの発達段階に応じて学修する。

4　養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解しながら、子どもの人間形成において言葉を修得することの重要性を理解する。

5　子どもが豊かに言葉の修得ができるための指導・援助の方法を具体的に身につける。

【授業方法】

「人間の育ちにとって言葉とは」という問いを根底におきながら、子どもにおける言葉の獲得と育ちについて 論じていく。また、講義形式を基本としているが、日常的な園生活の中で展開される、子どもと保育者あるいは子ども同士の言葉のやり取りの現象をできるだけ具体的な事例で示しながら言葉をめぐる保育の考察を深めていく。

子どもはどのように言葉を獲得し、育っていくのか発達心理的な知見も交えながら、他者との関わりの中ではぐくまれる言葉の意味の深さとその重要性について学習する。授業内で保育の基本用語の学習と確認テストを行う。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	○	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で提出するリアクションペーパーに記入された授業や課題についての質問等は、適宜、授業内で紹介する。 保育の基本用語の確認テストは添削後に返却する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	○
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	言葉とは何か(保育内容「言葉」のねらいと内容について)、保育の基本用語の漢字練習(初級編①)	益田
第 2 回	ことば、からだ、こころの基本関係 1:ことばを話すことを中心にして、保育の基本用語の漢字練習(初級編②)	益田
第 3 回	ことば、からだ、こころの基本関係 1:ことばを書くことを中心にして、保育の基本用語の漢字練習(初級編③)	益田
第 4 回	ことば、からだ、こころの基本関係 1:ことばを聞くことを中心にして、保育の基本用語の確認テスト①	益田
第 5 回	保育の基本と領域「言葉」1:(6 か月未満・6 か月～1 歳 3 か月)、保育の基本用語の漢字練習(中級編①)	益田
第 6 回	保育の基本と領域「言葉」2:(1 歳 3 か月～2 歳未満・2 歳)、保育の基本用語の漢字練習(中級編②)	益田
第 7 回	保育の基本と領域「言葉」3:(3 歳・4 歳)、保育の基本用語の漢字練習(中級編③)	益田
第 8 回	保育の基本と領域「言葉」4:(5 歳・6 歳)、保育の基本用語の確認テスト②	益田
第 9 回	紙芝居と絵本の違いとそれぞれの特性について	益田
第 10 回	紙芝居か絵本発表・子どもの発達と言葉の発達:個別指導(情報機器及び教材の活用を含む)	益田
第 11 回	紙芝居か絵本発表・子どもの発達と言葉の発達:グループ指導(情報機器及び教材の活用を含む)	益田
第 12 回	紙芝居か絵本発表・子どもの発達と言葉の発達:全体指導(情報機器及び教材の活用を含む)	益田
第 13 回	指導計画 1:実践に基づいて考える	益田
第 14 回	指導計画 2:必要性と作成の視点を考える	益田
第 15 回	模擬保育授業	益田
定期試験	筆記試験	益田

【成績評価の方法・基準】

定期試験(筆記)(40%)＋課題・提出物(50%)＋授業の積極性(10%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3
新・保育シリーズ13 保育内容「言葉」	中坪史典／ 請川滋大	学術図書出版社	978-4-7806-1387-2
これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語 改訂 2 版	長島和代／ 石丸るみ	わかば社	978-4-907270-34-6

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

言葉を使ったコミュニケーションについて意識しながら、保育における言葉についての省察をおこなう。課題や授業発表に向けた準備学習をする。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・課題などを含めて、30～60 分程度が望ましい。

【備考】

意欲的・積極的な取り組みに期待します。 授業の進捗状況によって、授業内容が前後する場合があります。

専門科目

科 目 名	保育内容(音楽表現)指導法	担当者名	蓮見 絵里	
ナンバリングコード	24205			
必選・単位	選択1単位(保育士選択必修)	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年後期
			長期履修生	1年後期

【授業の概要】

保育・幼児教育において育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、音楽的表現を豊かに展開できる生活についての具体的な指導場面を想定して、保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。

【授業の到達目標】

1 保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解している。

2 子どもが音楽表現の経験から身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。

3 子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけている。

【授業方法】

テキストと配付資料をもとにした講義により、子どもの音楽表現の発達、これまでの幼児音楽教育の思想と方法について学習する。また、幼児のための音楽表現活動を体験することで、子どもの視点を理解し、子どもの表現を豊かにするための留意点について理解を深める。これらを通じた学習をもとに、後半ではグループで指導計画を作成し、模擬保育を実施し、振り返りを行う。活動はグループが基本となっており、参加者間のディスカッションなどを通じて、自身の体験を共有し深めるとともに、活動の展開を検討することとなる。授業中に課題に取り組み授業後に提出することがある。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	○	—	

【課題に対するフィードバックの方法】

1 各自に与えられた課題は、次回の授業で教員が必ず確認する。
2 課題に関する疑問や質問は、「幼児と音楽表現Ⅲ」の授業でも対応可能である。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	領域(表現)のねらい及び内容、サウンド・エデュケーション	蓮見
第 2 回	乳幼児の音楽表現の発達 1(0・1 歳児)、サウンド・エデュケーション 2	蓮見
第 3 回	乳幼児の音楽表現の発達 2(2・3 歳児)、わらべうた実践 1(遊びこみ)	蓮見
第 4 回	乳幼児の音楽表現の発達 3(4・5 歳児)、わらべうた実践 2(遊びの共有)	蓮見
第 5 回	幼児音楽教育の歴史、童謡)	蓮見
第 6 回	幼児のための楽器づくり 1(構想	蓮見
第 7 回	幼児のための楽器づくり 2(制作)	蓮見
第 8 回	幼児のための楽器づくり 3(発表、演奏)	蓮見
第 9 回	子どもの発達と環境を踏まえた指導計画と評価 1(考え方と作成方法)	蓮見
第 10 回	子どもの発達と環境を踏まえた指導計画と評価 2(0～2 歳児の保育計画の作成	蓮見
第 11 回	子どもの発達と環境を踏まえた指導計画と評価 3(0～2 歳児の模擬保育)(情報機器及び教材の活用を含む)	蓮見
第 12 回	子どもの発達と環境を踏まえた指導計画と評価 4(0～2 歳児の模擬保育、振り返り)(情報機器及び教材の活用を含む)	蓮見
第 13 回	子どもの発達と環境を踏まえた指導計画と評価 5(3～5 歳児の保育計画の作成	蓮見
第 14 回	子どもの発達と環境を踏まえた指導計画と評価 6(3～5 歳児の模擬保育)(情報機器及び教材の活用を含む)	蓮見
第 15 回	子どもの発達と環境を踏まえた指導計画と評価 7(3～5 歳児の模擬保育、振り返り)(情報機器及び教材の活用を含む)	蓮見
定期試験	レポート試験	蓮見

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋授業内提出物(40%)＋授業での発表(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
ポケットいっぱいのうた　3訂版	鈴木恵津子	教育芸術社	978-4-86779-111-0
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン　令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

発表および模擬保育の実施のため個人またはグループで準備と練習をすることが必要となる。

標準学修時間の目安:予習・復習・宿題を含めて 60 分程度が望ましい。

【備考】

授業参加者で協働し、ともに学びあうことを期待します。

専門科目

科 目 名	保育内容(造形表現)指導法*	担当者名	栗本　浩二*	
ナンバリングコード	24206			
必選・単位	選択必修1単位 （保育士・幼2免選択必修）	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	2年前期

【授業の概要】

保育・幼児教育において育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、造形的表現を豊かに展開できる生活についての具体的な指導場面を想定して、保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。

【授業の到達目標】

1　保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解している。

2　子どもが造形表現の経験から身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。

3　子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けている。

【授業方法】

講義形式と実技形式を組み合わせて授業を行う。講義では配付資料をもとに子ども理解を深め造形表現活動における指導のねらいの立て方や、指導案作成に関して学習する。個人、グループ活動で、課題に対する作品製作および指導案作成を行う。グループ活動では、メンバーからさまざまな意見交換を出し合い進める。
授業第 12 回から行われる模擬保育実践の発表では、授業のまとめとして指導案をもとにした実践発表を行い、意見交換を通じてさまざまな製作物のアイデアや指導法を理解する。作品製作及び講評について、幼児の作品製作、プラン作成、指導を行ってきた実務家教員が、保育、幼児の造形活動の事例を含めて解説を行う。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	―	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で製作した作品や指導案については、講評会時にフィードバックを行う。また、リアクションペーパーについては返却指導を実施する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	領域(表現)のねらいと内容および造形表現活動の構想と幼児が経験し身に付けている内容、指導上の留意点と評価について	栗本
第 2 回	造形表現における指導案の構成と具体的な保育を想定した指導案の作成	栗本
第 3 回	絵画をイメージした活動法と保育構想について 1:作品製作(はじき絵:カレーライス)と指導案 (情報機器及び教材の活用を含む)	栗本
第 4 回	絵画をイメージした活動法と保育構想について 2:作品製作と指導案 スクラッチ:絵皿	栗本
第 5 回	ゲームをイメージした活動法と保育構想について 1:作品製作(ロケット)と指導案 (情報機器及び教材の活用を含む)	栗本
第 6 回	ゲームをイメージした活動法と保育構想について 2:作品製作(パックンけん玉)と指導案	栗本
第 7 回	ゲームをイメージした活動法と保育構想について 3:作品製作(的あてゲーム)と指導案	栗本
第 8 回	ゲームをイメージした活動法と保育構想について 4:作品製作(パフパフバズーカ)と指導案	栗本
第 9 回	行事・季節をイメージした活動法と保育構想について1:作品製作(コマ、ヨーヨー)と指導案(情報機器及び教材の活用を含む)	栗本
第 10 回	行事・季節をイメージした活動法と保育構想について2:作品製作(節分・ひな祭り)と指導案	栗本
第 11 回	模擬保育実践の発表準備(指導案・保育実践で行う製作物・段取り等の打ち合わせ)	栗本
第 12 回	模擬保育実践の発表 1:A グループ	栗本
第 13 回	模擬保育実践の発表 2:B グループ	栗本
第 14 回	模擬保育実践の発表 3:C グループ	栗本
第 15 回	模擬保育実践の発表 4:D グループ 授業のまとめ	栗本
定期試験	レポート試験	栗本

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋授業態度(積極性等)(30%)＋指導案・作品評価・発表(40%)＝合計(100%

【テキスト】

書 名	著者名	出版社	ISBN コード
保育をひらく造形表現 第 2 版	槇 英子	萌文書林	978-4-89347-295-3

【参考文献】

書 名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

授業で得られた造形製作及び指導案を各自で発展させ、保育活動や実習で役立つ作品及び指導案を製作しなさい。

標準学修時間の目安:予習・復習・宿題を含めて 60 分程度が望ましい。

【備考】

なし

専門科目

科 目 名	保育内容(身体表現)指導法*	担当者名	真砂　雄一*	
ナンバリングコード	24207			
必選・単位	選択必修1単位 (保育士・幼2免選択必修)	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	2年前期

【授業の概要】

幼児の発達や学びの過程を踏まえた様々な身体表現や運動遊びを体験し、幼児期の身体表現活動の意義や、表現の姿、発達について理解する。

保育者として幼児期における豊かな身体表現活動、様々な運動あそびの基本的な知識を身につける。

幼児の表現を活かした発達過程に即した具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成など、保育の実際について理解する。

【授業の到達目標】

1　保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解している。

2　子どもが身体表現の経験から身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。

3　子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけている。

【授業方法】

実際に様々な運動遊びを学生自身が体験、実践する。特に身体表現活動の重要性を認識し、保育の実践について考える機会を多く設ける。

初回は、授業概要や進め方を説明し、グループディスカッションを交えながら幼児期の身体表現活動について考える。最終的には、グループで身体表現作品の発表を行う。

実践を通して、実際の運動遊びの楽しさや身体表現活動の魅力を味わってほしい。

場所は、クリエイティブホールで行う。

幼児体育指導員としての実務経験を活かし、保育者として必要な乳幼児の身体表現に関する指導法や知識等を具体的かつ実践的に教授する。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	○	—	

【課題に対するフィードバックの方法】

グループでの身体表現作品の指導案に対しては、コメントを付記したものを次週の授業で返却する。あるいは、アドバイスや意見をまとめたものを全体に向けて提示する。発表後は全体に対し講評と振り返りを行う。

小レポートに関しては、コメントを付記したものを次週の授業で返却する。あるいは、コメントや意見をまとめたものを全体に向けて提示する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	幼稚園教育要領と保育所保育指針の概観、保育活動と身体表現の関わりについて	真砂
第 2 回	幼児の身体表現能力について(身体発達の観点から身体表現能力を考える)	真砂
第 3 回	身体表現の活動内容①(身体表現活動の内容を考える)	真砂
第 4 回	身体表現の活動内容②(いろいろな動き、イメージに基づく動きの活動の意義)	真砂
第 5 回	身体表現の活動内容③(幼児における身体表現活動を体験する)	真砂
第 6 回	身体表現の活動内容④(幼児における運動あそびを体験する)	真砂
第 7 回	指導案作成①(身体表現活動の指導案を作成する)	真砂
第 8 回	指導案作成②(身体表現活動の指導案を作成する)	真砂
第 9 回	実技作品構成・準備①	真砂
第 10 回	実技作品構成・準備②	真砂
第 11 回	実技作品構成・準備③	真砂
第 12 回	グループ発表①(グループで話し合い計画した指導案をもとに実技作品を発表する)	真砂
第 13 回	グループ発表②(グループで話し合い計画した指導案をもとに実技作品を発表する)	真砂
第 14 回	グループ発表③(グループで話し合い計画した指導案をもとに実技作品を発表する)	真砂
第 15 回	グループ発表④および講評と振り返り	真砂
定期試験	レポート試験	真砂

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋授業時に提出するリアクションペーパー(20%)＋授業に対する関心・意欲・態度(20%)
＋作品の立案・準備・発表(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
乳幼児のための豊かな感性を育む 身体表現遊び	瀧　信子	ぎょうせい	978-4-324-10790-4

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

身体をつかって表現するイメージを描いてください。また、日常的に身体を動かすことを心掛けてください。

標準学修時間の目安:1 回の授業当たり予習・復習・宿題を含めて 30 分程度が望ましい。

【備考】

・グループワークが多いため、主体的に参加すること。
・身体表現に適した服装に着替えるべき授業内容のときは、指示に従うこと。

専門科目

科 目 名	保育内容(総合表現) 指導法	担当者名		
ナンバリング コード	24208			
必選・単位	選択必修1単位 (保育士・幼2免選択必修)	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年後期
			長期履修生	3年後期

【授業の概要】

保育・幼児教育において育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、多様な表現を豊かに展開できる生活についての具体的な指導場面を想定して、保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。音楽的な表現、造形的な表現、身体的な表現などを総合的にとらえ、自ら意欲をもって発表する楽しさ、面白さを学ぶ。

【授業の到達目標】

1　多様な表現(言葉・音楽・造形・身体など)を総合した表現活動の実際を学習し、理解している。

2　幼児の生活と人間形成にとって、保育内容の5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)が、表現活動において総合的に構成されることの重要な意義を理解している。

3　子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけている。

【授業方法】

幼稚園・保育所での子どもの生活をもとに、子どもの表現活動について総合的に学ぶ。前半は、五感を使った表現方法を実践する。身体的・視覚的な実践を通して、表現者＝保育者として「表現」を多角的かつ広義に捉えていく。園行事と表現について、これまでの学修や実習体験を発表し合いながら、保育内容の5領域に関連づけて学ぶ。後半は「劇遊び」の発表に向けて、グループごとに取り組む。

幼稚園教諭として現場経験のある実務家教員により、「ごっこ遊び」から発展して劇の発表会へのつなげ方、演目や選曲、衣装や小道具制作など実践的な取組を、指導法と共に学ぶ。劇の発表までに至る過程を大切にして、その過程の中にある様々な表現を活かす事も表現教育の意義として学ぶ。

実習やボランティアでの経験をもとに、発表に向けた練習や制作準備などにも自主的に取り組む。

アクティブ・ ラーニングの要素	グループ ワーク	プレゼン テーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	—	○	—	

【課題に対するフィードバックの方法】

多様な表現についての学びから、劇遊びに向けた創意工夫のある取り組みができるようにする。脚本や配役、製作素材や使用道具の事例を示し、劇の構成に合わせた指導法を習得できるような助言をする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	基礎的理論(1) 「表現」の捉え方について	
第 2 回	基礎的理論(2) 感性とのかかわり	
第 3 回	表現の実践(1) コミュニケーションとしての身体	
第 4 回	表現の実践(2) 立体的表現(情報機器及び教材の活用を含む)	
第 5 回	表現の実践(3) 視覚の効果	
第 6 回	園行事と表現	
第 7 回	劇の指導(1) 演目、台本、曲(歌)選び	
第 8 回	劇の指導(2) 小道具の製作(情報機器及び教材の活用を含む)	
第 9 回	劇の指導(3) 大道具の製作(情報機器及び教材の活用を含む)	
第 10 回	劇の指導(4) 衣装の素材選びと製作(情報機器及び教材の活用を含む)	
第 11 回	劇の指導(5) 衣装の製作(情報機器及び教材の活用を含む)	
第 12 回	リハーサル(1) 模擬保育①(劇の流れの確認)	
第 13 回	リハーサル(2) 模擬保育②(セリフの確認)	
第 14 回	舞台発表と振り返り	
第 15 回	指導法の考察と表現活動のまとめ	
定期試験	レポート試験	

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート試験)(40%)＋発表(40%)＋提出物(10%)＋予習・復習等の自主的学習態度(10%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
0～5歳児の歌って楽しい 劇遊び	滝川弥絵	ひかりのくに	978-4-564-60906-0

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

実習を通して経験したことも含めて、園行事と表現活動について事前にまとめておく。また、保育における「表現」の領域について、ねらいや内容を改めて見直しておくこと。劇あそびに向けた取り組みでは、使用する物の製作準備や発表練習をする。

標準学修時間の目安:発表に向けた製作準備や練習等を含めて 60 分程度が望ましい。

【備考】

・自主性や積極的な課題への取り組みを評価する。
・リハーサル及び舞台発表日は、演じることを考慮し、動きやすい服装にすること。クリエイティブホール使用予定。

専門科目

科 目 名	幼児教育方法論	担当者名	濱中 啓二郎	
ナンバリングコード	24303			
必選・単位	選択 2 単位（幼 2 免必修）	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	2年後期
			長期履修生	3年前期

【授業の概要】

本科目では、３法令に記載されている資質・能力を子どもたちが育むために必要な知識及び技術を学び、実践的 な援助方法を理解する。保護者対応において、保護者から信頼される対応とはどのようなものかを理解し、身に付ける。情報機器を活用したドキュメンテーション及びポートフォリオ作成や保育運営において必要な ICT 技術全般を習得 し、保育において活用できる実践力を身に付ける。

【授業の到達目標】

1 これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解している。 そのために幼児教育の方法的諸原理を学び、その方法的諸原理は子どもの生きる権利、その発達の特性の深 い理解を基礎として構築されていくものであることを理解している
2 教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。具体的には、様々な教育方法についての実践的感覚を 養い、これからの社会を担う子どもたちに育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた幼児教育活動及び評価の 基礎的な考え方を理解している
3 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する 基礎的な能力を身につけている。その結果として、遊びを通しての主体的・対話的で深い学びを実現するため に、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができるよう になる

【授業方法】

・プリントを配付し、パワーポイントや映像を用いて講義する。
・講義においては、内容に応じてグループワークを行う場合もある。
・講義の最後にワークシートの提出を行うこともある。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	―	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

プリントの配布による。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	△
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	○
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	△
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	ガイダンス 幼児教育方法論から考える保育のサイクルについて	濱中
第 2 回	子どもの遊びについて１ 幼稚園教育要領における位置づけ ５領域の「言葉」を中心に	濱中
第 3 回	子どもの遊びについて２ 遊びの理論	濱中
第 4 回	子どもの遊びについて３ 乳幼児期の遊びについて	濱中
第 5 回	幼児理解の理論	濱中
第 6 回	環境を通した保育	濱中
第 7 回	保育指導の形態について１ 自由な活動と設定保育	濱中
第 8 回	保育指導の形態について２ 年齢別保育、異年齢保育、プロジェクト・アプローチ	濱中
第 9 回	保育指導の形態について３ 協同的な学び、主体的・対話的で深い学び	濱中
第 10 回	生活を通じた保育、インクルーシブ保育	濱中
第 11 回	発達段階を考慮した保育１ ３歳児クラスの運営	濱中
第 12 回	発達段階を考慮した保育２ ４、５歳児クラスの運営	濱中
第 13 回	フレーベル・モンテッソーリの保育方法１ 恩物から見る保育方法	濱中
第 14 回	フレーベル・モンテッソーリの保育方法２ 教具から見る保育方法	濱中
第 15 回	ICT 機器を使用した保育・まとめ	濱中
定期試験	筆記試験	濱中

【成績評価の方法・基準】

定期試験(70%)＋提出物及びグループワークへの参加(30%) ＝合計(100%)

【テキスト】

書 名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3

【参考文献】

書 名	著者名	出版社	ISBN コード

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

授業等における内容に応じて指示する。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・課題なども含めて 120 分とする。

【備考】

授業では毎回プリントを配布するので、ファイル等に保管し、これまでのプリントも毎回持参すること。

専門科目

科 目 名	乳児保育Ⅰ*	担当者名	新井　恵美子*	
ナンバリングコード	24301			
必選・単位	選択2単位（保育士必修）	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	1年後期
			長期履修生	1年後期

【授業の概要】

乳児保育の理念や現状、体制などの基礎的事項の理解を深める。

乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割、並びに乳児保育の現状と課題についての理解を深める。さらに、3歳未満児の発育・発達をふまえた保育を学ぶ。あわせて、乳児保育における連携・協働についても理解する。

【授業の到達目標】

1　乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。
2　保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
3　3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。
4　乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。

【授業方法】

講義形式を基本にするが、授業内容を深めるための演習や、保育者として必要なスキルの実習課題等も行う。乳幼児期の発達過程に応じた保育や、子どもの最善の利益に適う環境の在り方等を考えるとともに、あらゆる事象や環境が、乳幼児の人間形成に関わっている事を確認する。

保育施設での現場経験がある実務家教員が、乳児保育についての知識と技術を伝える。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	―	―	―	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で実施する小テスト及びその他の提出物への評価・コメントを持ってフィードバックする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	△
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	△
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	乳児保育の役割と機能	新井
第 2 回	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷	新井
第 3 回	乳児保育の現状と課題	新井
第 4 回	乳児保育における養護及び教育	新井
第 5 回	子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	新井
第 6 回	3 歳未満児の発達と道すじ	新井
第 7 回	3 歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	新井
第 8 回	3 歳未満児の生活と環境	新井
第 9 回	3 歳未満児の遊びと環境	新井
第 10 回	3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等の援助や関わり	新井
第 11 回	3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	新井
第 12 回	乳児保育のおける計画・記録・評価の意義	新井
第 13 回	3 歳以上児の保育に移行する時期の保育	新井
第 14 回	職員間および保護者との連携・協働	新井
第 15 回	自治体や地域の関係機関との連携・協働	新井
定期試験	レポート試験	新井

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(50%)＋課題レポート及び小テスト(30%)＋授業への取り組み(20%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
はじめて学ぶ乳児保育　第 4 版	志村聡子	同文書院	978-4-8103-1528-8
保育所保育指針解説　平成 30 年 3 月	厚生労働省	フレーベル館	978-4-5778-1448-2

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

授業が終わった後、その日に取ったノートをもう 1 度読み返し、復習をすること。
授業内で出た重要キーワードは、単語の丸暗記ではなく、その意味が自分の言葉で説明できるようにすること。

標準学修時間の目安:20 分から 30 分程度の復習が望ましい。

【備考】

専門科目

科 目 名	乳児保育Ⅱ *	担当者名	新井　惠美子*	
ナンバリングコード	24302			
必選・単位	選択1単位（保育士必修）	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	3年前期

【授業の概要】

具体的な乳児保育の方法や環境の構成等を学び、乳児保育の実践力を修得する。
3歳未満児の発育・発達の課程や特性の理解に基づく援助や関わりの基本、及び乳児保育における生活と遊び、配慮の実際を理解し、それをふまえて乳児保育における計画の作成について理解する

【授業の到達目標】

1　歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や、関わりの基本的な考え方について理解する。
2　養護及び教育の一本性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。
3　乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
4　上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。

【授業方法】

「乳児保育Ⅰ」で学んだ基本的事項を踏まえ、知識や情報を応用する力や、現場で必要な技術力を養う為の実習課題を取り入れる。講義内容を更に掘り下げて考える機会とし、問題を解決する力を養う為、テーマに沿った自身の考えや、講義内容をまとめ、理解を深める。
保育施設での現場経験がある実務家教員が、乳児保育についての知識と技術を伝える。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	―	―	―	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で実施する小テスト及びその他の提出物への評価・コメントを持ってフィードバックする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	△
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	△
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	子どもの保育士等との関係の重要性	新井
第 2 回	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	新井
第 3 回	子どもの1日の生活の流れと保育の環境	新井
第 4 回	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	新井
第 5 回	0 歳児の発育・発達を踏まえた援助の実際（生活・遊び）	新井
第 6 回	子どもの体験と学びの芽生え	新井
第 7 回	1 歳児の発育・発達を踏まえた援助の実際（生活・遊び）	新井
第 8 回	子どもの主体性の尊重と自己の育ち	新井
第 9 回	2 歳児の発育・発達を踏まえた援助の実際（生活・遊び）	新井
第 10 回	子どもの生活や遊びを支える環境の構成	新井
第 11 回	子ども同士の関わりとその援助の実際	新井
第 12 回	集団での生活における配慮	新井
第 13 回	環境の変化や以降に対する配慮	新井
第 14 回	乳児保育における指導計画のポイント	新井
第 15 回	乳児保育の現状と課題	新井
定期試験	レポート試験	新井

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(50%)＋課題レポート及び小テスト(30%)＋授業への取り組み(20%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
はじめて学ぶ乳児保育　第 4 版	志村聡子	同文書院	978-4-8103-1528-8
保育所保育指針解説　平成 30 年 3 月	厚生労働省	フレーベル館	978-4-5778-1448-2

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

・授業が終わった後、その日に取ったノートなどをもう 1 度読み返し、復習をすること。
・授業内で出た重要キーワードは、単語の丸暗記ではなく、その意味が自分の言葉で説明できるようにすること。

標準学修時間の目安：20 分から 30 分程度が望ましい

【備考】

専門科目

科 目 名	子どもの健康と安全*	担当者名	大木 寛人*	
ナンバリングコード	24307			
必選・単位	選択1単位(保育士必修)	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年後期
			長期履修生	2年後期

【授業の概要】

保健的な観点に基づく保育の環境整備や心身の健康・安全管理の実施体制など、実践的な力を修得する科目である。アレルギー対応、感染症対策、事故防止、事故発生時の対応などについて、関連するガイドラインや近年のデータに基づいて具体的に理解していく。

子どもの健康や安全の管理に関わる、組織的な取り組みや保健活動の計画・評価等についても理解する。

【授業の到達目標】

1 保育における保健的な観点に基づく保育環境整備や援助について理解する。

2 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。

3 子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。

4 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における感染症対策について具体的に理解する。

5 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく子どもの発達や、状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。

6 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的な取り組みや保健活動の計画・評価等についても具体的に理解する。

【授業方法】

子どもの保健で既習した知識や理論をもとに、心身の健康状態や子どもの健康及び安全にかかわる保健活動の計画・実施・評価ができる実践的な応用力を身につける。また、疾病への予防対処や個別の対応が必要な子どもへの援助、応急処置法、事故防止の観点から安全管理や災害時の備えと危機管理について、具体的な実践方法を学んでいく。さらに、現代の心とからだの健康問題や地域保健活動についても学んでいく。保育園での保育補助、高校での体育教師としての実務経験を活かし、健康・安全に関する知識等を実践的に教授する。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	—	—	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内の小課題やリアクションペーパー等の提出物に関しては、次週の授業で返却する。あるいは、コメントや意見をまとめたものを全体に向けて提示する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	△
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	◎

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	子どもの健康と保育の環境	大木
第 2 回	子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康	大木
第 3 回	衛生管理	大木
第 4 回	事故防止及び安全対策	大木
第 5 回	災害への備えと危機管理	大木
第 6 回	体調不良や傷害が発生した場合の対応	大木
第 7 回	救急処置および救急蘇生法	大木
第 8 回	感染症の集団発生と予防、対応	大木
第 9 回	保育における保健的対応の基本的な考え方	大木
第 10 回	3歳児未満への適切な対応	大木
第 11 回	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応	大木
第 12 回	障害のある子どもへの適正な対応	大木
第 13 回	職員間の連携・協働と組織的取り組み	大木
第 14 回	保育における保健活動の計画と評価	大木
第 15 回	子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携	大木
定期試験	筆記試験	大木

【成績評価の方法・基準】

定期試験（筆記）(50%)＋各回の授業の最後に提出する小レポート（30%）＋授業に対する関心・意欲・態度(20%)＝合計（100%

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
新・基本保育シリーズ 16 子どもの健康と安全　第2版	児童育成協会／ 松田博雄	中央法規出版	978-4-8243-0334-9

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜紹介する			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

予習としてあらかじめ授業前に教科書を読んでおくこと。
復習としてポイントをまとめたり、演習でうまくできなかった内容を再度行うなど振り返りをおこなうこと。
普段から乳幼児に関する保健や事故に関する報道に意識的に目を向け、把握するように心掛けること。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・宿題を含めて 30 分以上が望ましい。

【備考】

専門科目

科 目 名	障害児保育Ⅰ	担当者名	鈴木 菖	
ナンバリングコード	24304			
必選・単位	選択1単位(保育士必修)	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年後期
			長期履修生	1年後期

【授業の概要】

障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害のある子どもの地域社会への参加・包摂及び合理的配慮と障害児保育の基本を理解する。また、肢体不自由児、知的障害児、視覚障害・聴覚障害・言語障害児、発達障害児、重症心身障害児、医療ケア児、その他の特別な配慮を要する子どもの理解と保育における発達の援助について学習する。

【授業の到達目標】

1 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその他の保育について理解する。

2 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。

【授業方法】

障害児保育の内容や方法・技術等について講義を行う。講義には、主にパワーポイントを用いる。さらに、講義のテーマに合わせた演習も行う。演習では、小グループでのグループワークや事例検討等を行い、各自が自ら考えそして意見交換できる機会を設けることとする。毎回の課題として、リアクションペーパーの提出を求め、講義内容や演習に関して振り返りをしてもらう。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	―	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

リアクションペーパーに書かれた質問や意見については、必要に応じて授業にてフィードバックを行う。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	△
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	障害児保育の基本(現状と歴史)	鈴木
第 2 回	障害理解①発達障害(自閉症)	鈴木
第 3 回	障害理解②発達障害(ADHD/LD)	鈴木
第 4 回	障害理解③知的障害・ダウン症	鈴木
第 5 回	障害理解④肢体不自由	鈴木
第 6 回	障害理解⑤視覚障害	鈴木
第 7 回	障害理解⑥聴覚障害・言語障害	鈴木
第 8 回	障害理解⑦重度重複障害・医療的ケア児	鈴木
第 9 回	障害理解⑧てんかん・情緒障害児等	鈴木
第 10 回	障害理解⑨障害のある人の生活体験(1)食事・着脱	鈴木
第 11 回	障害理解⑩障害のある人の生活体験(2)移動・コミュニケーション	鈴木
第 12 回	障害理解に対する振り返り	鈴木
第 13 回	合理的配慮の基本・実際	鈴木
第 14 回	障害児保育の実際①個々の発達を促す生活や遊びの環境	鈴木
第 15 回	障害児保育の実際②子ども同士のかかわりあいと育ちあい／振り返り	鈴木
定期試験	レポート試験	鈴木

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(40%)＋授業への取り組み(20%)＋授業内課題及び小テスト(40%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる障害児保育　第2版	尾崎康子／ 小林真	ミネルヴァ書房	978-4-623-08124-0
よくわかる！保育士エクササイズ 障害児保育演習ブック	松本峰雄／ 増南太志	ミネルヴァ書房	978-4-623-09068-6

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

授業で配布したプリントを読み返し、わからないことがあれば聞きに来ること。また授業内容を深めるための課題を出すこともあるので、各自学修すること。

標準学修時間の目安:予習・復習含めて 60 分程度が望ましい。

【備考】

配布する資料を整理しておくこと。

専門科目

科 目 名	障害児保育Ⅱ	担当者名	八田 清果	
ナンバリングコード	24305			
必選・単位	選択 1 単位（保育士必修）	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	3年前期

【授業の概要】

障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法を理解する。また、家庭への支援、保護者間の交流や支え合いの意義その他の支援を理解する。障害児支援の制度の理解と自治体や関係機関との連携・協働、小学校等との連携について考える。さらに、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題を理解する。

【授業の到達目標】

1　障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。

2　障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。

3　障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

【授業方法】

書き込み式のプリントを配布するので、必要なことは書き込むようにしてほしい。講義科目ではあるが、小グループでのグループワークも取り入れながら、各自が自ら考えそして意見交換できる機会を設けることとする。また、DVD等も使用しながら視覚的教材も活用しより理解が深まるように努める。
※Google クラスルーム内に授業で配付した資料、スライド等を置いておくので復習等で活用してほしい。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回リアクションペーパーを提出してもらい、それにコメントをつけて返却する。グループワーク等の演習やDVD視聴に関しては振り返りをし、提出してもらう。それら提出された課題に対しては、提出状況及び内容について確認し返却する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	△
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	○
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	オリエンテーション/障害児保育Ⅰの振り返り	八田
第 2 回	障害児保育の体制づくり	八田
第 3 回	障害児支援にかかわる専門職	八田
第 4 回	小学校との連携	八田
第 5 回	家庭への支援①障害のある子どもがいる親への支援	八田
第 6 回	家庭への支援②障害のある子どもがいるきょうだいへの支援	八田
第 7 回	保育課程に基づく指導計画及び支援計画の作成	八田
第 8 回	発達アセスメント①面接法	八田
第 9 回	発達アセスメント②行動観察法	八田
第 10 回	発達支援の技法①ソーシャルスキルトレーニングの概要	八田
第 11 回	発達支援の技法②ソーシャルスキルトレーニングの実践	八田
第 12 回	発達支援の技法③ペアレントトレーニング	八田
第 13 回	困った行動へのとらえ方	八田
第 14 回	クラスメートへの対応	八田
第 15 回	障害のある子ども等の保育にかかわる現状と課題	八田
定期試験	レポート試験	八田

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(40%)＋平常点(受講態度)(30%)＋提出物(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
障がい児保育	小橋拓真／ 小橋明子	中山書店	978-4-521-74750-7
やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる障害児保育　第2版	尾崎康子／ 小林真	ミネルヴァ書房	978-4-623-08124-0

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

毎時間教科書を事前に読み、授業後にはプリントを読み返し、わからないことがあれば聞きに来ること。また授業内容を深めるための課題を出すこともあるので、各自学修し作成すること

標準学修時間の目安：予習・復習・宿題を含めて 60 分程度が望ましい

【備考】

授業を欠席した場合は、翌週の授業前までに研究室に来て、配付したプリント等を自分でもらいにくるか、Google クラスルーム内に置いてある資料を印刷しておくこと。

専門科目

科 目 名	社会的養護Ⅱ *	担当者名	浅香 勉*	
ナンバリングコード	24306			
必選・単位	選択2単位（保育士必修）	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	2年後期
			長期履修生	3年後期

【授業の概要】

社会的養護の基礎的な内容、及び施設養護と家庭養護の生活特性と実際を理解する。社会的養護における支援計画を作成し、記録及び自己評価について理解する。さらに、社会的養護に関わる専門的技術を身に付ける。これらの学習を通して、社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解を深める。

講義では、児童養護施設での児童指導員、主任指導員としての実務経験を活かし、特に広く子どもと保護者・地域の人々の理解、更には個別的配慮を必要とする人たちの理解を踏まえたうえで、権利擁護・自己実現に必要な社会的養護に関する専門職としての姿勢を、具体的かつ実践的に教授する。

【授業の到達目標】

1 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。

2 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。

3 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。

4 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。

5 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

【授業方法】

(1)テキストとスライド、配布資料等を用いて、社会的養護の基礎知識を確認する。(2)更に①児童の権利擁護の具体的方法の理解②施設保育士、更には臨床・現場で保育士から任用される被虐待児個別対応職員、里親支援専門員等の役割を学ぶ③児童相談所や連携する社会的養護施設、障がい領域等を理解する(3)必要に応じて DVD 教材等を用いて①ロールプレイ等の演習を展開する②事例から各種児童福祉施設におけるマネジメントを学ぶ③ソーシャルワークの方法と技術、家庭や地域とのかかわりを学ぶ④要保護児童対策地域協議会(地域ネットワーク)も含め、自立支援計画を通して、社会的養護の課題と展望を考察する⑤毎回振り返りシートを記入し、学んだことについて整理する。(4)併せて社会的養護の現代社会において果たす役割を理解するために、広く一般教養への取り組みとして5分間スピーチを継続する。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他：
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

(1)「5 分間スピーチ」への各自のコメントは、科目修了時に提出し評価対象としても活用する。
(2) 授業への質問、意見・要望等を各回フィードバックシートとして提出し、次回授業の際に記入返却し、授業に反映する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	△
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	○
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	社会的養護における子どもの理解	浅香
第 2 回	社会的養護における日常生活支援	浅香
第 3 回	社会的養護における治療的支援	浅香
第 4 回	問題行動の背景理解とニーズ理解	浅香
第 5 回	社会的養護の自立支援	浅香
第 6 回	施設養護の生活特性とその実際	浅香
第 7 回	家庭養護の生活特性とその実際	浅香
第 8 回	アセスメントと個別支援計画の作成	浅香
第 9 回	保育の専門性の関わる知識・技術とその実践	浅香
第 10 回	社会的養護に関する社会的状況	浅香
第 11 回	被措置児童等虐待とは	浅香
第 12 回	社会的養護と地域福祉	浅香
第 13 回	社会的養護における家庭支援	浅香
第 14 回	今後の社会的養護の方向性	浅香
第 15 回	社会的養護を担う人材育成とサービスの重層化	浅香
定期試験	筆記試験	浅香

【成績評価の方法・基準】

定期試験(筆記)(40%)＋演習・質問等に臨む授業の積極性(30%)＋課題の到達度(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
最新保育士養成講座 社会的擁護と障害児保育　改訂1版	『最新保育士 養成講座』総括 編纂委員会	全国社会福祉協議会	978-4-7935-1408-1
ひと目でわかる保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック 2025	全国保育士養成 協議会監修／ 宮島清	中央法規出版	978-4-8243-0148-2
福祉・保育小六法　2025 年版	福祉・保育福祉小六 法編集委員会	みらい	978-4-86015-649-7

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

(1)テキストの下調べをする。(2)課題に取り組み、併せて学生同士でディスカッションをする。

標準学修時間の目安：予習・復習・宿題を含めて 60 分程度が望ましい。

【備考】

テキスト・参考文献以外にも関連する書籍をよく読むとともに、特に新聞等で情勢を把握すること。

専門科目

科 目 名	子育て支援	担当者名	鈴木 菖	
ナンバリングコード	24309			
必選・単位	選択1単位(保育士必修)	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年後期
			長期履修生	3年後期

【授業の概要】

保育の専門性を背景とした保育士の保護者に対する相談、情報提供、行動見本の提示等の保育相談支援について、その特性と展開を具体的に理解する。さらに、実践事例等を通して、様々な場や対象に即した子育て支援について、支援の内容と方法及び技術を理解し身につける。

【授業の到達目標】

1 保育の専門性を背景とした保育士の保護者に対する相談、情報提供、行動見本の提示等(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。

2 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した子育て支援について、支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

【授業方法】

子育て支援の内容や方法・技術等について講義を行う。講義には、主にパワーポイントを用いる。さらに、講義のテーマに合わせた演習も行う。演習では、小グループでのグループワークや事例検討等を行い、各自が自ら考えそして意見交換できる機会を設けることとする。毎回の課題として、リアクションペーパーの提出を求め、講義内容や演習に関して振り返りをしてもらう。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	―	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

リアクションペーパーに書かれた質問や意見については、必要に応じて授業にてフィードバックを行う。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	○
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	△
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	子育て支援・保護者への支援の意義	鈴木
第 2 回	保育士の行う子育て支援の基本―子どもや保護者に対する支援の視点	鈴木
第 3 回	保育士の行う子育て支援の特性①日々のかかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	鈴木
第 4 回	保育士の行う子育て支援の特性②保護者や家庭が抱える支援ニーズへの気づきと多面的理解	鈴木
第 5 回	保育士の行う子育て支援の特性③子ども・保護者が多様な他者とかかわる機会や場の提供	鈴木
第 6 回	保育士の行う子育て支援の展開①子どもやその保護者の状況・状態の把握(アセスメントの方法	鈴木
第 7 回	保育士の行う子育て支援の展開②支援計画等	鈴木
第 8 回	保育士の行う子育て支援の展開③支援の記録・評価等	鈴木
第 9 回	保育士の行う子育て支援の展開④職員間の連携・協働	鈴木
第 10 回	保育士の行う子育て支援の展開⑤地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力／振り返り	鈴木
第 11 回	保育士の行う子育て支援①保育所における支援／地域の子育て家庭に対する支援	鈴木
第 12 回	保育士の行う子育て支援②特別な配慮を要する子どもや家庭への支援	鈴木
第 13 回	保育士の行う子育て支援③要保護児童等の家庭に対する支援	鈴木
第 14 回	子育て支援の実際①子育て家庭ニーズの把握	鈴木
第 15 回	子育て支援の実際②ニーズに合った支援の検討／振り返り	鈴木
定期試験	レポート課題	鈴木

【成績評価の方法・基準】

定期試験（レポート）（40％）＋授業への取り組み（20％）＋授業内課題及び小テスト（40％）＝合計（100％）

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業中に適宜資料を配布する。			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
ワークで学ぶ　子育て支援	菊池篤子／金瑛珠	みらい	978-4-86015-617-6
学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現代社会　演習・保育と子育て支援	小原敏郎／橋本好市	みらい	978-4-86015-490-5

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

授業で配布したプリントを読み返し、わからないことがあれば聞きに来ること。また授業内容を深めるための課題を出すこともあるので、各自学修すること。

標準学修時間の目安：予習・復習含めて 60 分程度が望ましい。

【備考】

配布する資料を整理しておくこと。

専門科目

科 目 名	教育相談*	担当者名	熊上　藤子*	
ナンバリングコード	24308			
必選・単位	選択 2 単位(幼 2 免必修)	担当形態	単独	
授業方法	講義	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	3年前期

【授業の概要】

幼児理解は、園におけるあらゆる営みの基本となるものである。園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができるようにする。さらに、教育相談は、子どもたちが自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。子どもたちの発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身につける。

【授業の到達目標】

1　幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解する。
2　幼児理解の方法を具体的に理解する。
3　園における教育相談の意義と理論を理解する。
4　教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事項を含む)を理解する。
5　教育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。

【授業方法】

・公認心理師として相談・支援の実務経験を有する教員が講義を担当する。
・授業はテキストに準拠して進め、第 10 回までは講義と演習を組み合わせ、第 11 回以降は事例検討を中心に行う。
・講義では視聴覚教材を用いて重要概念や事例を解説する。
・演習および事例検討を通して、幼児理解およびカウンセリングに関する知識や考え方について、自ら問いをもち、考えながら理解を深める。
・授業の進め方は、学生の理解や関心に応じて、内容や活動の形態を調整しながら進める。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業のリアクションペーパー、および家庭学習課題などの提出課題は、内容に応じて個別にコメントを記入して返却する。また、全体で共有すべき意見や質問については、授業内で取り上げる。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	○
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	△
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	保育の場における相談ニーズとカウンセリング・マインド	熊上
第 2 回	子どもの発達理解と相談・支援（1）発達の道筋/発達を理解するための方法	熊上
第 3 回	子どもの発達理解と相談・支援（2）一人ひとりの育ちに応じた支援	熊上
第 4 回	保護者への対応―子育て支援の視点から	熊上
第 5 回	発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり	熊上
第 6 回	子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ	熊上
第 7 回	保育場面でのカウンセリング技法の活用	熊上
第 8 回	園・地域における専門家との連携による相談・支援	熊上
第 9 回	保育者の専門性と相談活動	熊上
第 10 回	基礎的対人関係のトレーニング	熊上
第 11 回	事例検討（1）子ども同士のいざこざ/すぐに暴力を振るう子ども	熊上
第 12 回	事例検討（2）仲間に入れない子ども/不登園の子ども	熊上
第 13 回	事例検討（3）虐待が疑われる子ども/施設での不適切なかかわり	熊上
第 14 回	事例検討（4）障害のある子ども/異文化理解	熊上
第 15 回	事例検討（5）保護者からの相談	熊上
定期試験	レポート試験	熊上

【成績評価の方法・基準】

定期試験（レポート）(40%)＋家庭学習課題(30%)＋授業への取り組み(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
新時代の保育双書 子どもの理解と保育・教育相談　第2版	小田豊／ 秋田喜代美	みらい	978-4-86015-546-9

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
スクールカウンセリングのこれから	石隈利紀／ 家近早苗	創元社	978-4-422-16768-8
子どもの心理検査・知能検査　保護者と 先生のための100%活用ブック WISC－5・KABC－2対応版	熊上崇／星井純子 ／熊上藤子	合同出版	978-4-7726-1567-9

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

・予習として、テキストの該当箇所を読むこと。
・復習として、授業の内容を振り返り、自分なりの疑問や不明点を整理しながら理解を深めること。
・家庭学習課題がある場合は、自身が現場で実践することを想定しながら取り組むこと。
・提出を求める課題は、成績評価の対象とする。

標準学修時間の目安：　予習・復習・家庭学習課題への取り組みを含めて 45～60　分程度が望ましい。

【備考】

受講学生同士で、互いの気づきや考え、疑問を尊重しながら学び合うことを期待します。

専門科目

科 目 名	ピアノ基礎技能 A	担当者名	黒田紀子　辻浩美　藤﨑倫子 宮尾夕華　吉田美保	
ナンバリングコード	24310			
必選・単位	選択1単位（保育士選択必修）	担当形態	複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1 年前期
			長期履修生	1 年前期

【授業の概要】

領域「表現」の指導に関する、豊かな音楽表現を修得する授業科目である。保育現場の保育活動では、子どものうたや童謡を弾き歌う能力が求められる。そのためには、まずピアノの基礎技術を身に付けなければならない。本授業では、音楽的基礎知識を確認し、読譜力を高め、指導者としての実践的な演奏能力を高めることを目標とする。ピアノ初学者を始め、ピアノ学習の経験の浅い学生、ピアノに苦手意識を持つ学生は積極的に受講してほしい。

【授業の到達目標】

1　ピアノを演奏するために必要な音楽理論や読譜、運指法などを理解する。
2　保育現場で求められるピアノの演奏技術を習得する。
3　自分の演奏レヴェルに合わせた伴奏を工夫する能力を身に付ける。
4　コードネームを用いた伴奏付けを学習し、メロディにコードを付けて演奏できる。

【授業方法】

授業方法の基本は演習であるが、個別の実技形式で授業を進める。
具体的には、教員が担当する学生一人ひとりの音楽的能力に合わせて、個別にレッスンを実施する。個別レッスン以外の時間は、音楽室やピアノ練習室で自主練習に充てる。学生が達成感を得るために、教員は毎回、チェックシート（進度表）を記載し、進度を確認する。ピアノを練習する習慣を身に付け、ピアノを弾く楽しさや音楽的な表現に繋げるよう、教員はピアノの練習方法を指示するなど学生への言葉がけや授業の工夫を常に図る。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	―	○	―	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

1 各自に与えられた課題は、次回の授業で教員が必ず確認する。
2 課題に関する疑問や質問は、「幼児と音楽表現Ⅰ」の授業でも対応可能である。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	△
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	オリエンテーション(授業の進め方、シラバスの説明)、平易な楽曲を弾く	黒田・辻・藤﨑・宮尾・吉田
第 2 回	ピアノ課題(1)	黒田・辻・藤﨑・宮尾・吉田
第 3 回	ピアノ課題(2)	黒田・辻・藤﨑・宮尾・吉田
第 4 回	ピアノ課題(3)	黒田・辻・藤﨑・宮尾・吉田
第 5 回	ピアノ課題(4)	黒田・辻・藤﨑・宮尾・吉田
第 6 回	ピアノ課題(5)	黒田・辻・藤﨑・宮尾・吉田
第 7 回	ピアノ課題(6)	黒田・辻・藤﨑・宮尾・吉田
第 8 回	授業内発表(小テスト)(1)～(6)より 1 曲	黒田・辻・藤﨑・宮尾・吉田
第 9 回	ピアノ課題(7)、簡単な伴奏付け①	黒田・辻・藤﨑・宮尾・吉田
第 10 回	ピアノ課題(8)、簡単な伴奏付け②	黒田・辻・藤﨑・宮尾・吉田
第 11 回	ピアノ課題(9)、簡単な伴奏付け③	黒田・辻・藤﨑・宮尾・吉田
第 12 回	ピアノ課題(10)、簡単な伴奏付け④	黒田・辻・藤﨑・宮尾・吉田
第 13 回	ピアノ課題(11)、コードネームを用いた伴奏法①	黒田・辻・藤﨑・宮尾・吉田
第 14 回	ピアノ課題(12)、コードネームを用いた伴奏法②	黒田・辻・藤﨑・宮尾・吉田
第 15 回	ピアノ課題(13)、コードネームを用いた伴奏法③	黒田・辻・藤﨑・宮尾・吉田
定期試験	ピアノ実技試験(7)～(13)より 1 曲	黒田・辻・藤﨑・宮尾・吉田

【成績評価の方法・基準】

定期試験(実技)(30%)＋授業への積極的参加(20%)＋授業内進度(30%)＋小テスト(20%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
ピアノ教本 MUSICA	在原　章子	音楽之友社	978-4-11-170458-3

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
ブルグミュラー　25 の練習曲	ヨハン・フリードリヒ・フランツ・ブルクミュラー 北村　智恵	全音楽譜出版社	978-4-11-102010-2
適宜、プリント配付			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

・各自に与えられた課題は、必ず練習してレッスンに臨むこと。
・自分で弾いてみたい曲を探すこと。

標準学修時間の目安:毎日 30 分

【備考】

授業への積極的、意欲的な姿勢を期待します。初学者を始め、ピアノ学習の経験の浅い学生、ピアノに苦手意識を持つ学生は積極的に受講してください。

専門科目

科 目 名	ピアノ基礎技能 B	担当者名	黒田紀子　辻浩美　吉田美保	
ナンバリングコード	24311			
必選・単位	選択1単位(保育士選択必修)	担当形態	複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1 年後期
			長期履修生	1 年後期

【授業の概要】

領域「表現」の指導に関する、豊かな音楽表現に繋げる演奏技術を修得する授業科目である。ピアノ基礎技能 A で習得した演奏技術をさらに発展させ、練習曲だけでなく、採用試験の課題曲や各自のレヴェルに合わせたピアノ小品、弾き歌い曲を演奏する。また、楽譜に書かれた記号や楽語、強弱、スラーに気をつけ、その曲にふさわしい音楽表現を身に付ける。

【授業の到達目標】

1　ピアノを演奏するために必要な基礎的な技術を習得する。
2　その曲に適した強弱や曲想をつけ、音楽的な表現を工夫する。
3　ピアノ曲のレパートリーを増やし、豊かな音楽表現の能力を身に付ける。
4　コードネームを見て、メロディにふさわしい伴奏付けを即興的に実践する。

【授業方法】

授業方法の基本は演習であるが、個別の実技形式で実施する。ピアノ基礎技能 A と同様、教員が担当する学生一人ひとりの音楽的能力に合わせて、個別にレッスンする。個別レッスン以外の時間は、音楽室やピアノ練習室で自主練習に充てる。この授業では、採用試験での頻出課題曲(バイエル後半、ブルグミュラー、ソナチネなど)にも取り組む。また、テキストにはない楽曲にも挑戦し、各自のモチベーションを高め、演奏技術のレベルアップを図る。同時に、曲に適した音楽表現を考え、実践できるようにする。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	―	○	―	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

1 各自に与えられた課題は、次回の授業で教員が必ず確認する。
2 課題に関する疑問や質問は、「幼児と音楽表現Ⅱ」の授業でも対応可能である。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	△
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	オリエンテーション(授業の進め方、シラバスの説明)、課題の確認	黒田・辻・吉田
第 2 回	ピアノ課題(1)	黒田・辻・吉田
第 3 回	ピアノ課題(2)	黒田・辻・吉田
第 4 回	ピアノ課題(3)	黒田・辻・吉田
第 5 回	ピアノ課題(4)	黒田・辻・吉田
第 6 回	ピアノ課題(5)	黒田・辻・吉田
第 7 回	ピアノ課題(6)	黒田・辻・吉田
第 8 回	授業内発表(小テスト)(1)～(6)より 1 曲	黒田・辻・吉田
第 9 回	ピアノ課題(7)、伴奏法の工夫:基礎①	黒田・辻・吉田
第 10 回	ピアノ課題(8)、伴奏法の工夫:基礎②	黒田・辻・吉田
第 11 回	ピアノ課題(9)、伴奏法の工夫:基礎③	黒田・辻・吉田
第 12 回	ピアノ課題(10)、伴奏法の工夫:基礎④	黒田・辻・吉田
第 13 回	ピアノ課題(11)、コードネームを用いた伴奏法:基礎①	黒田・辻・吉田
第 14 回	ピアノ課題(12)、コードネームを用いた伴奏法:基礎②	黒田・辻・吉田
第 15 回	ピアノ課題(13)、コードネームを用いた伴奏法:基礎③	黒田・辻・吉田
定期試験	ピアノ実技試験(7)～(13)より 1 曲	黒田・辻・吉田

【成績評価の方法・基準】

定期試験(実技)(30%)＋授業への積極的参加(20%)＋授業内進度(30%)＋小テスト(20%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
ポケットいっぱいのうた　3訂版	鈴木恵津子	教育芸術社	978-4-86779-111-0

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
ピアノ教本 MUSICA	在原章子	音楽之友社	978-4-11-170458-3
ブルグミュラー　25 の練習曲	ヨハン・フリードリヒ・フランツ・ブルクミュラー／北村智恵	全音楽譜出版社	978-4-11-102010-2

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

・各自に与えられた課題は、必ず練習してレッスンに臨むこと。
・自分で弾いてみたい曲を探すこと。

標準学修時間の目安:毎日 30 分

【備考】

授業への積極的、意欲的な姿勢を期待します。初学者を始め、ピアノ学習の経験の浅い学生、ピアノに苦手意識を持つ学生は積極的に受講してください。

専門科目

科 目 名	ピアノ基礎技能 C	担当者名	黒田紀子　辻浩美　吉田美保	
ナンバリングコード	24312			
必選・単位	選択1単位(保育士選択必修)	担当形態	複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	2年前期

【授業の概要】

領域「表現」の指導に関する、豊かな音楽表現に繋げる演奏技術を修得する授業科目である。ピアノ基礎技能 A・B で習得した演奏技術をさらに発展させ、練習曲だけでなく、採用試験の課題曲や各自のレヴェルに合わせたピアノ小品、弾き歌い曲を演奏する。また、楽譜に基づいた、その曲にふさわしい音楽表現を身に付けるとともに、状況に合わせて柔軟に演奏できるようにする。

【授業の到達目標】

1　保育の現場で子どもと音楽活動を行う際に必要となるピアノ演奏の技術を修得する。

2　音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。

3　楽曲がもつ特徴を理解し、それを自分なりに解釈して表現するための技能を学習する。

【授業方法】

授業方法の基本は演習であるが、個別の実技形式で実施する。ピアノ基礎技能 A・B と同様、教員が担当する学生一人ひとりの音楽的能力に合わせて、個別にレッスンする。個別レッスン以外の時間は、音楽室やピアノ練習室で自主練習に充てる。この授業では、採用試験での頻出課題曲(バイエル後半、ブルグミュラー、ソナチネなど)や保育現場で歌われる曲の弾き歌いに取り組む。また、テキストにはない楽曲にも挑戦し、各自のモチベーションを高め、演奏技術のレベルアップを図る。同時に、曲に適した音楽表現を考え、実践できるようにする。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	―	○	―	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

1 各自に与えられた課題は、次回の授業で教員が必ず確認する。
2 課題に関する疑問や質問は、「幼児と音楽表現Ⅲ」の授業でも対応可能である。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	△
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	オリエンテーション(授業の進め方、シラバスの説明)、課題の確認	黒田・辻・吉田
第 2 回	ピアノ課題(1)	黒田・辻・吉田
第 3 回	ピアノ課題(2)	黒田・辻・吉田
第 4 回	ピアノ課題(3)	黒田・辻・吉田
第 5 回	ピアノ課題(4)	黒田・辻・吉田
第 6 回	ピアノ課題(5)	黒田・辻・吉田
第 7 回	ピアノ課題(6)	黒田・辻・吉田
第 8 回	授業内発表(小テスト)(1)～(6)より 1 曲	黒田・辻・吉田
第 9 回	ピアノ課題(7)、コードネームを用いた伴奏法:発展①	黒田・辻・吉田
第 10 回	ピアノ課題(8)、コードネームを用いた伴奏法:発展②	黒田・辻・吉田
第 11 回	ピアノ課題(9)、コードネームを用いた伴奏法:発展③	黒田・辻・吉田
第 12 回	ピアノ課題(10)、コードネームを用いた伴奏法:発展④	黒田・辻・吉田
第 13 回	ピアノ課題(11)、伴奏法の工夫:発展①	黒田・辻・吉田
第 14 回	ピアノ課題(12)、伴奏法の工夫:発展②	黒田・辻・吉田
第 15 回	ピアノ課題(13)、伴奏法の工夫:発展③	黒田・辻・吉田
定期試験	ピアノ実技試験(7)～(13)より 1 曲	黒田・辻・吉田

【成績評価の方法・基準】

定期試験(実技)(30%)＋授業への積極的参加(20%)＋授業内進度(30%)＋小テスト(20%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
ポケットいっぱいのうた　改訂	鈴木恵津子／冨田英也	教育芸術社	978-4-87788-485-7

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
ピアノ教本 MUSICA	在原章子	音楽之友社	978-4-11-170458-3
ブルグミュラー　25 の練習曲	ヨハン・フリードリヒ・フランツ・ブルクミュラー／北村智恵	全音楽譜出版社	978-4-11-102010-2

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

・各自に与えられた課題は、必ず練習してレッスンに臨むこと。
・自分で弾いてみたい曲を探すこと。

標準学修時間の目安:毎日 30 分

【備考】

授業への積極的、意欲的な姿勢を期待します。初学者を始め、ピアノ学習の経験の浅い学生、ピアノに苦手意識を持つ学生は積極的に受講してください。

専門科目

科 目 名	レクリエーション演習	担当者名	真砂　雄一	
ナンバリングコード	24313			
必選・単位	選択1単位(レク資格必修)	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1 年前期／2年前期
			長期履修生	1 年前期／2年前期 ／3年前期

【授業の概要】

レクリエーションの考え方・捉え方について概説する。様々なレクリエーションワークを体験し、支援のための理論を実践的に理解するとともに、コミュニケーション能力を高める。

保育や福祉の現場でどのようなレクリエーション活動が求められているか、考えを深め、現場に即したレクリエーション活動、プログラムの企画を立て実施する。参加者が楽しみながら参加できるように、活動を通して支援者としての対応の仕方、表現力を磨いていく。

【授業の到達目標】

1　集団をリードし、一体感を生み出し、楽しい時間を演出する力を身につける。
2　1 対1、1対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につける。
3　対象や支援の目的に合わせたプログラムを企画・展開する力を身につける。
4　既存のアクティビティを、対象にあったアクティビティへとアレンジする力を身につける。
5　対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につける。
6　福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーション活動を企画・運営する力を身につける。

【授業方法】

「楽しさ」は人それぞれで異なる。だからこそ、様々な楽しさ(素材)を知っていることが重要で、対象者に楽しさ(魅力)を伝えられる方法が求められる。そのため、授業内では現場で行われているレクリエーション活動や遊びを紹介する。

実際に学生自身が体験、実践しながら、レクリエーションについての必要な知識や技能を修得していく。

また、レクリエーションは 1 人ではなく、他の人と関わる楽しさを重視している。グループワークの中でディスカッションやコミュニケーションワークを楽しみ、実践を通して、レクリエーションの楽しさやその魅力を味わってほしい。

授業の場所は、教室またはクリエイティブホールで行う。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	○	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

調べてきたレクリエーション活動や遊びを発表し、実践する。内容についてアドバイスや解説を行い、振り返りを行う。また、全員でディスカッションやコミュニケーションワークを行い、共有することでフィードバックとする。

【学習成果】

①「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	△
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	○
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	◎
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	ガイダンス／レクリエーションの主旨(目的)／レクリエーションインストラクターの役割	真砂
第 2 回	レクリエーション活動から得られる楽しさ／レクリエーションゲーム	真砂
第 3 回	レクリエーション支援の目的と方法／ライフステージと心の元気づくり	真砂
第 4 回	楽しさが心の元気をもたらす生理的な仕組み、および社会的な仕組み	真砂
第 5 回	成功体験を支え合う対象者のかかわりあい／レクリエーションゲーム	真砂
第 6 回	自主的、主体的に楽しむ力を育む理論	真砂
第 7 回	コミュニケーション活動をとおした良好な集団づくり、集団内のコミュニケーションの促進	真砂
第 8 回	レクリエーション活動の展開法／やる気の変化とやる気が生じる心の仕組み	真砂
第 9 回	対象者と支援者の信頼関係および信頼関係づくりの方法	真砂
第 10 回	レクリエーション活動を対象者に合わせるアレンジ／良好な集団作りの方法	真砂
第 11 回	良好な集団作りの方法:アイスブレーキング／アイスブレーキングモデル	真砂
第 12 回	レクリエーション支援のプログラム立案・準備	真砂
第 13 回	モデル・プログラムの実施	真砂
第 14 回	レクリエーション活動の習得 1	真砂
第 15 回	レクリエーション活動の習得 2	真砂
定期試験	レポート試験	真砂

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋授業時に提出するリアクションペーパー(20%)＋授業に対する関心・意欲・態度(20%)
＋プログラムの立案・準備・実践(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法	日本レクリエーション協会	日本レクリエーション協会	978-4-931180-95-6

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

実技やワークショップを通して理論の再確認をする。色々な遊びを調べ、整理してまとめる。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・宿題を含めて 30 分程度が望ましい。

【備考】

グループワークが多いため、主体的に参加すること。

専門科目

科 目 名	野外活動演習 2026 年度　開講しません 2027 年度　開講科目	担当者名	大浦秀樹　真砂雄一　蓮見絵里	
ナンバリングコード	24314			
必選・単位	選択2単位(キャンプ資格必修)	担当形態	複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1 年前期／2年前期
			長期履修生	1 年前期／2年前期 ／3年前期

【授業の概要】

幼児期、児童期における自然体験や生活体験の重要性が指摘されてきている。この演習では、学生自らが自然体験や生活体験の重要性を認識し、自然の中での生活や活動を通して、自己の形成と自然環境の持つ意味について学ぶ。さらに自然の中で活動する際の知識や技術、指導者としての安全に対する配慮や計画立案の際の留意点など、野外活動を展開する際のプログラムの検討や指導方法を習得する。

【授業の到達目標】

1　自然の中で共同生活を体験し、自己の生活やよりよい人間関係のあり方を理解する。

2　自然体験活動の知識、技術や態度(心構え)を理解し、体験活動を指導することができる。

3　子どもの生活と人間形成における自然環境との相互交渉の重要性を理解する。

4　活動に伴う危険性を理解し、安全への意識を高め、安全な行動ができる。

5　自然に親しみ、自然への理解を深め、自然を大切にする行動ができる。

【授業方法】

この授業は、4 コマの教室での演習形式の授業と 11 コマのボーイスカウト日本連盟の茨城県高萩市にある「大和の森　高萩スカウトフィールド(予定)」での 2 泊 3 日のキャンプ実習を行う。演習形式の授業では、自然の中で活動する際の知識や技術、野外活動の指導方法を習得する。また、授業では、各コマのテーマに沿って、課題に応じてグループワークを取り入れていく。キャンプ実習では、グループごとに様々な体験活動などを行う。

また、キャンプ実習中の生活は、自身で立てたテントに宿泊し、食事は野外炊事(自炊)とする。

授業だけでキャンプ実習の準備をしていくことは難しいので、個々にキャンプ実習に必要な個人装備の準備や、全体で必要な団体装備などの準備を授業時間外に行っていく。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

日ごと、および授業の最後に、ふりかえりの時間を持ち、各自で「ふりかえり」を行い、それを「わかちあい」、コメントすることで新たな気づきが得られるようにする(自己開示とフィードバック)。試験は、回答を解説し、学生側からの質問等に応じることをもってフィードバックとする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	△
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	○
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	自然体験活動の指導（ガイダンス含む）	大浦・真砂・蓮見
第 2 回	自然体験活動の指導	大浦・真砂・蓮見
第 3 回	自然体験活動の安全管理	大浦・真砂・蓮見
第 4 回	青少年教育における体験活動（実習説明含む）	大浦・真砂・蓮見
第 5 回	2027 年 9 月実施予定（3 日間）	大浦・真砂・蓮見
第 6 回	キャンプ実習（2 泊 3 日） ＜1 日目＞ ・野外ゲーム「野外で楽しく遊ぼう」 ・テント技術①「テントをたてよう」 ・野外炊事法①「夕食作り」 ・ナイトゲーム「夜の自然を満喫しよう」 ＜2日目＞ ・野外炊事法②「朝食作り」 ・ロープワーク「結びを学び、ゲームや生活用具を作ろう」 ・野外炊事法③「昼食作り」 ・ネイチャートレイル（自然観察）「自然の不思議さを発見しよう」 ・アドベンチャー体験「仲間と協力して様々な課題にチャレンジしよう」 ・サイクリング＆ハイキング「森の中の滝でマイナスイオンを浴びよう」 ・野外炊事法④「夕食作り」 ・キャンプファイア「火を囲んで、歌い、遊び、火の神秘さを感じよう」 ＜3日目＞ ・野外炊事法⑤「牛乳パックドッグを作ろう」 ・テント技術②「テントをたたもう」 ・試験 ・ふりかえり ＊プログラムは天候等により、若干の変更が生じることがある	大浦・真砂・蓮見
第 7 回		大浦・真砂・蓮見
第 8 回		大浦・真砂・蓮見
第 9 回		大浦・真砂・蓮見
第 10 回		大浦・真砂・蓮見
第 11 回		大浦・真砂・蓮見
第 12 回		大浦・真砂・蓮見
第 13 回		大浦・真砂・蓮見
第 14 回		大浦・真砂・蓮見
第 15 回		大浦・真砂・蓮見
定期試験	レポート試験	大浦・真砂・蓮見

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(50%)＋野外活動への参加(50%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
キャンプ指導者入門　第 5 版	公益社団法人 日本キャンプ協会	公益社団法人 日本キャンプ協会	978-4-904008-15-7

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

※キャンプ実習までに、演習としてキャンプネーム、名札作り、班名、旗作りを行う。

標準学修時間の目安：2時間

【備考】

・集中講義、2泊3日の宿泊（テント泊）を伴う演習を含む。（別途実習費用が必要）
・希望者は2つの資格（キャンプインストラクター、NEALリーダー）が取得可能（別途、申請料が必要）

専門科目

科 目 名	保育技能Ⅰ*	担当者名	奥恵* 熊上藤子	
ナンバリングコード	24401			
必選・単位	必修1単位	担当形態	オムニバス・複数	
授業方法	実技	開講年次・時期	2年制コース	1年前期
			長期履修生	1年前期

【授業の概要】

保育・幼児教育現場での保育活動で必要となる保育技能を身につけ、豊かな保育実践を展開できるようにするために、いくらかの重要な保育技能について深く学修する。その際、定着し習熟するまでに保育技能を豊かに深く修得することが重要である。それとともに、在学中に行う保育実習や教育実習にも役立つ学習内容とする。

【授業の到達目標】

1 保育に関する総合的な学習を基盤として、実践能力を開発するため、豊かで多様な保育技能を修得する。

2 「手遊び」「スケッチブックシアター」について学習し、保育現場における実践的な活用方法を身につける。

3 保育技能とは、たんなる技能ではなく、保育活動の理念を実践的に具現化する技能であることを理解する。

【授業方法】

学習課題ごとに実技を中心とした授業を行う。これに合わせて、実務家教員が実技学習の前後や途中で、保育技能についての具体的な説明やその実践の仕方、そのポイントなどについて講義を行うこともある。また、具体的な保育技能を学生が実際に体験し、子どもたちの前で実践するときのイメージを持ち、雰囲気を作りながら楽しさを共有する。さらに、 個人での実技演習、グループでの実技演習、地域向けの発表など、多様な実践的学習形態により学修を深める。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

手遊びの実践およびシアターの実演を行う過程で、教員が批評・助言することでフィードバックを行う。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	○
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	△
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	○
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	オリエンテーション、保育現場体験の概要、保育教材について	奥・熊上
第 2 回	手遊び:季節・生活の手遊び①	奥・熊上
第 3 回	手遊び:季節・生活の手遊び②	奥・熊上
第 4 回	手遊び:季節・生活の手遊び③	奥・熊上
第 5 回	シアター:スケッチブックシアターの製作	奥・熊上
第 6 回	シアター:スケッチブックシアターの演じ方	奥・熊上
第 7 回	シアター:スケッチブックシアターの指導案	奥・熊上
第 8 回	シアター:スケッチブックシアターの発表	奥・熊上
第 9 回	保育現場体験に向けての説明	奥・熊上
第 10 回	保育現場体験に向けての準備	奥・熊上
第 11 回	保育現場体験に向けての練習	奥・熊上
第 12 回	保育現場体験①	奥・熊上
第 13 回	保育現場体験②	奥・熊上
第 14 回	保育現場体験③	奥・熊上
第 15 回	保育現場体験の振り返り	奥・熊上
定期試験	レポート試験	奥・熊上

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(40%)＋授業内提出物(40%)＋授業態度(20%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
特になし			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド　改訂版	小櫃智子	わかば社	978-4-907270-43-8

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

授業内で実演した保育技能の予習及び復習をすること。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・課題を含めて 30～60 分程度が望ましい。

【備考】

必要な材料は各自で購入する。
実習とも関連の高い授業科目であることから、意欲的、積極的な取り組みを期待する。

専門科目

科 目 名	保育技能Ⅱ*	担当者名	前徳明子* 栗本浩二	
ナンバリングコード	24402			
必選・単位	必修 1 単位	担当形態	オムニバス・複数	
授業方法	実技	開講年次・時期	2年制コース	1 年後期
			長期履修生	1 年後期

【授業の概要】

1年前期の授業科目「保育技能Ⅰ」で学んだ学修内容を基礎に、後期ではさらに保育技能の技術習得と向上にむけて発展的な学修を行う。保育現場の保育活動で必要となる保育技能を身につけ、保育実践を豊かに展開できるようにするため、いくつかの重要な保育技能についてさらに深く学習する。その際、定着し習熟するまでに保育技能を豊かに深く修得することが重要である。それとともに、在学中に行う保育実習や教育実習にも役立つ学習内容とする。

【授業の到達目標】

1 保育に関する総合的な学習を基盤として、実践能力を開発するため、豊かで多様な保育技能を修得する。

2 「絵本」「紙芝居」「おりがみ」について学習し、保育現場における実践的な活用方法を身につける。

3 多様な保育技能を修得することにより、保育現場で子どもの成長・発達にとって意義深い環境構成能力を発揮できる実践力のある保育者、幼児教育者となることを目指す。

【授業方法】

学習課題ごとに実技と製作の授業を行う。これに合わせて、実務家教員が実技学習の前後や途中で、保育技能、製作についての具体的な説明やその実践の仕方、そのポイントなどについて講義を行うこともある。また、具体的な保育技能を学生が実際に体験し、子どもたちの前で実践するときのイメージを持ち、雰囲気を作りながら楽しさを共有する。さらに、 個人での実技演習、グループでの実技演習、地域向けの発表など、多様な実践的学習形態により学修を深める。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	―	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

学習課題ごとに実技を中心とした授業を行う。これに合わせて、実技学習の前後や途中で、保育技能について の具体的な説明やその実践の仕方、そのポイントなどについて講義を行うこともある。また、具体的な保育技能を 学ぶ。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	○
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	△
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	◎
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	○
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	○

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	絵本:読み聞かせの基本、乳児の読み聞かせ	前徳
第 2 回	絵本:幼児の読み聞かせ	前徳
第 3 回	絵本:実技発表	前徳
第 4 回	赤ちゃん絵本と紙芝居の基礎	とよた・前徳
第 5 回	紙芝居:観客参加型の基礎	前徳
第 6 回	紙芝居:物語完結型紙芝居の基礎	前徳
第 7 回	紙芝居:実技発表	前徳
第 8 回	おりがみ:おりがみを使った壁面装飾①	栗本
第 9 回	おりがみ:おりがみを使った壁面装飾②	栗本
第 10 回	おりがみ:おりがみを使った壁面装飾③	栗本
第 11 回	製作帳の作成① 春	栗本
第 12 回	製作帳の作成② 夏	栗本
第 13 回	製作帳の作成③ 秋	栗本
第 14 回	製作帳の作成④ 冬	栗本
第 15 回	保育技能発表会	栗本(前徳)
定期試験	レポート試験	栗本(前徳)

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(40%)＋授業内実演など(30%)＋課題提出(30%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
保育でつかえる！子どもとつくるおりがみ	津留見 裕子	ナツメ社	978-4-8163-4840-2

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

授業計画にあるテーマや授業内で指示のある予習及び復習をかかさないこと。

標準学修時間の目安:標準学修時間の目安:予習・復習・宿題を含めて 60 分程度が望ましい

【備考】

実習とも関連の高い授業科目であることから、意欲的、積極的な取り組みを期待する。

専門科目

科 目 名	保育・教職実践演習（幼稚園）*	担当者名	益田　かな子*	
ナンバリングコード	25001			
必選・単位	選択2単位 （保育士・幼2免必修）	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年後期
			長期履修生	3年後期

【授業の概要】

本学で学んだ知識や技術、各実習等で得られた経験や実践力の更なる統合を図り、教職に関する学修の集大成をなす科目である。これまでの学修を自分なりに整理し、課題を確認し直し、到達目標を定め行動に移すといったプロセスを経験する。その経験を通し、現場で直面する問題や自身が成長していくため課題を乗り越えるための土台を築いていく。また、現時点でのめざすべき保育者像を明らかにする。

【授業の到達目標】

1　本学の学修によって学生が身につけた資質能力が、保育者、幼児教育者として最小限必要な資質能力として有機的に結合され形成されているかについて、本学が想定する保育者像や教員像、到達目標に照らして最終的に確認する。

2　将来、保育者、幼児教育者になる上で、自己にとって何が課題であるのか自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図る。

3　自分についてのあるべき保育者像、幼児教育者像を確立する。

【授業方法】

授業方法の基本は演習である。教職カルテで自己評価を行ったものをもとにして、これまでの学びを振り返りながら、グループ活動を通して、総合的な知識や技能を身につけていく。実現するための取り組みや練習は自主的に行うものとする。常に自分の課題を確認し直し、課題に取り組んでいくための計画を立て、把握しながら進めていく中で、総合的な力に繋げる。具体的に授業内では、現役の保育者などに現場の話を聞くことや、事例をもとに、ロールプレイや発表を行うなどして、学んでいく。グループワークの発表や自己課題のまとめ発表ではパワーポイントや掲示物等を用いて行い、実践的な内容についても対応できるように準備をする。発表内容について、保育施設及び幼稚園での現場経験のある実務家教員が、保育、幼児教育現場における事例を含めて助言等をしていく。予習及び復習は、授業内発表に向けた事前事後準備や学習への取り組みとする。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	—	—	

【課題に対するフィードバックの方法】

自己課題への取り組みについて、まとめ発表ができるように助言を行う。またリアクションペーパー等の提出物より授業内容の理解度をはかり、質問内容等についても次回の授業に反映できるようにする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	△
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	△
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	◎

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	授業概要説明・教職カルテの振り返り・自己課題の探求	益田
第 2 回	自己課題の設定	益田
第 3 回	幼児教育分野を深める	益田
第 4 回	保育分野を深める	益田
第 5 回	社会福祉分野を深める	益田
第 6 回	保育者の仕事について考える	益田
第 7 回	グループワーク(1)　基本情報の決定(園名・園舎・園庭・園の特色など	益田
第 8 回	グループワーク(2)　設定園の教育(保育)課程	益田
第 9 回	グループワーク(3)　プレゼンテーション練習	益田
第 10 回	グループワーク発表(1)　前半	益田
第 11 回	グループワーク発表(2)　後半	益田
第 12 回	自己課題の整理と課題への取り組み	益田
第 13 回	自己課題のまとめ発表(1)　前半	益田
第 14 回	自己課題のまとめ発表(2)　後半	益田
第 15 回	自己課題に向けての展望とまとめ	益田
定期試験	レポート試験	益田

【成績評価の方法・基準】

レポート試験(40%)＋授業内提出物(20%)＋発表内容(30%)＋授業の積極性(10%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン　令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

各自、苦手な分野を把握して自主学習を行い、自己課題の発表内容をまとめておくこと。
グループワークでの取り組みでは、授業毎ごとに進捗状況を共有しながら、発表に向けた準備をすすめておくこと。

標準学修時間の目安:自己課題に向けての取り組みとして、毎日 30～60 分程度が望ましい。

【備考】

課題を最後までやり遂げる意欲と積極性をもつこと。
授業の進捗状況によって、授業内容が前後する場合があります。

専門科目

科 目 名	保育実習指導Ⅰ	担当者名	奥恵　熊上藤子
ナンバリングコード	26001		
必選・単位	選択1単位（保育士必修）	担当形態	オムニバス・複数
授業方法	演習	開講年次・時期	1年後期

【授業の概要】

保育実習の意義・目的を理解する。実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。また、プライバシーの保護と守秘義務を理解する。さらに実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容を具体的に理解する。そして、実習後の手続き、自己評価や課題を明確にしていく流れを理解する。

【授業の到達目標】

1　保育実習の意義・目的を理解する。
2　実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3　実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等を理解する。
4　実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容を具体的に理解する。
5　実習事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題と目標を明確にする。

【授業方法】

テキスト、DVD 等を使用し授業を進める。実習現場を想定しながら、実習日誌の書き方の演習や、部分実習指導案の作成を行う。すでに教育実習を行った学生から感想や困った点などを聞き、次の実習での課題を見出す。指導案をもとに、具体的なイメージを構築しながら、実習にむけた準備を行う。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	―	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

各課題に対して、教員がコメントや添削し返却をすることをもってフィードバックとする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	オリエンテーション　保育実習とは/保育実習の意義と目的	奥・熊上
第 2 回	実習までの流れと留意事項/保育所における保育士の仕事内容と子どもの生活①	奥・熊上
第 3 回	保育所における保育士の仕事内容と子どもの生活②	奥・熊上
第 4 回	簡単な保育実技の実践を考える①	奥・熊上
第 5 回	簡単な保育実技の実践を考える②	奥・熊上
第 6 回	実習に向けての準備①(個人票・出勤簿など)	奥・熊上
第 7 回	実習に向けての準備②(目的課題を中心にして)	奥・熊上
第 8 回	実習に向けての準備③(オリエンテーションにむけて)	奥・熊上
第 9 回	実習に向けての準備④(実習日誌を中心にして)	奥・熊上
第 10 回	実習に向けての準備⑤(実習日誌を中心にして)	奥・熊上
第 11 回	実習に向けての準備⑥(指導案を中心にして)	奥・熊上
第 12 回	実習に向けての準備⑦(指導案を中心にして)	奥・熊上
第 13 回	実習直前準備、実習後の流れの確認	奥・熊上
第 14 回	保育実習Ⅰ実習直前指導	奥・熊上
第 15 回	保育実習Ⅰ実習体験報告会	奥・熊上
定期試験	レポート試験	奥・熊上

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋提出物(30%)＋授業態度(40%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド　改訂版	小櫃智子	わかば社	978-4-907270-41-4
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド　改訂版	小櫃智子	わかば社	978-4-907270-43-8

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
実習ガイドブック	埼玉東萌短期大学		

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

保育者として、子ども、保護者の前に立つことを想定し、日常から態度や言動、身だしなみに対して意識すること。課題等授業内で完成しなかった場合は各自授業外の時間を使って作成し、提出すること。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・課題などを含めて、30～60 分程度が望ましい。

【備考】

授業の掲示による情報は確実に把握し、実習に必要な書類等は提出期限を必ず守ること。保育実習では、出勤時刻や提出期限について、厳格さを要求されるので、授業もこれに準じる。

専門科目

科 目 名	保育実習Ⅰ	担当者名	奥恵 熊上藤子 （実習訪問担当） 前徳明子 真砂雄一 浅香勉 栗本浩二 八田清果 浅野路子 蓮見絵里 益田かな子
ナンバリングコード	26005		
必選・単位	選択2単位（保育士必修）	担当形態	複数
授業方法	実習	開講年次・時期	1年後期

【授業の概要】

保育所の役割や機能を具体的に理解する。また、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。これまで学んできた授業科目の内容を踏まえて、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。さらに、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に学習する。これらを通して、保育士の業務内容や倫理について理解する。

【授業の到達目標】

1 保育所の役割や機能を具体的に理解する。
2 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3 既習の授業科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5 保育士の業務内容や職業倫理について理解する。

【授業方法】

・本学で指定した保育所で実習を行い、現場の保育実践を体験的に学ぶ。
・実習中は、実習先となった保育所で指導を受け、保育所の機能や保育士の仕事内容への理解を深める。
・本学での学びを、部分実習を通して、子どもの前で実演する。
・本学での学びを、観察実習および実習日誌の記述を通して、理解を深め、定着を図る。
・実習から学んだことをもとに、今後の課題を見出し、学びを深める。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	―	―	―	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

保育実習指導Ⅰでの振り返りを通した指導や実習後、実習日誌や評価表における実習先の保育士のコメント・評価、それを受けての訪問担当教員による個別指導をもってフィードバックとする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

実習の内容	担当者名
≪実習開始前≫ 事前学習／オリエンテーション (1)保育所や認定こども園の役割や現状についての知識を深める (2)保育所や認定こども園の意義や動機・目的を明確化する ①実習先(オリエンテーションの日程を含め)の確認 ②マナーなどの実習に関する基本的な事項の確認 ③実習課題の設定、実習に関する準備等を行う	授業担当者全員
≪実習期間中≫ 1.実施時期　2年制コース:1 年次 2 月／長期履修生:1 年次 2 月 2.内容 (1)見学・観察により、以下のことを理解する ①施設概要 ②役割と機能 ③組織 ④環境構成 ⑤業務内容 ⑥子どもの生活や遊び ⑦乳幼児の発達の姿 ⑧実習日誌の作成 ⑨省察と自己評価の方法 等 (2)参加・部分実習により、以下のことを理解する ①指導計画の立案 ②保育の方法と技術 ③乳児保育 ④統合保育 ⑤安全及び疾病予防 ⑥家庭や地域との連携 等 3.2 を通して (1)保育士の職務内容と職業倫理を理解する (2)自らの学びについて専門職として働く際の検証の機会とともに、自己の学習・資質能力を検証・点検することでさらに今後の学修に役立てるようにする	授業担当者全員
≪実習終了後≫ (1)実習の実施後、保育士としての資質(知識、態度、技能等)の修得の可否について確認する (2)実習体験を振り返り、報告会等を通して、実習で得た事項について確認する	授業担当者全員

【成績評価の方法・基準】

実習先の評価(70%)＋実習日誌(20%)＋実習の総括点(10%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド 改訂版	小櫃智子	わかば社	978-4-907270-41-4
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド 改訂版	小櫃智子	わかば社	978-4-907270-43-8

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
実習ガイドブック	本学発行		

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

指導案や保育教材等を含め、実習に向けた準備をする。また保育ボランティアなどを進んで行うことが望ましい。実習日誌を毎日記入するための時間を要する。

標準学修時間の目安:各自、実習の状況により異なるが、1 日の活動あたり 120 分～240 分程度が目安。

【備考】

・実習中の遅刻・欠席は厳禁である。
・事務的な連絡事項や健康管理は確実に行うこと。
・事前準備を十分に行い、積極的に実習に取り組むこと。

専門科目

科 目 名	保育実習指導Ⅱ	担当者名	八田清果　浅野路子
ナンバリングコード	26002		
必選・単位	選択1単位（保育士必修）	担当形態	オムニバス・複数
授業方法	演習	開講年次・時期	2年前期

【授業の概要】

保育実習の意義・目的を理解する。実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。また、施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務を理解する。さらに実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容を具体的に理解する。そして、実習事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、課題と目標を明確にする。

【授業の到達目標】

1　保育実習の意義・目的を理解する。
2　実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3　実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務を理解する。
4　実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容を具体的に理解する。
5　実習事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題と目標を明確にする。

【授業方法】

スライド、テキスト、資料、DVD 等を用いて、実習施設の理解と実習課題の明確化に取り組み、施設保育士が実際に広く担う社会福祉施設の普遍的な機能と位置する地域における役割理解に取り組む。方法として、個別学習・課題レポート、配属施設種別によるグループ学修を行う。また、映像等を用いて、日誌の書き方の演習を行う。加えて、実習に必要とされる守秘義務、利用児・者、実習生を含めた権利擁護の施設を学ぶ。実習後には実習体験を通じて学んだ内容についてパワーポイント等を用いてまとめ、発表を行う。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	―	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回リアクションペーパーを提出してもらい、翌週までに担当教員が確認し、できるだけコメントもする。また、実習課題等の課題は提出をしてもらい、担当教員が内容を確認し、個別指導を行う。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	オリエンテーション／施設実習の意義と目的／実習に向けての準備①（個人票・誓約書等の作成）	八田・浅野
第 2 回	実習にむけての準備②（実習先施設調査）	八田・浅野
第 3 回	実習に向けての準備③目的と課題の設定と作成	八田・浅野
第 4 回	実習に向けての準備④実習日誌の書き方（概要等の書き方）	八田・浅野
第 5 回	実習に向けての準備⑤実習日誌（1 日のスケジュールの書き方）	八田・浅野
第 6 回	実習に向けての準備⑥実習日誌(記録、分析・考察の書き方	八田・浅野
第 7 回	実習に向けての準備⑦施設での部分実習について	八田・浅野
第 8 回	保育実習Ⅱ実習直前指導	八田・浅野
第 9 回	実習の振り返り①―実習の総括としての実習報告書の作成等	八田・浅野
第 10 回	実習の振り返り②―発表の準備（1）―	八田・浅野
第 11 回	実習の振り返り③―発表の準備（2）―	八田・浅野
第 12 回	実習の振り返り④―発表の準備（3）―	八田・浅野
第 13 回	保育実習Ⅱ実習体験報告会―発表（1）―	八田・浅野
第 14 回	保育実習Ⅱ実習体験報告会―発表（2）―	八田・浅野
第 15 回	保育実習Ⅱ実習体験報告会―発表（3）―	八田・浅野
定期試験	レポート試験	八田・浅野

【成績評価の方法・基準】

レポート試験(30%)＋提出物(30%)＋授業態度(40%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
施設実習パーフェクトガイド　改訂版	守巧／小櫃智子	わかば社	978-4-907270-42-1

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド　改訂版	小櫃智子	わかば社	978-4-907270-43-8
実習ガイドブック	本学発行		

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

・保育者・支援者として、実習生として、ふさわしい態度や言動、身だしなみに対して日常から意識をしておくこと。
・施設や施設利用児・者への理解が深まるよう、自ら調べたり、学習したりしておくこと。
・課題等授業内で完成しなかった場合は各自授業外の時間を使って作成し、提出すること。

標準学修時間の目安：予習・復習・宿題等含めて 1 回の授業あたり 60 分程度が望ましい。

【備考】

授業の掲示による情報は確実に把握し、実習に必要な書類等は提出期限を必ず守ること。必要書類が期日までに揃うことが実習に参加する条件となる。

専門科目科 目名	保育実習Ⅱ	担当者名	八田清果　浅野路子 （実習訪問担当） 前徳明子　真砂雄一　浅香勉　栗本浩二 奥恵　蓮見絵里　熊上藤子　益田かな子
ナンバリングコード	26006		
必選・単位	選択2単位（保育士必修）	担当形態	複数
授業方法	実習	開講年次・時期	2年前期

【授業の概要】

児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。また、観察や利用児・者との関わりを通して、施設を利用する子ども等への理解を深め、個々の状況に応じた援助とかかわりを考え、施設における子ども（大人）の生活と環境を理解する。さらに、支援計画の理解と活用、記録に基づく省察と自己評価等について具体的に学習する。これらを通して、施設保育における保育士の業務内容や職業倫理を理解する。

【授業の到達目標】

1　児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。

2　観察や利用児・者との関わりを通して、施設を利用する子ども等への理解を深める。

3　既習の授業科目の内容を踏まえ、利用児・者への支援及び保護者への支援について総合的に理解する。

4　支援計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。

5　施設で働く保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

【授業方法】

1. 実習時期:2 年次 5 月中旬
2. 実習で学びたい内容:(1)見学・観察により、施設の①概要②特徴③社会的役割④施設職員・保育士と利用児・者との関係や役割⑤業務内容を理解する。また、(2)参加・部分実習により、①利用児・者の心理②利用児・者の行動③利用児・者の家庭環境④施設利用における状態等の理解を深める。
3. 2 を通して、(1)人間的権利や人格の尊厳性を深く理解する(2)自らの学びについて専門職として働く際の検証の機会とともに、自己の学習・資質能力を検証・点検することでさらに今後の学修に役立てるようにする。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	―	―	―	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

保育実習指導Ⅱでの振り返りを通した指導や実習後、実習日誌や評価表における実習先指導者のコメント・評価、それを受けての訪問担当教員による個別指導をもってフィードバックとする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	○
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	△
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

実習の内容	担当者名
≪実習開始前≫ 事前学習／オリエンテーション (1)実習施設の役割や現状についての知識を深める (2)施設実習の意義や動機・目的を明確化する ①実習先(オリエンテーションの日程含め)の確認 ②マナーなどの実習に関する基本的な事項の確認 ③実習課題の設定、実習に関する準備等を行う	授業担当者全員
≪実習期間中≫ 1. 実施時期:2 年次 5 月 2. 内容 (1)見学・観察により、以下のことを理解する ①施設概要 ②特徴 ③社会的役割 ④施設職員・保育士と利用児・者との関係や役割 ⑤業務内容 等	授業担当者全員
≪実習終了後≫ (1)実習の実施後、保育士としての必要な資質(知識、態度、技能等)の修得について確認する (2)実習体験の振り返り、報告会等を通して、実習で得た事項について確認する	授業担当者全員

【成績評価の方法・基準】

実習先の評価(70%)＋実習日誌(20%)＋実習の総括点(10%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
施設実習パーフェクトガイド　改訂版	守巧／小櫃智子	わかば社	978-4-907270-42-1
実習ガイドブック	本学発行		

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド　改訂版	小櫃智子	わかば社	978-4-907270-43-8

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

児童福祉施設は、12 種類ある。施設実習は、選択を入れて 2 回しかないので、進んでボランティア、見学等により各施設に関する学習に自ら積極的に取り組むこと。テキスト等を参考に、支援方法について事前に学習しておくこと。毎日の実習後に日誌を書き、原則翌日には提出できるようにする。

標準学修時間の目安:各自の実習状況により異なる(日誌作成や指導案等立案時間を含めて)

【備考】

・生活の中に入らせて頂くことになるので利用児・者の方に対し、誠実な失礼のない態度で接すること。
・受身的態度ではなく、事前学習を十分に行い、明確な課題、問題意識を持って実習に臨むこと。
・実習前、実習中の健康管理に留意し、十分な体調で実習に臨むこと。
・実習中の無断遅刻・欠席は厳禁である。事務的な連絡事項は確実に行うこと。
・提出物は期限までに提出すること。

専門科目

科 目 名	保育実習指導Ⅲ	担当者名	奥恵　熊上藤子	
ナンバリングコード	26003			
必選・単位	選択1単位（保育士選択必修）	担当形態	オムニバス・複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年後期
			長期履修生	3年後期

【授業の概要】

保育実習の意義・目的を理解し、保育所保育について総合的に理解する。実習や既習の授業の内容やその関連性を踏まえ、保育の実力を習得する。保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。また、保育士の専門性と職業倫理について理解する。そして実習事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

【授業の到達目標】

1　保育所における保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。

2　実習や既習の授業科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。

3　保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。

4　保育士の専門性と職業倫理について理解する。

5　実習事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題と目標を明確にする。

【授業方法】

・保育実習に向けて、書類の準備や指導実習で使用する指導案、実習日誌の記入の仕方を再度、確認し、確実なものとする。
・実習後は、今までの実習を踏まえて、保育所で仕事を行う際に必要な知識、技術の再確認を行う。
・他の学生の実習体験を聞き、自身の実習体験と照らし合わせる。
・すべての実習を通して、自分の保育観を確認し、就職までに、現場実践に必要な知識、技術を習熟する。
・授業時間外学習として、指導案の作成、実際に実習で使える教材の作成を行う。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	―	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

各課題に対して、教員がコメントや添削し返却をすることをもってフィードバックとする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

保育実習指導Ⅰ

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	実習に関するガイダンス、実習個人票・出勤簿作成	奥・熊上
第 2 回	保育所の整理、実習の目的と課題①	奥・熊上
第 3 回	実習の目的と課題②	奥・熊上
第 4 回	実習日誌理解①	奥・熊上
第 5 回	実習日誌理解②	奥・熊上
第 6 回	実習日誌理解③	奥・熊上
第 7 回	保育実習Ⅲ実習直前指導	奥・熊上
第 8 回	指導案について①	奥・熊上
第 9 回	指導案について②	奥・熊上
第 10 回	指導案について③	奥・熊上
第 11 回	指導案について④、実習前の最終確認	奥・熊上
第 12 回	実習振り返りと子ども理解①	奥・熊上
第 13 回	実習振り返りと子ども理解②	奥・熊上
第 14 回	実習体験全体報告会	奥・熊上
第 15 回	実習の総括、自己評価と課題の明確化	奥・熊上
定期試験	レポート試験	奥・熊上

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(30%)＋提出物(20%)＋授業態度(50%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド　改訂版	小櫃　智子	わかば社	978-4-907270-41-4
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド　改訂版	小櫃　智子	わかば社	978-4-907270-43-8

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
実習ガイドブック	本学発行		

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

指導案の作成、実際に実習で使える教材の作成。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・課題などを含めて、30～60 分程度が望ましい。

【備考】

授業の状況によって、授業計画の順番の変更、日程が早まることもあるので、掲示板を確認しておくこと。

専門科目

科 目 名	保育実習Ⅲ	担当者名	奥恵　熊上藤子 （実習訪問担当） 前徳明子　真砂雄一　浅香勉　栗本浩二 八田清果　浅野路子　蓮見絵里 益田かな子	
ナンバリングコード	26007			
必選・単位	選択2単位（保育士選択必修）	担当形態	複数	
授業方法	実習	開講年次・時期	2年制コース	2年後期
			長期履修生	3年後期

【授業の概要】

本科目は、保育所での 2 回目の実習を通じて、保育実習Ⅰにおいて見出された課題をさらに高め、保育現場で求められる実践力を高めることを目的とする。保育所保育士として求められる指導技術や、障害児保育・地域子育て支援などの多様なニーズへの支援方法を学ぶ。指導実習指導案の作成と実践を通して、指導計画や職員間の連携などについても理解する。

【授業の到達目標】

1　保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。
2　子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。
3　既習の授業科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。
4　保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。
5　実習の総仕上げとして責任実習を行い、保育の本格的な実践を体験し、学習する。
6　保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。
7　実習における自己の課題を明確化する。

【授業方法】

・本学で指定した保育所において、90 時間以上実習を行い(土日・祝日については実習先の指示に従う)、現場の保育実践を体験的に学ぶ。
・実習中は、実習先となった保育所での方針に沿った指導を受け、保育所の機能や保育士の仕事内容への理解を深める。
・本学で学んだ保育技能を、指導実習(部分実習を含む)を通して、子どもの前で実演する。
・本学での学びを、観察・参加実習および実習日誌の記述を通し、理解を深め、定着を図る。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	―	―	―	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

保育実習指導Ⅰでの振り返りを通した指導や実習後、実習日誌や評価表における実習先の保育士のコメント・評価、それを受けての訪問担当教員による個別指導をもってフィードバックとする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

保育実習Ⅰ

【授業計画】

実習の内容	担当者名
≪実習開始前≫ 事前学習／オリエンテーション (1)保育所や認定こども園の役割や現状についての知識を深める (2)保育所や認定こども園の意義や動機・目的を明確化する ①実習先(オリエンテーションの日程を含め)の確認 ②マナーなどの実習に関する基本的な事項の確認 ③実習課題の設定、実習に関する準備等を行う	授業担当者全員
≪実習期間中≫ 1.実施時期:2 年次 11 月／長期履修生:3 年次 11 月 2.内容 (1)見学・観察により、以下のことを理解する ①施設概要 ②役割と機能 ③組織 ④環境構成 ⑤業務内容 ⑥子どもの生活や遊び ⑦乳幼児の発達の姿 ⑧実習日誌の作成 ⑨省察と自己評価の方法 等 (2)参加・指導実習により、以下のことを理解する ①指導計画の立案 ②保育の方法と技術 ③乳児保育 ④統合保育 ⑤安全及び疾病予防 ⑥家庭や地域との連携 等 3.2 を通して (1)保育士の職務や社会的使命について理解を深める (2)職業倫理を具体的に学び理解を深める	授業担当者全員
≪実習終了後≫ (1)実習体験を振り返り、意見交換に取り組む (2)保育士に求められる資質・能力に照らし合わせて、自己課題を明確化する	授業担当者全員

【成績評価の方法・基準】

実習先の評価(70%)＋実習日誌(20%)＋実習の総括点(10%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド 改訂版	小櫃 智子	わかば社	978-4-907270-41-4
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド 改訂版	小櫃 智子	わかば社	978-4-907270-43-8

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
実習ガイドブック	本学発行		

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

指導案や保育教材等を含め、実習に向けた準備をする。また保育ボランティアなどを進んで行うことが望ましい。
実習日誌を毎日記入するための時間を要する。

標準学修時間の目安:各自、実習の状況により異なる。

【備考】

・実習中の遅刻・欠席は厳禁である。
・事務的な連絡事項や健康管理は確実に行うこと。
・事前準備を十分に行い、積極的に実習に取り組むこと。

専門科目

科 目 名	保育実習指導Ⅳ	担当者名	八田清果　浅野路子	
ナンバリングコード	26004			
必選・単位	選択1単位（保育士選択必修）	担当形態	オムニバス・複数	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年後期
			長期履修生	3年後期

【授業の概要】

施設での保育実習の意義・目的を理解し、施設保育について総合的に理解する。実習や既習学習の授業の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。そして、実習事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

【授業の到達目標】

1　施設における保育実習の意義・目的を理解し、施設保育について総合的に理解する。

2　実習や既習の授業科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。

3　保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。

4　保育士の専門性と職業倫理について理解する。

5　実習事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い保育に対する課題・認識を明らかにする。

【授業方法】

1. DVD、スライド、テキスト、資料等を用いて 施設保育士が実際に広く担う、社会福祉施設の普遍的な機能と位置する地域における役割が理解及び、守秘義務、利用児・者、実習生も含めた権利擁護の姿勢を学ぶ。
2. 実習先施設の理解を深めるため、①各自の個別学習・レポート課題 ②配属施設種毎によるグループ学習を行う。また、併せて、各自の実習課題の明確化にも努める。
3. 実習記録の書き方について、事例や演習を通して学ぶ。
4. 実習後には実習体験を通して学んだ内容についてパワーポイントにまとめ、発表を併せて行う。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	―	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回リアクションペーパーを提出してもらい、翌週までに担当教員が確認し、できるだけコメントもする。また、実習課題等の課題は提出をしてもらい、担当教員が内容を確認し、個別指導を行う。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

保育実習指導Ⅱ

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	オリエンテーション／保育実習Ⅳの意義・目的、内容・方法の理解／実習に向けた準備①概要等の記入	八田・浅野
第 2 回	実習に向けた準備②課題の明確化	八田・浅野
第 3 回	実習に向けた準備③実習記録の書き方(1)日々の流れ、記録、分析・考察	八田・浅野
第 4 回	実習に向けた準備④実習記録の書き方(2)エピソード記録	八田・浅野
第 5 回	実習に向けた準備⑤部分・責任実習に向けた準備	八田・浅野
第 6 回	実習直前指導	八田・浅野
第 7 回	実習の振り返り①―発表準備(内容検討)/報告書の作成―	八田・浅野
第 8 回	実習の振り返り②―発表準備(資料の作成等)―	八田・浅野
第 9 回	実習の振り返り③―発表準備(資料の作成等)―	八田・浅野
第 10 回	実習体験報告会	八田・浅野
第 11 回	実習の振り返り④―発表―	八田・浅野
第 12 回	実習の振り返り⑤―発表―	八田・浅野
第 13 回	実習の振り返り⑥―自己評価等各自の振り返り―	八田・浅野
第 14 回	実習の振り返り⑦―エピソード記録のまとめ―	八田・浅野
第 15 回	施設での勤務に向けての心構え	八田・浅野
定期試験	レポート試験	八田・浅野

【成績評価の方法・基準】

レポート試験(30%)＋提出物(30%)＋授業態度(40%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
施設実習パーフェクトガイド　改訂版	守巧／小櫃智子	わかば社	978-4-907270-42-1

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド　改訂版	小櫃智子	わかば社	978-4-907270-43-8
実習ガイドブック	本学発行		

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

・保育者・支援者として、実習生として、ふさわしい態度や言動、身だしなみに対して日常から意識をしておくこと。
・施設や施設利用児・者への理解が深まるよう、自ら調べたり、学習したりしておくこと。
・課題等授業内で完成しなかった場合は各自授業外の時間を使って作成し、提出すること。

標準学修時間の目安:予習・復習・宿題等含めて 1 回の授業あたり 60 分程度が望ましい。

【備考】

授業の掲示による情報は確実に把握し、実習に必要な書類等は提出期限を必ず守ること。実習では、出勤時刻や提出期限について、厳格さを要求されるので、授業内でもそれに準じて、授業ごとに厳しく出席や提出を求める。この基準を超えることが実習参加の条件となる

専門科目

科 目 名	保育実習Ⅳ	担当者名	八田清果　浅野路子 （実習訪問担当） 前徳明子　真砂雄一　浅香勉 栗本浩二　奥恵　蓮見絵里 熊上藤子　益田かな子	
ナンバリングコード	26008			
必選・単位	選択2単位（保育士選択必修）	担当形態	複数	
授業方法	実習	開講年次・時期	2年制コース	2年後期
			長期履修生	3年後期

【授業の概要】

児童福祉施設等の役割や機能を実践を通して理解する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子どもの家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解を深めるとともに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。具体的な実践に結び付けて、保育士の業務内容や職業倫理を理解する。これらから、実習における自己の課題を理解する。

【授業の到達目標】

1　既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して理解する。

2　家庭と地域の生活実態にふれて、子どもの家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解を深めるとともに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。

3　保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。

4　実習における自己の課題を理解する。

【授業方法】

1. 実習時期:2 年次 11 月中旬
2. 実習で学びたい内容:(1)見学・観察により、施設の①概要②特徴③社会的役割④施設職員・保育士と利用児・者との関係や役割⑤業務内容を理解する。また、(2)参加・部分実習により、①利用児・者の心理②利用児・者の行動③家庭環境と利用児・者のアセスメント、(4)アセスメントに基づく個別支援の方法の理解。
3. 2 を通して、(1)施設保育士に求められる資質・能力・技術・職業倫理の修得、(2)施設に対する社会的ニーズ、サービスのあり方への理解を深めてほしい。
4. 実習終了後、(1)実習体験の振り返り、意見交換に取り組む、(2)理論と突き合わせ、施設観や養護観の確立をめざす。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	―	―	―	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

保育実習指導Ⅳでの振り返りを通した指導や実習後、実習日誌や評価表における実習先指導者のコメント・評価、それを受けての訪問担当教員による個別指導をもってフィードバックとする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	○
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	○
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	△
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	

【先行履修科目】

保育実習Ⅱ

【授業計画】

実習の内容	担当者名
≪実習開始前≫ 事前学習／オリエンテーション (1)実習施設の役割や現状についての知識を深める (2)施設実習の意義や動機・目的を明確化する ①実習先(オリエンテーションの日程含め)の確認 ②マナーなどの実習に関する基本的な事項の確認 ③実習課題の設定、実習に関する準備等を行う	授業担当者全員
≪実習期間中≫ 1.内容 (1)見学・観察により、以下のことを理解する ①施設概要 ②特徴 ③社会的役割 ④施設職員・保育士と利用児・者との関係や役割 ⑤業務内容 等 (2)参加・責任実習(部分実習含む)により、以下のことを理解する ①利用児・者の心理 ②利用児・者の行動 ③家庭環境と利用児・者のアセスメント ④アセスメントに基づく個別支援の方法 2. 実習を通して習得すること (1)施設保育士として求められる資質・能力・技術・職業倫理の修得 (2)施設に対する社会的ニーズ、サービスのあり方への理解	授業担当者全員
≪実習終了後≫ (1)実習体験を振り返り、意見交換に取り組む (2)理論と突き合わせ、施設観や養護観の確立をめざす (3)施設保育士に必要な知識、態度、価値を考察し、その修得をめざす	授業担当者全員

【成績評価の方法・基準】

実習先の評価(70%)＋実習日誌(20%)＋実習の総括点(10%)＝合計(100%

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
施設実習パーフェクトガイド 改訂版	守 巧 小櫃 智子	わかば社	978-4-907270-42-1
実習ガイドブック	本学発行		

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド 改訂版	小櫃 智子	わかば社	978-4-907270-43-8

【授業時間外学習（予習・復習・準備学習等）】

指導案や保育教材等を含め、実習に向けた準備をする。またボランティアなどを進んで行うことが望ましい。実習日誌を毎日記入するための時間を要する。

標準学修時間の目安:各自、実習状況により異なる（日誌作成、指導案等作成時間を含む）

【備考】

・実習中の無断遅刻・欠席は厳禁である。事務的な連絡事項は確実に行うこと。
・提出物は期限までに提出すること。
・生活の中に入らせて頂くことになるので利用児・者の方に対し、誠実な失礼のない態度で接すること。
・受身的態度ではなく、事前学習を十分に行い、明確な課題、問題意識を持って実習に臨むこと。
・実習前、実習中の健康管理に留意し、十分な体調で実習に臨むこと

専門科目

科 目 名	教育実習(幼稚園) 事前事後指導Ⅰ*	担当者名	前徳明子* 益田かな子* (実習訪問担当) 真砂雄一 浅香勉 栗本浩二 奥恵* 八田清果 浅野路子 蓮見絵里 熊上藤子	
ナンバリングコード	26009			
必選・単位	選択1単位(幼2免必修)	担当形態	オムニバス・複数	
授業方法	実習	開講年次・時期	2年制コース	1年後期
			長期履修生	2年後期

【授業の概要】

教育実習の実施にあたり、事前にはなぜ実習が必要なのか、幼稚園教育が目指していることなどを学び、また、実習に向けての心構えや諸注意を行う。そして、実習日誌や指導案の書き方の基本を学ぶことで、幼児理解や幼稚園教諭の仕事を把握することに向けての観察のポイントをおさえる。事後には、しっかりと実習中の振り返りを行い一人一人と面談を行っていく中で、今後、後半の実習を行っていく上での課題を明確にし、幼児教育者に必要な知識や技能を身につけていく。

教育実習は、学生自身が生涯の職業選択を行う際の重要な契機であることを念頭において、事前事後指導を行っていく。

【授業の到達目標】

1 幼稚園の現場実習に臨むための総合的な準備学習と、実習を終えての総括学習を行い、実習を円滑に行い、意義深いものとすることができるようにする。

2 実習日誌の作成、部分実習を行うための指導案作成と、それに基づく実践ができるようになる。

3 実習後の課題を明確にし、保育者に必要な知識や方法と技術をさらに深めていく。

4 責任ある立場で子どもに接する者としてのあり方を学ぶ。

【授業方法】

実習の意義や目的を理解していくと共に実習生としての心構えを身につける。具体的には、①実際に現場の保育を観察し、DVD などで幼稚園の一日の流れや幼稚園教諭の仕事を観て現場の様子も把握していく。②指導計画の立案の仕方を学び、指導案を作成した後、OHC を利用し、ポイントの共有をしていく。③作成したものを子ども役と保育者役を演じながら、実践し、イメージを膨らましたりしながら、学んでいく。授業後、コメントを提出したり、質問を受けたりしながら、全体が理解できているか確認しながら進めていく。指導案の作成には自主的に教材研究を行い、実技を練習するなど日頃の取り組みが必要であり、授業内容を充実させるためにも大切となる。1年次には部分実習での指導案の作成と実践力を養う。授業全般を通して幼稚園での現場経験のある実務家教員が、保育、幼児教育現場ですぐに活かせるような実践的な取り組みを行う。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	○	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で質問を受け、みんなで共有していく。また、アクションペーパーなどで習熟度や質問事項を把握し、次回の授業に反映する。また実習関係書類及び指導案等においては、個別に対応する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	ガイダンス(実習の意義、幼稚園教育が目指すもの)、個人票の作成(下書き)、 実習課題作成(個人)、幼稚園の一日	前徳・益田
第 2 回	実習生の心構え、実習説明・諸注意、行事予定表の作成、お礼状の書き方、オリエンテーションについて	前徳・益田
第 3 回	実習日誌の位置づけ、実習日誌の書き方(気づきを記録する、幼稚園教諭の一日(前半)	前徳・益田
第 4 回	実習日誌の位置づけ、実習日誌の書き方(気づきを記録する、幼稚園教諭の一日(後半)	前徳・益田
第 5 回	保育の質を高める 指導計画の立案①(指導案作成の意味)、②(環境構成、子どもの活動、保育者の援助・留意点)	前徳・益田
第 6 回	保育の質を高める 指導計画の立案③(指導計画の省察、④(まとめ・保育実践にむけての教材研究)	前徳・益田
第 7 回	実習直前指導(教育実習(幼稚園)前半の目的と取り組み方、実習にむけての心構 え、報告・連絡・相談の行い方、訪問担当教員による実習生としての準備状況の確認)	前徳・益田
第 8 回	技能や実践的能力を磨く 部分実習指導(模擬保育と振り返り)①実習課題の意味と書き方、①実習課題の提出)	前徳・益田
第 9 回	技能や実践的能力を磨く 部分実習指導(模擬保育と振り返り)②実習課題の意味と書き方、②実習課題の提出)＊実習に向けての準備	前徳・益田
第 10 回	技能や実践的能力を磨く 部分実習指導(模擬保育と振り返り)③報告書の意義と作成方法について＊実習に向けての準備	前徳・益田
第 11 回	技能や実践的能力を磨く 部分実習指導(実践と振り返り)④ねらいの位置づけと作成方法について＊実習に向けての準備	前徳・益田
第 12 回	実習体験全体報告会(実習体験に基づく、他の実習生との実習園の様子や実習生の取り組みの相互理解、訪問担当教員による助言)	前徳・益田
第 13 回	指導計画と実習日誌のまとめ、教職課程履修カルテ作成	前徳・益田
第 14 回	ガイダンス(実習の意義、幼稚園教育が目指すもの)、個人票の作成(下書き)、 実習課題作成(個人)、幼稚園の一日	前徳・益田
第 15 回	実習の振り返り(実習生ごとの実習体験の振り返り。実習による成果と課題の整理)	前徳・益田
定期試験	レポート試験	前徳・益田

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(40%)＋授業内提出物(40%)＋授業への参加態度(20%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園・保育所・認定こども園 実習パーフェクトガイド 改訂版	小櫃 智子	わかば社	978-4-907270-41-4
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド 改訂版	小櫃智子	わかば社	978-4-907270-43-8
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3
映像で学ぶ幼稚園(認定こども園)教育実習のための「指導案」と「日誌」の書き方	大海 由佳 前徳 明子	新宿スタジオ	978-4-904281-20-8

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81447-5
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成 30 年 3 月	内閣府・文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81449-9

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

テキスト及び幼稚園教育要領解説等を熟読すること。指導案の作成、そのための保育教材準備、模擬保育の準備と練習等がある。また課題提出や実習事前事後に必要な書類作成等も含め、授業内で適宜指示する。

標準学修時間の目安:1 回の授業あたり予習・復習・宿題等を含めて 30～60 分程度が望ましい。

【備考】

各自ボランティアなど積極的に行い、現場の様子や子ども達との関わりを体験しておくことが大切である。「実習ガイドブック(本学発行)」「自己実現ノート(本学発行)」は授業で使用する。

専門科目

科 目 名	教育実習(幼稚園) 事前事後指導Ⅱ*	担当者名	前徳明子* 益田かな子* (実習訪問担当) 真砂雄一 浅香勉 栗本浩二 奥恵* 八田清果 浅野路子 蓮見絵里 熊上藤子	
ナンバリングコード	26010			
必選・単位	選択1単位(幼2免必修)	担当形態	複数・オムニバス	
授業方法	実習	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	3年前期

【授業の概要】

教育実習の後半の実施にあたり、前半での課題を改善し、さらなる幼児教育者に必要な知識や技能を身につけていく。そして、前半の反省をいかした実習日誌の作成、部分実習・全日実習を行うための指導案作成と、それに基づく実践ができるようになる。事後には、しっかりと実習中の振り返りを行い一人一人と面談を行っていき、自己評価と照らし合わせて課題を明確にする。また、幼児教育者としての責任ある立場で子どもに接する者としてのあり方や幼稚園教諭の専門性と職業倫理についても理解していく。

【授業の到達目標】

1 幼稚園の現場実習に臨むための総合的な準備学習と、実習を終えての総括学習を行い、実習を円滑に行い、意義深いものとすることができるようにする。

2 実習日誌の作成、部分実習・全日実習を行うための指導案作成と、それに基づく実践ができるようになる。

3 実習後の課題を明確にし、保育者に必要な知識や方法と技術をさらに深めていく。

4 責任ある立場で子どもに接する者としてのあり方を学ぶ。

5 幼稚園教諭の専門性と職業倫理について理解する。

【授業方法】

実習の意義や目的を理解していくと共に実習生としての心構えを身につける。具体的には、①実際に現場の保育を観察し、DVD などで幼稚園の一日の流れや幼稚園教諭の仕事を観て現場の様子も把握していく。②指導計画の立案の仕方を学び、指導案を作成した後、OHC を利用し、ポイントの共有をしていく。③作成したものを子ども役と保育者役を演じながら、実践し、イメージを膨らましたりしながら、学んでいく。授業後、コメントを提出したり、質問を受けたりしながら、全体が理解できているか確認しながら進めていく。指導案の作成には自主的に教材研究を行い、実技を練習するなど日頃の取り組みが必要であり、授業内容を充実させるためにも大切となる。2 年次には責任実習に向けて指導案の作成と実践力を養う。授業全般を通して幼稚園での現場経験のある実務家教員が、保育、幼児教育現場ですぐに活かせるような実践的な取り組みを行う。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	○	○	○	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で質問を受け、みんなで共有していく。また、アクションペーパーなどで習熟度や質問事項を把握し、次回の授業に反映する。また実習関係書類及び指導案等においては、個別に対応する。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	全日実習の意義と具体的な準備について(個人票・出勤簿等の作成)①(3 歳児におけるポイントと留意点)	前徳・益田
第 2 回	全日実習の意義と具体的な準備について目的と課題の設定と作成②(4、5歳児におけるポイントと留意点)	前徳・益田
第 3 回	主活動以外の指導案の流れ(朝の会、昼食、帰りの会)	前徳・益田
第 4 回	遊びの際の確認事項＊模擬保育・実習に向けての準備	前徳・益田
第 5 回	指導計画作成の準備(グループワーク)＊模擬保育・実習に向けての準備	前徳・益田
第 6 回	保育実践力を身につける全日実習(主活動)指導(模擬保育と振り返り)①立案・実践・課題発見＊実習に向けての準備	前徳・益田
第 7 回	保育実践力を身につける全日実習(主活動)指導(模擬保育と振り返り)②立案・実践・課題発見＊実習に向けての準備	前徳・益田
第 8 回	保育実践力を身につける全日実習(主活動)指導(模擬保育と振り返り)③立案・実践・課題発見＊実習に向けての準備	前徳・益田
第 9 回	保育実践力を身につける全日実習(主活動)指導 まとめと省察(指導計画及び実践における評価と課題への取り組み*実習に向けての準備)	前徳・益田
第 10 回	実習直前指導(第 2 期教育実習の目的と取り組み方の確認、実習生として実習に臨む姿勢の確認、訪問担当教員による実習準備状況の確認)	前徳・益田
第 11 回	保育者の資質・能力を発展させる(指導計画の立案)保育者の資質・能力を発展させる(日誌作成時の視点)	前徳・益田
第 12 回	保育者の資質・能力を発展させる(日誌作成時の視点)	前徳・益田
第 13 回	保育者の資質・能力を発展させる(全日実習)前半 登園～昼食までの留意点	前徳・益田
第 14 回	保育者の資質・能力を発展させる(全日実習)後半 昼食～降園までの留意点	前徳・益田
第 15 回	実習全体報告会(実習体験に基づく、他の実習生との実習園の様子や実習生の取り組みの相互理解。訪問担当教員による助言。保育者としての自己課題への気付き)	前徳・益田
定期試験	レポート試験	前徳・益田

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(40%)＋授業内提出物(40%)＋授業への参加態度(20%)＝合計(100%)

【テキスト】

書 名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園・保育所・認定こども園 実習パーフェクトガイド 改訂版	小櫃 智子	わかば社	978-4-907270-41-4
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド 改訂版	小櫃智子	わかば社	978-4-907270-43-8
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3
映像で学ぶ幼稚園(認定こども園)教育実習のための「指導案」と「日誌」の書き方	大海 由佳 前徳 明子	新宿スタジオ	978-4-904281-20-8

【参考文献】

書 名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81447-5
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成 30 年 3 月	内閣府・文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81449-9

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

テキスト及び幼稚園教育要領解説等を熟読すること。指導案の作成、そのための保育教材準備、模擬保育の準備と練習等がある。また課題提出や実習事前事後に必要な書類作成等も含め、授業内で適宜指示する。

標準学修時間の目安:予習・復習・宿題等を含めて 60～120 分程度が望ましい

【備考】

各自ボランティアなど積極的に行い、現場の様子や子ども達との関わりを体験しておくことが大切である。「実習ガイドブック(本学発行)」「自己実現ノート(本学発行)」は授業で使用する。

専門科目

科 目 名	教育実習(幼稚園) I *	担当者名	前徳明子* 益田かな子* (実習訪問担当) 真砂雄一 浅香勉 栗本浩二 奥恵* 八田清果 浅野路子 蓮見絵里 熊上藤子	
ナンバリングコード	26011			
必選・単位	選択2単位(幼2免必修)	担当形態	オムニバス・複数	
授業方法	実習	開講年次・時期	2年制コース	1年後期
			長期履修生	2年後期

【授業の概要】

教育実習(幼稚園)は、幼稚園教諭二種免許状を取得するために必要な必修科目であり、学外(幼稚園または認定こども園)で実習を行う科目である。 幼稚園または認定こども園で、子どもや幼稚園教諭と共に過ごすことにより、幼稚園の役割や業務内容、環境構成 などについて見学・観察する。また、参加実習・部分実習を通し、子どもとの関わり合いから子どもへの理解を深めると 共に、幼稚園教諭としての適性について考える。

【授業の到達目標】

1 幼稚園と幼稚園教育の基本を理解する。
2 観察実習、子どもとのかかわりなどを通して、子ども理解を発展させる。
3 実習日誌の作成、保育計画や指導計画の立案、観察記録の作成方法などを理解する。
4 参加実習を行い、保育の方法と技術を実地に学ぶ。
5 家庭との連携や対応の仕方について知る。 幼稚園教諭の職務と職業倫理について理解する。幼稚園教諭の使命を自覚し、求められる資質・能力について理解を深める。

【授業方法】

幼稚園または認定こども園で 80 時間の実習を行う。見学・観察・参加・部分実習を行い、園の1日の流れや幼稚園教諭の職務内容などについて知る。また園の環境について学ぶことで、安全への配慮についても理解する。
幼稚園での現場経験がある実務家教員が、教育実習(幼稚園)内容全般をサポートできる体制をとる。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	—	—	—	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

教育実習(幼稚園)事前事後指導 I 」での振り返りを通した指導や、実習後の実習日誌や評価表における実習 先のコメント・評価、それを受けての訪問担当教員による個別指導をもって、フィードバックとする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

実習の内容	担当者名
教育実習(幼稚園) I (2 年制コース:1 年次 11 月／長期履修生:2 年次 11 月) 内容:見学・観察・参加・部分実習 ≪実習開始前≫ 事前学習／オリエンテーション (1)幼稚園や認定こども園の役割や現状についての知識を深める (2)幼稚園や認定こども園の意義や動機・目的を明確化する ①実習先(オリエンテーションの日程を含め)の確認 ②マナーなどの実習に関する基本的な事項の確認 ③実習課題の設定、実習に関する準備等を行う	授業担当者全員
≪実習期間中≫ 1.実施時期:2 年制コース:1 年次 11 月／長期履修生:2 年次 11 月 2.内容 (1)見学・観察により、以下のことを理解する ①施設概要 ②役割と機能 ③組織 ④環境構成 ⑤業務内容 ⑥子どもの生活や遊び ⑦幼児の発達の姿 ⑧実習日誌の作成 ⑨省察と自己評価の方法 等 (2)参加・部分実習により、以下のことを理解する ①指導計画の立案 ②保育の方法と技術 ③安全及び疾病予防 ④家庭や地域との連携 等 3.2 を通して (1)幼稚園教諭の職務内容と職業倫理を理解する (2)自らの学びについて専門職として働く際の検証の機会とともに、自己の学習・資質能力を検証・ 点検することでさらに今後の学修に役立てるようにする	授業担当者全員
≪実習終了後≫ (1)実習の実施後、幼稚園教諭としての資質(知識、態度、技能等)の修得の可否について確認する (2)実習体験の振り返り、報告会等を通して、実習で得た事項について確認する	授業担当者全員

【成績評価の方法・基準】

実習先の評価(70%)＋実習日誌(20%)＋実習の総括点(10%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園・保育所・認定こども園 実習パーフェクトガイド 改訂版	小櫃 智子	わかば社	978-4-907270-41-4
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド 改訂版	小櫃 智子	わかば社	978-4-907270-43-8
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3
映像で学ぶ幼稚園(認定こども園)教育実習のための「指導案」と「日誌」の書き方	大海 由佳 前徳 明子	新宿スタジオ	978-4-904281-20-8

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81447-5
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成 30 年 3 月	内閣府・文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81449-9

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

保育ボランティアなどを進んで行うことが望ましい。年齢別や活動別の指導案の作成や保育教材等も含め、実習に向けた準備をする。また絵本の読み聞かせを行う際の絵本選びや紙芝居においても、早めに選んでおくこと。実習中は実習日誌への記入時間が毎日必要となる。オリエンテーション報告者や実習報告書等の作成も含む。

標準学修時間の目安:各自、実習の状況により異なるが、1 日の活動あたり 120 分～240 分程度が目安

【備考】

実習中に欠席・遅刻をしないことはもちろんのこと、普段の学校生活においても生活習慣を整えることができるように心がけること。「実習ガイドブック(本学発行)」は実習期間中、確認できるように保管すること。

専門科目

科 目 名	教育実習(幼稚園)Ⅱ*	担当者名	前徳明子* 益田かな子* (実習訪問担当) 真砂雄一 浅香勉 栗本浩二 奥恵* 八田清果 浅野路子 蓮見絵里 熊上藤子	
ナンバリングコード	26012			
必選・単位	選択2単位(幼2免必修)	担当形態	オムニバス・複数	
授業方法	実習	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	3年前期

【授業の概要】

前回実習で学んだ基本的内容を踏まえ、積極的に活動に参加し、保育の理論と技術を総合的に体験することによって、幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を修得する。

【授業の到達目標】

1 幼稚園と幼稚園教育についての理解をさらに深める。
2 観察実習、子どもとのかかわりなどを通して、子ども理解を深め、発展させる。
3 実習日誌の作成、保育計画や指導計画の立案、観察記録の作成方法などを、いっそう深く理解する。
4 参加実習などに取り組み、幼児教育の方法と技術を実地に深く学ぶ。
5 実習の総仕上げとして責任実習を行い、幼稚園教育の本格的な実践を体験し、学習する。
6 家庭や地域との連携を知り、理解を深める。
7 幼稚園教諭の職務と社会的使命について理解を深める。
8 教育実習(前半実習及び後半実習)の総括と評価を行い、今後の課題を明確にする。

【授業方法】

幼稚園または認定こども園で 80 時間の実習を行う参加・指導(部分・半日・全日)実習を行い、実際に保育の指導計画の立案と実施を行うことで、保育の理論と技術を総合的に体験する。学校で行った教材研究の重要性を学び、成果に繋げる。幼稚園での現場経験がある実務家教員が、教育実習(幼稚園)内容全般をサポートできる体制をとる。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 :
	—	—	—	○	

【課題に対するフィードバックの方法】

教育実習(幼稚園)事前事後指導Ⅱ」での振り返りを通した指導や、実習後の実習日誌や評価表における実習先のコメント・評価、それを受けての訪問担当教員による個別指導をもって、フィードバックとする。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	◎
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	◎
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	○
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	△

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

実習の内容	担当者名
教育実習(幼稚園)(後半) 2 年制コース:2 年次 6 月／長期履修生:3 年次 6 月　内容:参加・指導(部分・半日・全日)実習 ≪実習開始前≫ 事前学習／オリエンテーション (1)幼稚園や認定こども園の役割や現状についての知識を深める (2)幼稚園や認定こども園の意義や動機・目的を明確化する ①実習先(オリエンテーションの日程を含め)の確認 ②マナーなどの実習に関する基本的な事項の確認 ③実習課題の設定、実習に関する準備等を行う	授業担当者全員
≪実習期間中≫ 1.実施時期:2 年制コース:2 年次 6 月／長期履修生:3 年次 6 月　2.内容 (1)見学・観察により、以下のことを理解する ①施設概要 ②役割と機能 ③組織 ④環境構成 ⑤業務内容 ⑥子どもの生活や遊び ⑦幼児の発達の姿 ⑧実習日誌の作成 ⑨省察と自己評価の方法 等 (2)参加・指導実習により、以下のことを理解する ①指導計画の立案 ②保育の方法と技術 ③安全及び疾病予防 ④家庭や地域との連携 等 3.2 を通して (1)幼稚園教諭の職務や社会的使命について理解を深める (2)職業倫理を具体的に学び理解を深める	授業担当者全員
≪実習終了後≫ (1)実習体験を振り返り、意見交換に取り組む (2)幼稚園教諭に求められる資質・能力に照らし合わせて、自己課題を明確化する	授業担当者全員

【成績評価の方法・基準】

実習先の評価(70%)＋実習日誌(20%)＋実習の総括点(10%)＝合計(100%

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園・保育所・認定こども園 実習パーフェクトガイド 改訂版	小櫃 智子	わかば社	978-4-907270-41-4
実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド 改訂版	小櫃 智子	わかば社	978-4-907270-43-8
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3
映像で学ぶ 幼稚園(認定こども園) 教育実習 における主活動の 「指導案」と「細案」の書き方	大海 由佳 前徳 明子	新宿スタジオ	978-4-904281-22-2

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81447-5
幼保連携型認定こども園教育・保育 要領解説 平成 30 年 3 月	内閣府・文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81449-9

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

保育ボランティアなどを進んで行うことが望ましい。 年齢別や活動別の指導案の作成や保育教材等も含め、実習に向けた準備をする。また絵本の読み聞かせを行う際の絵本選びや紙芝居においても、早めに選んでおくこと。実習中は実習日誌への記入時間が毎日必要となる。オリエンテーション報告者や実習報告書等の作成も含む。

標準学修時間の目安: 各自、実習の状況により異なるが、1 日の活動あたり 120 分～240 分程度が目安

【備考】

実習中に欠席・遅刻をしないことはもちろんのこと、普段の学校生活においても生活習慣を整えることができるように心がけること。「実習ガイドブック(本学発行)」は実習期間中、確認できるようにすること。

専門科目

科 目 名	保育キャリア形成演習Ⅰ	担当者名	髙橋　美枝	
ナンバリングコード	27001			
必選・単位	選択 1 単位	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	1年後期
			長期履修生	2年後期

【授業の概要】

卒業後の進路や就職先の選択に向けて、学生生活をどう過ごし、何を学ぶのかを考える。保育キャリア形成演習Ⅰでは、自己理解とともに、公務員を目指すための学習方法を学び、専門試験の模擬問題を解き、エントリーシート対策を行い、面接試験に向けた準備を行うことで、試験へのアプローチの方法を検討する。また、保育士の仕事についての理解を深め、公務員試験準備を行う。

【授業の到達目標】

1　キャリア形成と生涯学習について学び、生涯を通じた就業力を育てる。

2　公務員保育士を目指し、筆記試験対策を行い、公務員試験合格にむけた基礎知識を身につける。

3　保育士という職業について考え、面接試験にも通用する自己表現力を身につける。

【授業方法】

就職を意識して継続的に取り組んでいくために、保育士の仕事内容について理解を深める。そのために、ゲストスピーカーを招き、現場での事例や現状などについて学ぶ機会を設ける。また、具体的な試験対策として、公務員試験対策の問題集を解くなどして、学習方法をアドバイスし、読解力や記述力を養う。毎回の授業では、模擬問題を解くことを中心に行い、理解の定着を図る。授業を通して、公務員試験受験に向けた心構えを養い、試験に向けた準備を進めるとともに、目標を明らかにし、面接試験にも適用する自己表現力を身につける。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

各回のリアクションペーパーや提出物には添削指導を行った上で返却し、フィードバックを行う。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	◎
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	◎

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	自己理解:自分自身を知る～自己管理と学習計画	髙橋
第 2 回	専門試験:保育所保育指針① エントリー試験対策 面接試験編①:自己表現力とは？	髙橋
第 3 回	専門試験:保育所保育指針② エントリー試験対策 面接試験編②:志望の動機1	髙橋
第 4 回	専門試験:社会福祉① エントリー試験対策 面接試験編③:志望の動機2	髙橋
第 5 回	公務員保育士の仕事とは	髙橋
第 6 回	専門試験:社会福祉② エントリー試験対策 面接試験編④:将来の保育士像1	髙橋
第 7 回	専門試験:子ども家庭福祉① エントリー試験対策 面接試験編⑤:将来の保育士像2	髙橋
第 8 回	専門試験:子ども家庭福祉② エントリー試験対策 面接試験編⑥:自己アピール1	髙橋
第 9 回	専門試験:子どもの保健① エントリー試験対策 面接試験編⑦:自己アピール2	髙橋
第 10 回	小論文試験対策	髙橋
第 11 回	政策理解	髙橋
第 12 回	政策理解	髙橋
第 13 回	専門試験:子どもの保健① 面接試験編⑧:自分の弱点をどう伝えるか	髙橋
第 14 回	専門試験:保育の心理学① 面接試験編⑨:行政に携わる視点	髙橋
第 15 回	専門試験:保育の心理学② 面接試験編⑩:グループ面接対策	髙橋
定期試験	レポート試験	髙橋

【成績評価の方法・基準】

定期試験レポート(30%)＋授業内課題(60%)＋授業への積極性(10%)＝合計(100%)

【テキスト】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
授業内で適宜配布			

【参考文献】

書　名	著者名	出版社	ISBN コード
保育士採用試験重要ポイント＋問題集 '27 年度版	近喰晴子／コンデックス情報研究所	成美堂書店	978-4-4152-4062-6
幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉 幼児期までのこどもの育ちに係る 基本的なビジョン 令和5年度最新版	チャイルド本社	チャイルド本社	978-4-8054-0330-3

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

毎回授業の復習を行うこと。公務員試験に向けて、計画的な学習を進めていく。

標準学修時間の目安:1回の授業あたりの予習・復習・家庭学習課題を含めて、60～90 分程度が望ましい。

【備考】

目的と課題意識を持って授業に取り組むこと。授業は基本的に演習形式であるので、各自の積極的な取り組みが求められる。苦手な分野の学習であっても、克服を目指して取り組む姿勢が大切である。

専門科目

科 目 名	保育キャリア形成演習Ⅱ	担当者名	髙橋　美枝	
ナンバリングコード	27002			
必選・単位	選択1単位	担当形態	単独	
授業方法	演習	開講年次・時期	2年制コース	2年前期
			長期履修生	3年前期

【授業の概要】

卒業後の進路や就職先選択に向けて、学生生活をどう過ごし、何を学ぶかを考える。保育キャリア形成演習Ⅱでは、公務員を目指すための学習方法を学び、保育士専門試験等について模擬問題を解き、小論文対策、面接試験対策を行うことで、試験へのアプローチの方法を検討する。さらに、将来どのような人生を送りたいのかについて長期的に計画し、そおために必要な知識、技能、態度を育みながら自己実現に向けて総合的に考える。

【授業の到達目標】

1　専門的職業活動に活かすための人生設計を計画し、自己実現へ繋げる。

2　人的環境である保育者としての役割や子どもに与える影響について考察する。

3　自己の特性を探り保育活動を計画し実施することで得意分野を知り、質の高い技術を修得する。

【授業方法】

就職を意識して学生生活を送っていくために、保育者の仕事内容について理解を深める。その上で、具体的な試験対策として公務員対策の模擬問題を解くなどして、必要な学習方法についての理解を深め、読解力や記述力を養う。さらに、小論文試験対策、面接試験対策の仕上げを行う。これまでの保育活動を振り返り、課題を明確にすることで、今後の保育現場で役立てることのできる知識・技術を積極的に培っていく。

アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	プレゼンテーション	ディスカッション ディベート	実習 フィールドワーク	その他 ：
	○	○	○	―	

【課題に対するフィードバックの方法】

各回のリアクションペーパーや提出物は添削指導を行った上で返却し、フィードバックを行う。

【学習成果】

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	○
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	○
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	◎
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	◎

【先行履修科目】

なし

【授業計画】

回数	テーマ	担当者名
第 1 回	オリエンテーション:自己の「保育観」の探究、自己管理と学習計画	髙橋
第 2 回	公務員試験の 2026 年度の動向把握と、応募先の検討	髙橋
第 3 回	専門試験対策①:子どもの食と栄養① 面接試験対策①:志望理由、自己 PR	髙橋
第 4 回	専門試験対策②:子どもの食と栄養② 面接試験対策②:行政に携わる視点1	髙橋
第 5 回	専門試験対策③:保育原理① 面接試験対策③:行政に携わる視点2	髙橋
第 6 回	専門試験対策④:保育原理② エントリーシートの作成 履歴等	髙橋
第 7 回	専門試験対策⑤:教育原理① エントリーシートの作成 自治体独自項目1	髙橋
第 8 回	専門試験対策⑥:教育原理② エントリーシートの作成 自治体独自項目2	髙橋
第 9 回	専門試験対策⑦:保育内容① 小論文試験対策① 意欲と専門性	髙橋
第 10 回	専門試験対策⑧:保育内容② 小論文試験対策② 公務員として働くことに関する問題	髙橋
第 11 回	専門試験対策⑨:時事問題にみる保育の課題 小論文対策③ 社会問題に関する問題	髙橋
第 12 回	面接試験対策④:保育現場に関する問題を考える1	髙橋
第 13 回	面接試験対策⑤:保育現場に関する問題を考える2	髙橋
第 14 回	全体のまとめ① 自己弱点への気づきと取り組み	髙橋
第 15 回	全体のまとめ② 保育キャリア形成の課題	髙橋
定期試験	レポート試験	髙橋

【成績評価の方法・基準】

定期試験(レポート)(50%)＋授業への取り組み(30%)＋家庭学習課題(20%)＝合計(100%)

【テキスト】

書 名	著者名	出版社	ISBN コード
授業中に適宜資料を配付する。			

【参考文献】

書 名	著者名	出版社	ISBN コード
公立保育士・幼稚園教諭対応 保育専門 テキスト&問題集 2027年度版	PSES 公務員試験セミナー編	有限会社パブリックサービス	978-4-909556-08-0
保育士採用試験重要ポイント＋問題集 27 年度版	近喰晴子／コンデックス情報研究所	成美堂書店	978-4-4152-4062-6

【授業時間外学習(予習・復習・準備学習等)】

毎回授業の復習を行うこと。公務員試験に向けて、主体的に取り組む。

標準学修時間の目安:1回の授業あたりの予習・復習・家庭学習課題を含めて 30～60 分程度が望ましい。

【備考】

計画的に学習に取り組む。

実務家教員一覧

実務家教員とは、現場において取り扱われている生きた知識・技能等を教授するため、専攻分野における実務の経験を有し、かつ高度な実務の能力を有する教員のことをいいます。

実務家教員が担当する授業には、各シラバスにおいて授業科目名の右上に＊（アスタリスク）のマークを付けています。さらに、実務家教員としての立場で授業を担当する授業担当者名の右上にも＊（アスタリスク）のマークを付けています。本学において実務家教員として授業を担当する教員の経歴と担当する授業科目名は以下の通りです。

教員名	実務の経験	実務家教員として担当する授業
浅香勉	児童養護施設における実務経験あり	社会福祉、社会的養護Ⅰ、社会的養護Ⅱ
栗本浩二	幼児絵画教室における実務経験あり	幼児と造形表現Ⅰ、幼児と造形表現Ⅱ、幼児と造形表現Ⅲ、幼児と造形表現Ⅳ、保育内容（造形表現）指導法
前徳明子	幼稚園における実務経験あり	絵本とアート、幼児と環境、こども文化Ⅰ、こども文化Ⅱ、保育内容（環境）指導法、保育技能Ⅰ、教育実習（幼稚園）事前事後指導Ⅰ、教育実習（幼稚園）事前事後指導Ⅱ、教育実習（幼稚園）Ⅰ、教育実習（幼稚園）Ⅱ
真砂雄一	保育園における幼児体育指導員、小学校における体育テクニカルアドバイザー、高等学校教諭（保健体育）としての実務経験あり	体育理論、幼児と健康Ⅰ、幼児と健康Ⅱ、保育内容（健康）指導法、保育内容（身体表現）指導法
とよたかずひこ	絵本作家としての実務経験あり	絵本とアート
奥恵	幼稚園における実務経験あり	絵本とアート、幼児と環境、保育内容総論、教育実習（幼稚園）事前事後指導Ⅰ、教育実習（幼稚園）事前事後指導Ⅱ、教育実習（幼稚園）Ⅰ、教育実習（幼稚園）Ⅱ
浅野路子	公認心理師、臨床心理士、臨床発達心理士としての実務経験あり	子ども家庭支援論、教育心理学、子ども理解の理論と方法
熊上藤子	公認心理師としての実務経験あり	子ども家庭支援の心理学、教育相談
益田かな子	保育施設及び幼稚園における実務経験あり	保育内容（人間関係）指導法、 保育・教職実践演習 （幼稚園）、教育実習（幼稚園）事前事後指導Ⅰ、教育実習（幼稚園）事前事後指導Ⅱ、教育実習（幼稚園）Ⅰ、教育実習（幼稚園）Ⅱ
新井惠美子	保育施設における実務経験あり	乳児保育Ⅰ、乳児保育Ⅱ

大木寛人	高等学校教諭(保健体育)としての実務経験あり	体育実技、子どもの健康と安全
荻野昌秀	公認心理師、臨床心理士としての実務経験あり	特別支援教育
グルンデル教子	保育施設における英語での実務経験あり	英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ
松本卓也	保育所における実務経験あり	情報機器演習Ⅰ、情報機器演習Ⅱ
門脇真利奈	栄養士養成施設及び高等学校教諭としての実務経験、保育所での食育指導の実務経験あり	子どもの食と栄養
吉濱優子	幼稚園・保育所における実務経験あり	教育原理

2026.4.1

埼玉東萌短期大学 「卒業認定・学位授与の方針」と「学習成果」及びその対応関係

1. 埼玉東萌短期大学「卒業認定・学位授与の方針」

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

埼玉東萌短期大学幼児保育学科は、「以愛為人」の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓を心に刻み、幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養い、保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育み、子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解し、保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につけ、学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨いて、生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培い、保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献する基礎を身につけ、高度情報化社会、知識基盤社会に必要な人間力(課題発見・課題解決能力やコミュニケーション能力、自己啓発力、共働の精神、倫理観・規範意識、社会性と礼節の修得など)の基本となる能力を身につけた者に、卒業を認定し短期大学士(保育学)の学位を授与する。

2. 埼玉東萌短期大学「学習成果」

埼玉東萌短期大学幼児保育学科では、総合的な教育課程を通して、以下の学習成果を達成する。

① 「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。
② 幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。
③ 保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。
④ 子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。
⑤ 保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。
⑥ 学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。
⑦ 生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。
⑧ 保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。

3.　埼玉東萌短期大学「卒業認定・学位授与の方針」と「学習成果」の関係

埼玉東萌短期大学幼児保育学科の教育課程により、8つの学習成果を達成することにより、埼玉東萌短期大学が定めた卒業認定・学位授与の方針に基づいて、短期大学士(保育学)の学位を授与する。8つの学習成果と卒業認定・学位授与の方針の評価対象は以下の対応関係にある。

学習成果		対応する卒業認定・学位授与の方針
①	「以愛為人」の建学の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓の意味を学ぶ。	a, i
②	幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。	b, i
③	保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。	c, i
④	子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。	d, i
⑤	保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。	e, i
⑥	学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。	f, i
⑦	生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。	g, i
⑧	保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献することができる人間となる。	h, i

卒業認定・学位授与の方針	
a	「以愛為人」の精神と「自尊」「創造」「共生」の学校訓を心に刻む。
b	幅広く深い教養と総合的な判断力の基礎を養う。
c	保育・幼児教育への使命感と子どもへの愛情を育む。
d	子ども、保育・幼児教育、社会福祉の本質と現状を具体的に理解する。
e	保育・幼児教育の内容と方法を総合的に身につける。
f	学んだ知識を生かすために専門的及び汎用的な技能や実践的能力を磨く。
g	生涯にわたって自己を啓発していく姿勢を培う。
h	保育・幼児教育の専門家及び社会人として社会に貢献する基礎を身につける。
i	高度情報化社会、知識基盤社会に必要な人間力(課題発見・課題解決能力やコミュニケーション能力、自己啓発力、共働の精神、倫理観・規範意識、社会性と礼節の修得など)の基本となる能力を身につける。

埼玉東萌短期大学　授業概要
２０２６年度版

発行者：埼玉東萌短期大学
〒343-0857　埼玉県越谷市新越谷 2-21-1
Tel.048-987-2345
Fax.048-989-4550
URL https://www.saitamatoho.ac.jp

発行年月日　2026 年 4 月 1 日